

高校 1 年 （国語科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
現代の国語	2	必修	AM・GL	井上隆・田内・早瀬

目 標	・論理的に考える力を伸ばし、共感性や想像性を豊かにし、他者との関わりの中で伝える力を身につける。 ・社会に必要な国語の知識や技能を身につけ、定着させる。 ・言葉が持つ価値を理解し、言葉を通して他者や社会と関わろうとする態度を身につける。		
育 て たい 力	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力、人間性等
	・筋道の立った文章構成を可能にする基礎的な知識の修得 ・誤解なく文章を読み解くために必要な技術の習得	・論理的文章を読み、要点を捉える力を育み、共感性や創造性を養う ・他者との関わりの中で、自分の思いや考えを深める力を養う ・筆者の意見を踏まえながら、自分の意見を書く力を養う	・読書を通して他者の考えにふれ自己を向上させる力を向上させる ・言葉の持つ力を学び、他者への理解や尊重する態度を養う ・それぞれに適した学習方法を確率し自ら学ぼうとする姿勢をもつ

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・川上弘美「境目」 ・内田樹「ことばとは何か」 ・中村桃子「ことばがつくる女と男」	・他者に伝えるための文章を記述する。 ・基礎的な知識と能力を習得する。 ・把握した要点の中から重要度に応じて情報の選択ができる。 ・文章の構造と意義を理解して、自分で表現できる。
2 学期	・堀正岳「わかっていることいないこと」 ・国谷裕子「ポスト真実時代のジャーナリズム」 ・長田弘「会話と対話」	・他者に伝えるための文章を記述する。 ・基礎的な知識と能力を習得する。 ・基本的な型にそった文章構成を身につける。 ・他者の文章を読み、要旨や要点を把握する。
3 学期	・小坂井敏晶「主体という物語」	・基本的な型にそった文章構成を身につける。 ・他者の文章を読み、要旨や要点を把握する。 ・自分の考えを発表し、理解を得る力を養う。

授 業 の 形 態	クラス授業/一斉授業/グループワーク/講義形式
教 科 書	『現代の国語』筑摩書房
副 教 材	『プレミアムカラー国語便覧』数研出版、『読解を深める現代文単語』桐原書店
評 価 の 方 法	平常点 100 点（授業内課題や提出物、小テストを総合的に評価する） （書くこと）単元ごとにテーマを設定し、自分の考えなどを文章化した作品を評価する （聞くこと）単元ごとに設定されるテーマについて作品の発表を聞き、相互に発表し評価する （話すこと）単元ごとに設定されるテーマについて作品を作り、その発表を評価する
備 考	・評価については授業内で随時説明する

高校 1 年 （国語科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
言語文化	2	必修	AM・GL	國分・田内・都築

目 標	・文学的文章の精読及び読解の共有を通じ、読解力及び論理的思考力・批判的思考力の基礎を身につける。 ・古文読解のための基礎的な知識と能力を身につける。 ・古典に表れた思想を踏まえて、自分なりの考え方を形成する能力を身につける。 ・漢文を訓読によって読み解くための基礎的な知識を身につける。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
育てたい力	・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。 ・古文解釈の基本事項や漢文訓読の基本技能を身につけている。	・「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	・言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方や感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。	

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	【古文】古文基礎 ・用言の活用と逐語訳の基礎を学習する。 【古文】宇治拾遺物語「兄のそら寝」 【古文】有名古典作品の冒頭部分 「枕草子」「方丈記」「徒然草」「源氏物語」「平家物語」「奥の細道」など 【現代文】夏目漱石「夢十夜」(小説)	【古文】 ・歴史的仮名遣いの決まりを理解する。・古文解釈の基礎を固める。 ・用言の活用を理解する。 ・基本古語 100 語を暗記し、習得する。 ・有名古典作品の冒頭部分の読解を通して古典の世界の豊かさを理解し、言語文化への造詣を深める。 【現代文】 ・近代明治期の文章を読んで日本語の変遷について理解する。
2 学期	【漢文】漢文基礎 ・訓読の規則、及び基礎的な句形を学習する。 【漢文】「論語」の言葉 【現代文】芥川龍之介「羅生門」(小説)	【漢文】 ・漢文訓読の規則を理解する。・受身形・使役形・否定形を理解する。 ・古来日本人が徳目として重要視してきた「論語」にふれ、孔子の思想を理解する。 【現代文】 ・単語レベルでの本文精読を通じて物語を解釈する力を身につける。 ・読解した内容に基づいて、自説を論理的に記述するための基礎的能力と知識を身につける。
3 学期	【古文】「宇治拾遺物語」「徒然草」などの説話・随筆を用いた読解演習 ・既習知識を活かして本文を逐語的に読解する。読解を踏まえ、調査活動及び資料分析を行い、自らの主張をまとめる。 【古文】伊勢物語「芥川」	【古文】 ・基本助動詞の接続・意味・活用を習得する。 ・本文の逐語訳を通じ、読解力の基礎を身につける。 ・筆者の主張を踏まえて持論を形成し、小論文を執筆する。 ・和歌に込められた思いを読み取る。 ・和歌の修辞法を理解し身につける。

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／グループワーク／講義形式
教 科 書	『言語文化』筑摩書房
副 教 材	『プレミアムカラー国語便覧』数研出版、『解析古典文法』桐原書店、『読解を深める現代文単語』桐原書店、『読んで見て覚える重要古文単語 315』桐原書店
評 価 の 方 法	定期テスト 50%＋平常点 50%（提出課題、語彙ノート、パフォーマンス課題、関心・意欲・態度）
備 考	・1・2 学期を前後半に分け、時期ごとに現古いずれかを集中的に学習する。なお、上記の授業内容は予定である。学習者の実態に応じて授業内容が変更されることがある。

高校 1 年 （国語科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
現代の国語	2	必修	FT	山本聖

目 標	・論理的に考える力を伸ばし、共感性や想像性を豊かにし、他者との関わりの中で伝える力を身につける。 ・社会に必要な国語の知識や技能を身につけ、定着させる。 ・言葉が持つ価値を理解し、言葉を通して他者や社会と関わろうとする態度を身につける。		
育 て たい 力	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力、人間性等
	・筋道の立った文章構成を可能にする基礎的な知識の修得 ・誤解なく文章を読み解くために必要な技術の習得	・論理的文章を読み、要点を捉える力を育み、共感性や創造性を養う ・他者との関わりの中で、自分の思いや考えを深める力を養う ・筆者の意見を踏まえながら、自分の意見を書く力を養う ・問題演習を通し、問われたことに的確に答える力を育む	・読書を通して他者の考えにふれ自己を向上させる力を向上させる ・言葉の持つ力を学び、他者への理解や尊重する態度を養う ・それぞれに適した学習方法を確率し自ら学ぼうとする姿勢をもつ

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・川上弘美「境目」 ・内田樹「ことばとは何か」 ・中村桃子「ことばがつくる女と男」	・他者に伝えるための文章を記述する。 ・基礎的な知識と能力を習得する。 ・把握した要点の中から重要度に応じて情報の選択ができる。 ・文章の構造と意義を理解して、自分で表現できる。
2 学期	・堀正岳「わかっていることいないこと」 ・国谷裕子「ポスト真実時代のジャーナリズム」 ・長田弘「会話と対話」	・他者に伝えるための文章を記述する。 ・基礎的な知識と能力を習得する。 ・基本的な型にそった文章構成を身につける。 ・他者の文章を読み、要旨や要点を把握する。
3 学期	・小坂井敏晶「主体という物語」	・基本的な型にそった文章構成を身につける。 ・他者の文章を読み、要旨や要点を把握する。 ・自分の考えを発表し、理解を得る力を養う。

授 業 の 形 態	クラス授業/一斉授業/グループワーク/講義形式
教 科 書	『現代の国語』筑摩書房
副 教 材	『プレミアムカラー国語便覧』数研出版、『読解を深める現代文単語』桐原書店
評 価 の 方 法	平常点 100%（授業内課題や提出物、小テストを総合的に評価する） （書くこと）単元ごとにテーマを設定し、自分の考えなどを文章化した作品を評価する （聞くこと）単元ごとに設定されるテーマについて作品の発表を聞き、相互に発表し評価する （話すこと）単元ごとに設定されるテーマについて作品を作り、その発表を評価する
備 考	・評価については授業内で随時説明する

高校 1 年 （国語科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
言語文化	2	必修	FT	山本聖

目 標	・文学的文章の精読及び読解の共有を通じ、読解力及び論理的思考力・批判的思考力の基礎を身につける。 ・古文読解のための基礎的な知識と能力を身につける。 ・古典に表れた思想を踏まえて、自分なりの考え方を形成する能力を身につける。 ・漢文を訓読によって読み解くための基礎的な知識を身につける。		
育 て たい 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。 ・古文解釈の基本事項や漢文訓読の基本技能を身につけている。	・「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	・言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方や感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	【古文】古文基礎 ・用言の活用と逐語訳の基礎を学習する。 【古文】宇治拾遺物語「兄のそら寝」 【古文】有名古典作品 「枕草子」「方丈記」「徒然草」「源氏物語」「平家物語」「奥の細道」など 【古文】「宇治拾遺物語」「徒然草」などの説話・随筆を用いた読解演習 ・既習知識を活かして本文を逐語的に読解する。読解を踏まえ、調査活動及び資料分析を行い、自らの主張をまとめる。	【古文】 ・歴史的仮名遣いの決まりを理解する。・古文解釈の基礎を固める。 ・用言の活用、助動詞のはたらきを理解する。 ・古文読解に必要な文法事項を習得する。 ・基本古語 315 語を暗記し、習得する。 ・有名古典作品の読解を通して古典の世界の豊かさを理解し、言語文化への造詣を深める。
2 学期	【現代文】芥川龍之介「羅生門」（小説） 【古文】今昔物語集「羅城門の上層に登りて死人を見る盗人の話」 【漢文】漢文基礎 ・訓読の規則、及び基礎的な句形を学習する。 【漢文】「論語」の言葉	【現代文】 ・読解した内容に基づいて、自説を論理的に記述するための基礎的能力と知識を身につける。 【古文】「羅生門」の元となった古典を読み相違点を見つけ出すことで、筆者の執筆意図を分析するとともに時代的な差異を確認し言語文化の変遷を理解する。 【漢文】 ・漢文訓読の規則を理解する。・受身形・使役形・否定形を理解する。 ・古来日本人が徳目として重要視してきた「論語」にふれ、孔子の思想を理解する。
3 学期	【古文】「宇治拾遺物語」「徒然草」などの説話・随筆を用いた読解演習 ・既習知識を活かして本文を逐語的に読解する。読解を踏まえ、調査活動及び資料分析を行い、自らの主張をまとめる。	【古文】 ・基本助動詞の接続・意味・活用を習得する。 ・本文の逐語訳を通じ、読解力の基礎を身につける。 ・筆者の主張を踏まえて持論を形成し、小論文を執筆する。 ・和歌に込められた思いを読み取る。 ・和歌の修辞法を理解し身につける。

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／グループワーク／講義形式
教 科 書	『言語文化』筑摩書房
副 教 材	『プレミアムカラー国語便覧』数研出版、『解析古典文法』桐原書店、『読解を深める現代文単語』桐原書店、『読んで見て覚える重要古文単語 315』桐原書店
評 価 の 方 法	平常点 100%（提出課題、パフォーマンス課題、関心・意欲・態度）
備 考	・上記の授業内容は予定であり、今後の授業展開や学習者の実態に応じて授業内容が変更されることがある。

高校 1 年 （地歴公民科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
地理総合	2	必修	AM・GL・FT	峯松・華山・角原

目 標	・現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			
育 て たい 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	・世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解する。 ・地図や地理情報システムなどを用い、地理的な情報を調べまとめる技能を身につける。	・地理的因果関係を合理的に理解するにあたってさまざまな観点から考察することができる。 ・世界の人々の生活と環境の多様性を、自然及び社会的条件と関連付けて適切に判断できる。	・地理的な課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。 ・地理的なものの見方を様々な社会事象にも積極的に用いようとする姿勢を身につける。	

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	《地図や地理情報システムでとらえる現代世界》 ・球面と平面、緯度と経度 ・日常生活のなかの地図 ・国家の領域、日本の位置と領域 《国際理解と国際協力》 ・山地における人々の生活 ・平野に展開する人々の生活 ・海岸地形と人々の生活	・現代世界の地域構成を示した様々な地図の読図や、方位、時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きを理解させる。読図を通して世界を概観するとともに、世界的視野から日本の位置、日本の領域をめぐる問題にもふれる。 ・地理情報を地図や地理情報システムを活用し、情報を収集、読み取り、まとめる技能の習得。中学校社会科地理的分野で学習した地球儀や地図の活用に関する技能などの既習事項を踏まえ、作業的で具体的な体験を伴う学習によって興味・関心を喚起し、段階的に地図や GIS を活用した学習を具体化、深化させる。たとえば、「貿易相手国の変容とその要因」、「物流における輸送手段の選択」などの主題を、GIS を活用して地図やグラフで示し、推察したことを文章にまとめたり、発表したりする。
2 学期	・熱帯の気候と生活とのかかわり ・乾燥帯の気候と生活とのかかわり ・温帯の気候と生活とのかかわり ・亜寒帯・寒帯気候の生活とのかかわり ・人口問題の展開と対策 ・食料問題への取り組み ・都市・居住問題 ・エネルギー資源の問題 ・地球温暖化などの地球環境問題	・人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することを理解する。 ・世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、国際連合が定めた持続可能な開発目標（SDGs）などを参考に主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現する。
3 学期	《持続可能な地域づくりと私たち》 ・日本の自然環境 ・地震・津波への対策 ・風水害への対策 ・防災・減災への取り組み ・地域調査	・地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりを理解させる。自然災害としては、地震災害、津波災害、風水害、火山災害などを取り上げ、世界の変動帯の分布と地震や津波、火山活動による災害の関係、地形や気候、土地利用と風水害の関係などを理解するとともに、生徒の生活圏で過去に発生した自然災害についても理解する。 ・ハザードマップや新旧地形図などをもとに情報を収集し、読み取り、まとめる技能を習得させる。 ・生活圏の調査をもとに、地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法などについて理解させる。

授業の形態	主にタブレットを活用したグループワーク・講義 等
教科書	『高等学校 地理総合』 帝国書院
副教材	『新詳高等地図』 帝国書院 『新詳地理資料 COMPLETE 2022』 帝国書院
評価の方法	平常点 100%（レポート課題・主題図の作成・プレゼン・小テスト・単元テストなど）
備 考	・グループワークによるプレゼンテーションを積極的に行う。定期テストは実施しないので、日常の取り組みが評価のすべてとなる。主体的に取り組める姿勢が、最も重要である。 （FT コースについては、共通テスト対策も視野に入れた内容となる）

高校 1 年 （地理歴史科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
歴史総合	2	必修	AM・GL・FT	伊瀬・齋藤・大橋

目 標	・社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を設定・解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を深める。 ・多角的な世界の見方を学ぶことで、立命館の教学理念「平和と民主主義」についての理解を深める。		
育 て たい 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・近現代の歴史に関わる諸事象について、世界と日本を広く相互的な視野から歴史を理解する。 ・諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身につける。	・近現代の歴史の変化に関わる事象の意義、特色などを時期や年代、比較、現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、効果的に説明したりする力を身につける。	・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	1 部 歴史の扉 ・1 章 歴史と私たち ・2 章 歴史の特質と資料 2 部 近代化と私たち ・1 章 江戸時代の日本と結びつく世界 ・2 章 欧米化における近代化 ・3 章 近代化の進展と国民国家形成 ・4 章 アジア諸国の動揺と日本の開国 ・5 章 近代化が進む日本と東アジア	・身近な諸事象が日本や世界の歴史とつながっていることを理解し、歴史への関心を促す。 ・資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解する。 ・18 世紀の日本を含めたアジアにおける、経済と社会を理解すること。 ・産業革命の影響、中国や日本の開港の背景とその影響などに着目して、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などに考察し、表現すること。 ・国民国家や帝国主義の形成の背景や影響などに着目して、アジアとその他の国の政治変革の特徴などを考察し、表現すること。 ・「自由・制限」「平等・格差」「開発・保全」「統合・分化」「対立・協調」の観点から主題を設定し、解決する態度を身につける。
2 学期	3 部 国際秩序の変化や大衆化と私たち ・1 章 第一次世界大戦と日本の対応 ・2 章 国際協調と大衆社会の広がり ・3 章 日本の行方と第二次世界大戦	・第一次世界大戦の展開と日本・アメリカの成長、ソヴィエトの成立、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立を基に、総力戦と国際協調体制を理解すること。 ・大衆の政治参加と大量消費社会と大正文化を、教育の普及とマスメディアの発達を基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解すること。 ・世界恐慌、ファシズム伸長を基に、国際協調体制の動揺を理解すること。 ・第二次世界大戦の原因、展開を考察し、表現すること。
3 学期	・4 章 再出発する世界と日本 第 4 部 グローバル化と私たち ・1 章 冷戦で揺れる世界と日本 ・2 章 多極化する世界 ・3 章 グローバル化のなかの世界と日本	・国際連合、冷戦の始まりとアジアの動向、戦後日本の道程を基に、国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解すること。 ・冷戦下におけるアジア、アフリカ、地域紛争、核兵器の管理などを基に、国際政治の変容を理解する。 ・人と資本の移動、高度情報通信、感染症など、多様な人々の共存を考察することで、グローバル化への問を設定するとともに、考察する。 ・これまでの学習を基に、持続可能な社会の実現を視野に入れ、主題を設定し、多角的、多面的に考察、構想し、表現すること。

授 業 の 形 態	主にタブレットを活用したグループワーク・講義 等
教 科 書	『明解 歴史総合』帝国書院
副 教 材	
評 価 の 方 法	平常点 100%（レポート課題・パフォーマンス課題・小テスト・単元テストなど）
備 考	・グループワークによるプレゼンテーションを積極的に行う。定期テストを実施しないため、日常の取り組みが評価のすべてとなる。主体的に取り組める姿勢が、最も重要である。 （FT コースについては、共通テスト対策も視野に入れた内容となる）

高校 1 年 （数学科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
数学 I	3	必修	AM・GL（中入生）	北村・田中・増井・森岡

目 標	数と式，図形と計量，2 次関数及びデータの分析，図形の性質，いろいろな式について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。		
育 て たい 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	数と式，図形と計量，2 次関数及びデータの分析，図形の性質，いろいろな式についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数式化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論，数の範囲や式の性質に着目し，数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力，図形の構成要素間の関係に着目し，図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する力，社会の事象などから設定した問題について，データの散らばりや変量間の関係などに着目し，適切な手法を選択して分析を行い，問題を解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	数学 I 第 1 章 数と式（復習） 数学 I 第 3 章 2 次関数 （関数とグラフ／2 次関数とグラフ／2 次関数の最大・最小／2 次関数の決定）	・ 中学時の既習内容である基本的な内容を復習する。 ・ 関数とそのグラフについて理解する。また，2 次関数のグラフの特徴について，頂点の平行移動と関連付けて理解し，2 次関数のグラフがかけられるようにする。 ・ 2 次関数の最大値，最小値をグラフを用いて求められるようにし，それを様々な事象の考察に活用できるようにする。また，条件から 2 次関数を決定できるようにする。
2 学期	数学 I 第 3 章 2 次関数 （2 次方程式／2 次関数のグラフと x 軸の位置関係／2 次不等式／絶対値を含む関数のグラフ） 数学 A 第 3 章 数学と人間の活動 （約数と倍数／素数と素因数分解／最大公約数・最小公倍数／整数の割り算／ユークリッドの互除法／1 次不定方程式／記数法／座標の考え方／ゲーム・パズルの中の数学） 数学 I 探究活動（課題学習）	・ 2 次方程式の解について考察し，それを 2 次関数のグラフと x 軸の交点と関連付けて考えることができるようにする。2 次不等式も 2 次関数のグラフと x 軸の関係から考察し，2 次不等式が解けるようにする。 ・ 様々な人間の活動の中から，整数を中心とした数学的な要素を見出し，数学の内容の理解を深めると同時に，現実の事象を数学を用いて考察できるような力を培う。 ・ 学習内容を相互に関連付けた内容を生活と関連付けたり発展させたりするなどして生徒の関心や意欲を高める課題を設け，生徒の主体的な学習を促し，数学のよさを認識できるようにする。
3 学期	数学 II 第 1 章 式と証明 （3 次式の展開と因数分解／二項定理／多項式の割り算／分数式とその計算／恒等式） 数学 I 探究活動（課題学習）	・ 多項式の乗法，除法の計算や，分数式の計算ができるようにする。また，恒等式について方程式と区別して理解し，様々な式の見方ができるような力を培う。 ・ 学習内容を相互に関連付けた内容を生活と関連付けたり発展させたりするなどして生徒の関心や意欲を高める課題を設け，生徒の主体的な学習を促し，数学のよさを認識できるようにする。

授 業 の 形 態	中入高入別／クラス授業／一斉授業／生徒主体授業
教 科 書	『NEXT 数学 I』数研出版，『NEXT 数学 A』数研出版，『NEXT 数学 II』数研出版
副 教 材	『CONNECT 数学 I + A』数研出版，『CONNECT 数学 II + B』数研出版， atama+
評 価 の 方 法	定期考査 60%＋平常点 40%（立守数検，atama+，小テスト，課題など）
備 考	・ 立守数検を活用し，毎学期の振り返りを行う。 ・ AI 教材を活用し，学習内容の習熟を図る。 ・ 放課後に補習を行い，学習内容の定着を図る。

高校 1 年
 （数学科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
数学 I	3	必修	AM・GL(高入生)	吉田・西野

目 標	数と式、図形と計量、2 次関数及びデータの分析、図形の性質、いろいろな式について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。		
育 っ て たい 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	数と式、図形と計量、2 次関数及びデータの分析、図形の性質、いろいろな式についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論、数の範囲や式の性質に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	数学Ⅰ 第 1 章 数と式 （多項式の加法と減法/多項式の乗法/因数分解/実数/根号を含む式の計算/不等式の性質/1 次不等式/絶対値を含む方程式・不等式） 数学Ⅰ 第 2 章 集合と命題 （命題と条件/命題と証明） 数学Ⅰ 第 3 章 2 次関数 （関数とグラフ/2 次関数のグラフ）	・数を実数まで拡張する意義や基本的な概念を理解できる。 ・不等式の解の意味や不等式の性質について理解するとともに、絶対値を含む方程式や不等式が解けるようにする。 ・集合と命題に関する基本的な概念や用語を理解し、集合や命題の概念を活用して事象を考察できる。
2 学期	数学Ⅰ 第 3 章 2 次関数 （2 次関数の最大・最小/2 次関数の決定/2 次方程式/2 次関数のグラフと x 軸の位置関係/2 次不等式） 数学Ⅰ 第 4 章 図形と計量 （三角比/三角比の相互関係/三角比の拡張/正弦定理/余弦定理/正弦定理と余弦定理の活用/三角形の面積）	・2 次関数とそのグラフについて理解し、2 次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できる。
3 学期	数学Ⅰ 第 4 章 図形と計量 （空間図形への活用） 数学Ⅰ 第 5 章 データの分析 （データの整理/データの代表値/データの散らばりと四分位数/分散と標準偏差/2 つの変量間の関係/データの分析を活用した問題解決/仮説検定の考え方） 数学Ⅱ 第 1 章 式と証明 （3 次式の展開と因数分解/二項定理/多項式の割り算/分数式とその計算/恒等式） 数学Ⅰ 探究活動（課題学習）	・統計の基本的な考えや種々の統計量、特にデータの散らばりや相関を表す量について理解し、それらを用いてデータを分析し、様々な判断ができるようにする。また、仮説検定の考え方を理解し、それをもとにした判断ができる。 ・多項式の乗法、除法の計算や、分数式の計算ができるようにする。また、恒等式について方程式と区別して理解し、様々な式の見方ができる。 ・学習内容を相互に関連付けた内容を生活と関連付けたり発展させたりするなどして生徒の関心や意欲を高める課題を設け、生徒の主体的な学習を促し、数学のよさを認識できるようにする。

授 業 の 形 態	中入高入別／クラス授業／一斉授業／生徒主体授業
教 科 書	『NEXT 数学Ⅰ』数研出版、『NEXT 数学Ⅱ』数研出版
副 教 材	『CONNECT 数学Ⅰ＋A』数研出版、『CONNECT 数学Ⅱ＋B』数研出版、 atama+
評 価 の 方 法	定期考査 60％＋平常点 40％（立守数検、atama+、小テスト、課題など）
備 考	・立守数検を活用し、毎学期の振り返りを行う。 ・AI 教材を活用し、学習内容の習熟を図る。 ・放課後に補習を行い、学習内容の定着を図る。

高校1年（数学科）

科 目		単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
数学Ⅰ		5	必修	FT	中川
目 標	・ 数学的活動を通して、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察し表現する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を培う。				
	・ 数を実数まで拡張し、数の概念についての理解を深める。また、文字を用いることや方程式の必要性和意味を理解するとともに、数量の関係や法則などを一般的にかつ簡潔に表現して処理したり、方程式を用いたりする能力を培う。				
	・ 平面図形や空間図形についての観察、操作や実験などの活動を通して、図形に対する直観的な見方や考え方を深めるとともに、論理的に考察し表現する能力を培う。				
	・ 目的に応じて資料を収集して整理し、その資料の傾向を読み取る能力を培う。				
育 て たい 力	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	・ 様々な整式の計算処理ができ、事象の考察に活用する。 ・ 関数のグラフを描き、方程式、不等式を視覚的に表現し、解くことができる。		・ 具体的な計算など文字を用いて一般化し考察する。 ・ 科学的考察に積極的に関数を利用し、論理的に表現することができる。		・ 問題解決の過程を考察し深め、他に解法がないか、評価・改善しようとする態度をもつ。
時期	学習内容・項目			ねらい・目標	
1 学期	数学Ⅰ 第3章 2次関数 (関数とグラフ/2次関数のグラフ/2次関数の最大・最小/2次関数の決定/2次方程式/グラフと2次方程式、グラフと2次不等式) 数学Ⅱ 第1章 式と証明 (3次式の展開と因数分解/二項定理/整式の割り算/分数式とその計算/恒等式)			・ 2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・ 等式や不等式を証明することの意味や方法について学ぶことにより、数学的な考え方や論理的思考力を養い、式と証明についての理解を深める。	
2 学期	数学Ⅱ 第1章 式と証明 (等式の証明/不等式の証明) 第2章 複素数と方程式 (複素数/2次方程式の解と判別式/解と係数の関係/剰余の定理と因数定理/高次方程式) 第3章 図形と方程式 (直線上の点/平面上の点/直線の方程式/2直線の関係/円の方程式/円と直線/2つの円/軌跡と方程式/不等式の表す領域) 第5章 指数関数と対数関数 (指数の拡張/指数関数/対数とその性質/対数関数/常用対数)			・ 等式や不等式を証明することの意味や方法について学ぶことにより、数学的な考え方や論理的思考力を養い、式と証明についての理解を深める。 ・ 方程式の解を発展的にとらえ、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くことや因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。 ・ 座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 ・ 指数関数及び対数関数についてそれらを理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	
3 学期	第4章 三角関数 (一般角と弧度法/三角関数/三角関数の性質/三角関数のグラフ/三角関数の応用/加法定理/加法定理の応用) 第6章 微分法と積分法 (微分係数/導関数とその計算/接線の方程式/関数の増減と極大・極小/関数の増減・グラフの応用/不定積分/定積分/面積)			・ 角の概念を一般角まで拡張して、三角関数及び三角関数の加法定理について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・ 不定積分及び定積分の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の不定積分や定積分を求められる。	
授 業 の 形 態		クラス授業／一斉授業／講義形式			
教 科 書		『NEXT 数学Ⅰ』数研出版、『NEXT 数学Ⅱ』数研出版			
副 教 材		『新課程スタンダード数学Ⅰ+A』数研出版、『新課程スタンダード数学Ⅱ+B』数研出版 『Focus Gold 5thEdition 数学Ⅰ+A』啓林館、『Focus Gold 5thEdition 数学Ⅱ+B』啓林館			
評 価 の 方 法		定期考査 60%＋平常点 40% (問題集用ノート、長期休暇課題、立守数検、小テストなど)			
備 考		・ 夏季・冬季・春季休業中に特別授業を行う。			

高校 1 年 （数学科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
数学 A	2	必修	AM・GL	吉田貴・田中美・森園・細川

目 標	場合の数と確率、指数関数について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。		
育 て た い 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	場合の数と確率、指数関数についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	不確実な事象、関数関係に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	数学 A 準備 集合（復習） 数学 A 第 1 章 場合の数と確率（集合の要素の個数／場合の数／順列／組合せ）	・ 中学時の既習内容である基本的な内容を復習する。 ・ 場合の数を求めるための基本的な考え方について理解する。また、様々な場合の数を求めるための公式について、それを適用するだけにとどまらず、公式が導出される過程についても理解し、様々な場合の数に応用できるような力を培う。
2 学期	数学 A 第 1 章 場合の数と確率（事象と確率／確率の基本性質／独立な試行と確率／条件付き確率） 数学 A 第 2 章 図形の性質（三角形の角の二等分線と辺の比／三角形の外心・内心・重心／チェバの定理・メネラウスの定理／三角形の辺と角／円に内接する四角形／円と直線／2つの円／作図／直線と平面／多面体）	・ 確率の意味とその表し方や性質について理解し、場合の数の求め方を活用するなどして、様々な事象の確率を求められるようにする。また、試行の独立について理解を深め、反復試行の確率や条件付き確率を求められるようにする。さらに、期待値について理解し、それを求められるようにするとともに、様々な判断に用いるような姿勢を養う。 ・ 平面図形の様々な性質について、その証明を含めて理解し、それを様々な事象の考察や、新たな性質の証明などに活用できるような力を培う。 ・ 様々な空間図形の性質について、平面図形との違いにも注目しながら理解し、様々な事象の考察に活用できるようにする。
3 学期	数学 II 第 5 章 指数関数と対数関数（指数の拡張／指数関数）	・ 指数を実数まで拡張する意義を理解し、指数関数を事象の考察に活用できるようにする。

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／生徒主体授業
教 科 書	『NEXT 数学 A』数研出版、『NEXT 数学 II』数研出版
副 教 材	『CONNECT 数学 I + A』、『CONNECT 数学 II + B』数研出版、atama+
評 価 の 方 法	1 学期 定期考査 50%（期末考査のみ）＋平常点 50%（atama+、小テスト、課題など） 2, 3 学期 定期考査 60%＋平常点 40%（立守数検、atama+、小テスト、課題など）
備 考	・ 立守数検を活用し、毎学期の振り返りを行う。 ・ AI 教材を活用し、学習内容の習熟を図る。 ・ 放課後に補習を行い、学習内容の定着を図る。

高校 1 年 （数学科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
数学 A	3	必修	FT	古山

目 標	・場合の数と確率、図形の性質、数学と人間の活動、数列について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。 ・上記の内容について、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を身につける。		
育 て たい 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・場合の数と確率、図形の性質、数学と人間の活動、数列についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に処理したりする技能を身に付ける。	・場合の数と確率、図形の性質、数学と人間の活動、数列について論理的に考察し、表現できる。 ・事象を数学的に考察して表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付ける。	・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度をもち、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断できる。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度をもつ。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	準備 集合 (集合)	・集合に関する基本的な概念を理解するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。
	第 1 章 場合の数と確率 (集合の要素の個数、場合の数、順列、組合せ、事象と確率、確率の基本的性質、独立な試行と確率、条件付き確率、期待値)	・場合の数の基本的な考え方や確率についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。
	第 2 章 図形の性質 (三角形の角の二等分線と辺の比、三角形の外心・内心・重心、チェバの定理・メネラウスの定理、円に内接する四角形、円と直線、2つの円、作図、直線と平面、多面体)	・三角形や円などの平面図形や、空間における直線や平面、多面体などの基本的な性質について理解し、それらを様々な事象の考察に活用できるようにする。
2 学期	第 3 章 数学と人間の活動 (約数と倍数、素数と素因数分解、最大公約数・最小公倍数、整数の割り算、ユークリッドの互除法、1 次不定方程式、記数法、座標の考え方、ゲーム・パズルの中の数学)	・整数の性質及び数学と人間の活動についての理解を深め、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。
3 学期	第 1 章 数列 (数列と一般項、等差数列、等比数列の和、等比数列、等比数列の和、和の記号 Σ 、階差数列、いろいろな数列の和)	・数列の基本的な概念を理解するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／講義形式
教 科 書	『NEXT 数学 A』数研出版、『NEXT 数学 B』数研出版
副 教 材	『スタンダード数学 I + A』数研出版、『スタンダード数学 II + B』数研出版
評 価 の 方 法	定期考査 60%＋平常点 40%（単元テスト、小テスト、課題など）
備 考	・「Focus Gold 5th Edition 数学 I + A」、「Focus Gold 5th Edition 数学 II + B」啓林館

高校1年（数学科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
CU(キャッチアップ)	1(半期で週2単位)	必修	FT(高入生)	中山

目 標	・数と式、図形と計量について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。		
育 っ た い 力	思考・判断・表現 ・数と式、図形と計量において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に判断することなどを通して、数学的な表現や考え方を身につける。	知識・技能 ・数と式、図形と計量における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識・技能を身につける。	主体的に学習に取り組む姿勢 ・問題解決の過程を考察し深め、他に解法がないか、評価・改善しようとする態度をもつ。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	数学Ⅰ 第1章 数と式 第1節 式の計算(整式/整式の加法と減法および乗法/因数分解) 第2節 実数(実数/根号を含む式の計算) 第3節 1次不等式(1次不等式/1次不等式の利用) 第2章 集合と命題 (集合/命題と条件/命題と証明)	・数を実数まで拡張する意義や基本的な概念を理解できるようにする。また、式を多面的に見たり処理したりする。 ・集合と命題に関する基本的な概念を理解できるようにする。また、1次不等式を事象の考察に活用できるようにする。
1 学期	第4章 図形と計量 第1節 三角比(三角比/三角比の相互関係/三角比の拡張)	・三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。
2 学期	第2節 三角形への応用(正弦定理/余弦定理/正弦定理と余弦定理の応用/三角形の面積/空間図形への応用)	・三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・多数の公式を理解し、利用できるようになるために、小テスト、問題集で演習を繰り返す。
2 学期	第5章 データの分析 (データの整理/データの代表値/データの散らばりと四分位範囲/分散と標準偏差/データの相関) 数学Ⅰ・数学Aの質問受け	・統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／講義形式
教 科 書	『NEXT 数学Ⅰ』数研出版
副 教 材	『新課程 スタンダード数学Ⅰ+A』数研出版 『Focus Gold 5thEdition 数学Ⅰ+A』啓林館
評 価 の 方 法	評価は行わない。
備 考	

高校 1 年 （理科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
化学基礎	2	必修	AM・GL	藤田・北澤・江島

目 標	・身の回りの自然現象等への興味・関心を高め、自然科学・技術を正しく活用しようという態度や倫理観を育む。 ・学習内容と実験・観察データを統合・判断して、論理的・科学的に他人に理解できるようにわかりやすく表現できる力をつける。 ・実験・観察、探究活動を通して、科学的に探究する方法と能力を身につける。 ・自然科学の基礎・基本となる知識・概念の理解を深め、科学的な自然観の育成を図る。		
育 て たい 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・化学の基礎・基本となる知識・概念を正しく理解し、身につける。 ・実験・観察、探究活動を通して、基本操作を習得するとともに、それらの過程を記録、整理し、科学的に探究する。	・学習内容と実験結果から正しく現象を考察し、表現できる力を養う。 ・与えられた情報を適切に考察・運用し、未知の事柄を推論できる。	・実生活と科学との関わりへの興味関心を高め、科学的に探究しようする態度を身につける。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	物質の構成粒子 ・原子・イオン・分子・周期律と周期表	・化学物質とは何でできているか、その基礎的知識を習得する。 ・原子の構造を理解し、イオンの成り立ちについて理解する。
	粒子の結合 ・イオン結合 ・共有結合 ・金属結合 ・配位結合 ・分子結晶 ・極性 ・ファンデルワールス力 ・水素結合	・物質について微視的な見方ができるようになる。 ・イオン結合、共有結合、金属結合に加え、配位結合、ファンデルワールス力、水素結合について理解し、結合を通して物質の性質を考える。
2 学期	物質量と化学反応式 ・物質量 ・化学反応式と量的関係	・物質量という概念が、化学変化を学ぶ上でなぜ不可欠なのかを理解し、計算する事ができる。 ・化学反応における物質量の計算ができる。
	酸と塩基の反応 ・酸・塩基 ・pH ・中和反応 ・塩	・酸・塩基の概念、反応に関係する物質の特性を理解する。 ・実験により定量的な扱いを理解し、関心を深める。
3 学期	酸化還元反応 ・酸化と還元 ・酸化数 ・酸化剤と還元剤 ・金属のイオン化傾向 ・金属の反応性 ・電池	・電子の授受による酸化・還元概念を理解し、酸化数の扱いを習得する。 ・実験により酸化・還元反応について定量的な扱いを理解し関心を深める。 ・金属のイオン化傾向に基づいて金属の酸化の違いについて理解できる。

授 業 の 形 態	講義及び実験など
教 科 書	『高等学校 化学基礎』数研出版
副 教 材	『リード light』数研出版, atama+
評 価 の 方 法	定期考査 70%＋平常点 30%（実験レポート、問題演習、小テストなど）
備 考	・定期考査は年 5 回する。基礎基本の習得を確実にする為に小テストを実施する。 ・実験観察を重視し、自ら実験結果・考察をまとめる力を育成する為に実験レポートを課する。 ・科学館・企業・大学などへの見学や自由研究などを勧めます。

高校 1 年 （理科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
化学基礎	2	必修	FT	藤田

目 標	・身の回りの自然現象等への興味・関心を高め、自然科学・技術を正しく活用しようという態度や倫理観を育む。 ・学習内容と実験・観察データを統合・判断して、論理的・科学的に他人に理解できるようにわかりやすく表現できる力をつける。 ・実験・観察、探究活動を通して、科学的に探究する方法と能力を身につける。 ・自然科学の基礎・基本となる知識・概念の理解を深め、科学的な自然観の育成を図る。			
育 て たい 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	・化学の基礎・基本となる知識・概念を正しく理解し、身につける。 ・実験・観察、探究活動を通して、基本操作を習得するとともに、それらの過程を記録、整理し、科学的に探究する。	・学習内容と実験結果から正しく現象を考察し、表現できる力を養う。 ・与えられた情報を適切に考察・運用し、未知の事柄を推論できる。	・実生活と科学との関わりへの興味関心を高め、科学的に探究しようする態度を身につける。	

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	物質の構成粒子 ・原子・イオン・分子・周期律と周期表	・化学物質とは何でできているか、その基礎的知識を習得する。 ・原子の構造を理解し、イオンの成り立ちについて理解する。
	粒子の結合 ・イオン結合 ・共有結合 ・金属結合 ・配位結合 ・分子結晶 ・極性 ・ファンデルワールス力 ・水素結合	・物質について微視的な見方ができるようになる。 ・イオン結合、共有結合、金属結合に加え、配位結合、ファンデルワールス力、水素結合について理解し、結合を通して物質の性質を考える。
2 学期	物質質量と化学反応式 ・物質質量 ・化学反応式と量的関係	・物質質量という概念が、化学変化を学ぶ上でなぜ不可欠なのかを理解し、計算する事ができる。 ・化学反応における物質質量の計算ができる。
	酸と塩基の反応 ・酸・塩基 ・pH ・中和反応 ・塩	・酸・塩基の概念、反応に係する物質の特性を理解する。 ・実験により定量的な扱いを理解し、関心を深める。
3 学期	酸化還元反応 ・酸化と還元 ・酸化数 ・酸化剤と還元剤 ・金属のイオン化傾向 ・金属の反応性 ・電池	・電子の授受による酸化・還元概念を理解し、酸化数の扱いを習得する。 ・実験により酸化・還元反応について定量的な扱いを理解し関心を深める。 ・金属のイオン化傾向に基づいて金属の酸化の違いについて理解できる。

授 業 の 形 態	講義及び実験など
教 科 書	『化学基礎』数研出版
副 教 材	『リードα』数研出版, 『化学図録』数研出版
評 価 の 方 法	定期考査 70%＋平常点 30%（実験レポート、問題演習、小テストなど）
備 考	・定期考査は年 5 回する。基礎基本の習得を確実にする為に小テストを実施する。 ・実験観察を重視し、自ら実験結果・考察をまとめる力を育成する為に実験レポートを課する。 ・科学館・企業・大学などへの見学や自由研究などを勧めます。

高校 1 年（理科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
生物基礎	2	必修	AM・GL	八木・澤田・森田

目 標	・身の回りの自然現象等への興味・関心を高め、自然科学・技術を正しく活用しようという態度や倫理観を育む。 ・学習内容と実験・観察データを統合・判断して、論理的・科学的に他人に理解できるようにわかりやすく表現する力をつける。 ・実験・観察を通して、科学的に探究する方法と能力を身につける。 ・自然科学の基礎・基本となる知識・概念の理解を深め、科学的な自然観の育成を図る。		
育 て た い 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・生物の基礎・基本となる知識・概念を正しく理解する。 ・実験・観察を通して、科学的に探究する方法を正しく用いる。	・学習内容と実験結果から正しく現象を考察し、表現できる力を養う。	・実生活と科学との関わりへの興味関心を高め、科学的に探究しようとする態度を身につける。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	生物の特徴 ・生物の多様性と共通性 - 顕微鏡観察（ミクロメーターの活用他） ・エネルギーと代謝 ・光合成と呼吸 遺伝子とその働き（前半） ・遺伝現象と遺伝子 ・遺伝情報とタンパク質の合成	・共通の祖先から長い年月の間に変化して、生物が多様化してきたこと、生物が共通に持つ特徴を理解する。 - 細胞にはさまざまな大きさや形のものがあることを認識し、単細胞生物、多細胞生物の特徴、原核細胞と真核細胞の特徴などがわかる。 ・生体内で行われる「代謝」とそこで働く「酵素」と「ATP」がわかる。 ・「呼吸」と「光合成」の働きが分かる。真核生物におけるミトコンドリアと葉緑体の共生説がわかる。 ・生殖の際に遺伝子が複製され、真核生物では染色体が形成されることがわかる。有性生殖と染色体の関わりがわかる。 ・遺伝子の本体としての DNA の構造と特徴がわかる。 ・すべての生物の遺伝情報は DNA の塩基配列であり、その情報によってさまざまなタンパク質が合成される仕組みがわかる。
2 学期	遺伝子とその働き（後半） ・遺伝情報の複製と分配 - だ腺染色体の観察 生物の体内環境（前半） ・体内環境としての体液 ・肝臓と腎臓による調節 ・神経とホルモンによる調節	・体細胞分裂に伴う DNA の複製と分配の仕組みがわかる。 ・体内環境の恒常性が維持されている仕組みとして、体内環境を担っている血液と肝臓、腎臓などの器官の働きがわかる。 ・自律神経系、内分泌系による体内環境の調節の仕組みがわかる。
3 学期	生物の体内環境（後半） ・免疫 植生の多様性と分布 ・生物の多様性とバイオーム ・バイオームの形成過程 生態系とその保全 ・生態系 土壌動物の観察 ・生態系のバランスと保全	・異物の体内への侵入を防ぎ、侵入した異物を排除する仕組みがわかる。 ・生態系の成り立ちと植生の果たす役割を理解し、植生の遷移が生じるメカニズムがわかる。 ・気候条件の違いに基づいて、様々なバイオームが成立する過程を知り、世界や日本におけるバイオームの分布について理解する。 ・生体におけるエネルギーの流れと物質の循環の仕組みについて理解し、生態系の保全について理解する。

授業の形態	クラス授業／一斉授業／講義・実験
教科書	『高等学校 生物基礎』数研出版
副教材	『ニューステージ新生物図表』浜島書店、『新課程 リードLight ノート』数研出版、atama+（デジタル教材）
評価の方法	定期考査 40%＋平常点 60%（実験レポート、ノート、atama+、授業態度等）
備考	・定期考査は中間考査を実施せず、それに代わって実験レポート等を評価対象とする。

高校 1 年（理科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
生物基礎	2	必修	FT	脇田

目 標	・身の回りの自然現象等への興味・関心を高め、自然科学・技術を正しく活用しようという態度や倫理観を育む。 ・学習内容と実験・観察データを統合・判断して、論理的・科学的に他人に理解できるようにわかりやすく表現する力をつける。 ・実験・観察を通して、科学的に探究する方法と能力を身につける。 ・自然科学の基礎・基本となる知識・概念の理解を深め、科学的な自然観の育成を図る。		
育 て たい 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・生物の基礎・基本となる知識・概念を正しく理解する。 ・実験・観察を通して、科学的に探究する方法を正しく用いる。	・学習内容と実験結果から正しく現象を考察し、表現できる力を養う。	・実生活と科学との関わりへの興味関心を高め、科学的に探究しようする態度を身につける。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	生物の特徴 ・生物の多様性と共通性 - 顕微鏡観察（ミクロメーターの活用他） ・エネルギーと代謝 ・光合成と呼吸 遺伝子とその働き（前半） ・遺伝現象と遺伝子 ・遺伝情報とタンパク質の合成	・共通の祖先から長い年月の間に変化して、生物が多様化してきたこと、生物が共通に持つ特徴を理解する。 - 細胞にはさまざまな大きさや形のものがあることを認識し、単細胞生物、多細胞生物の特徴、原核細胞と真核細胞の特徴などがわかる。 ・生体内で行われる「代謝」とそこで働く「酵素」と「ATP」がわかる。 ・「呼吸」と「光合成」の働きが分かる。真核生物におけるミトコンドリアと葉緑体の共生説がわかる。 ・生殖の際に遺伝子が複製され、真核生物では染色体が形成されることがわかる。有性生殖と染色体の関わりがわかる。 ・遺伝子の本体としての DNA の構造と特徴がわかる。 ・すべての生物の遺伝情報は DNA の塩基配列であり、その情報によってさまざまなタンパク質が合成される仕組みがわかる。
2 学期	遺伝子とその働き（後半） ・遺伝情報の複製と分配 - だ腺染色体の観察 生物の体内環境（前半） ・体内環境としての体液 ・肝臓と腎臓による調節 ・神経とホルモンによる調節	・体細胞分裂に伴う DNA の複製と分配の仕組みがわかる。 ・体内環境の恒常性が維持されている仕組みとして、体内環境を担っている血液と肝臓、腎臓などの器官の働きがわかる。 ・自律神経系、内分泌系による体内環境の調節の仕組みがわかる。
3 学期	生物の体内環境（後半） ・免疫 植生の多様性と分布 ・生物の多様性とバイオーム ・バイオームの形成過程 生態系とその保全 ・生態系 土壌動物の観察 ・生態系のバランスと保全	・異物の体内への侵入を防ぎ、侵入した異物を排除する仕組みがわかる。 ・生態系の成り立ちと植生の果たす役割を理解し、植生の遷移が生じるメカニズムがわかる。 ・気候条件の違いに基づいて、様々なバイオームが成立する過程を知り、世界や日本におけるバイオームの分布について理解する。 ・生体におけるエネルギーの流れと物質の循環の仕組みについて理解し、生態系の保全について理解する。

授業の形態	クラス授業／一斉授業／講義・実験
教科書	『高等学校 生物基礎』数研出版
副教材	『ニューステージ新生物図表』浜島書店、『セミナー 生物基礎』第一学習社
評価の方法	定期考査 80%＋平常点 20%（実験レポート、ノート、授業態度等）
備考	定期考査は中間・期末考査を実施し、実験レポート等を平常点の評価対象とする。

高校 1 年 （保健体育科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
体育	2	必修	AM・GL・FT	川端・前田・河内・森川

目 標	・運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 （各種目でワークシートを作成し、課題設定と自己評価を行う） ・運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にすることなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。			
育てたい力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	・技術の名称や行い方を理解する力 ・技能や身につけた動きをより高め、記録や技に挑戦する力 ・自己のねらいに応じて体力の向上をはかる力 ・各種目課題設定を行う	・運動を継続する意義を理解する力 ・体力の高め方を理解する力 ・自分の体調に気付く力 ・レポート課題の発表や相互評価を行う。	・ 自主的に取り組む力 ・ ルールやマナーを守る力 ・ 道具や施設を大切に扱う力 ・ 互いの違いや良さを認め合う力 ・ 自己の責任を果たす力	

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・オリエンテーション ・集団行動 ・新体力テスト ・陸上競技（跳躍、リレー、ハードル） ・体づくり運動（立守ダンス）（男女共修） ・トレーニング講習	・体育館やグラウンドの使用マナー、授業内でのルールを理解する。 ・安全かつ円滑に授業ができるようにする。 ・新体力テストを実施し、自己の能力や課題について知る。 ・陸上競技を通して、自己の記録や課題を克服する。 ・立守ダンスの習得に努め、ウォーミングアップの必要性を理解する。 ・新体力テストを基に自分にあった運動強度や時間、頻度など計画立案する。 ・トレーニング場の使用方法や安全上の注意について理解する。
2 学期	・男子：球技 2 種目（ネット型・ゴール型） （ソフトテニス、バスケットボール） ・女子：球技 2 種目 （ネット型・ベースボール型） （卓球、ソフトボール） ・持久走（男女共修）	・球技を通して、体力の向上と安定したボール操作を学ぶ。 ・ルールの理解と個人技術の向上をさせる。 ・基本技術の習得と過程を学ぶ。 ・ルールを調べ、理解をする。 ・自己を鍛錬し、体力の向上をはかる。 ・持久力と調整力を身に付ける。
3 学期	・持久走（男女共修） ・学校選択 ・球技（ネット型） ・球技（ゴール型） ・体育理論	・一定のペースを持続できるようにする。 ・行動力と生存力を身に付ける。 ・技能の型の違いやそれぞれの練習の仕方を理解し、技術や戦術をチームで工夫する。 ・効果的なトレーニングの方法を身につける。

授 業 の 形 態	3 クラス合同男女別授業（一部共修 4 講座展開）
教 科 書	『現代高等保健体育』 大修館書店
副 教 材	『現代高等保健体育ノート』 大修館書店
評 価 の 方 法	・評価点 100%（実技 100 点） ・実技…運動能力だけでなく、自主的・積極的に参加する姿勢や規範意識の姿勢を重視する。 ・出席…欠課 1 につき 2 点、遅刻や忘れ物 1 回につき 1 点を差し引く。
備 考	・体づくり運動を通年実施し、体力の維持・向上をはかる。 ・指定の体操服を着用し（見学者も同様）、体育館更衣室で着替えること。 ・見学の場合は、筆記用具持参の上、必ず授業時間前に体育準備室の教員に申し出ること。 ・途中でケガや気分が悪くなった場合は必ず担当教員に申し出ること。 ・身体的理由で長期間の見学が必要な場合は、診断書等の提出を求める場合がある。

高校 1 年 （保健体育科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
保健	2	必修	AM・GL・FT	河内・久保田・前田 川端・横江川

目 標	・個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。 ・健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。（レポートの作成や発表する中で相互評価が出来るようにする） ・生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
育てたい力	・健康についての多様な考え方や成り立ちとその要因を理解し、維持増進するための運動・休養や食事などを活用する。	・生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善する思考力と判断力を養う。	・生涯を通じて健康の保持・増進や運動スポーツに取り組み、自立性や協働性を持って、豊かな人生を創ることができる力を育む。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・健康の考え方と成り立ち ・私たちの健康のすがた ・生活習慣病の予防と回復 ・がんの原因と予防 ・がんの治療と回復 ・運動と健康 ・食事と健康 ・休養・睡眠と健康 ・喫煙と健康 ・飲酒と健康 ・薬物乱用と健康 ・精神疾患の特徴 ・精神疾患の予防 ・精神疾患の回復	・様々な健康の考え方や成り立ちについて理解し、説明できる。 ・生活習慣病の要因と一次、二次予防方法を理解する。 ・がんの種類や原因について理解し、予防方法や治療方法、検診などについて理解し、説明ができる。 ・目的に応じて健康的な運動の方法や食事、休養睡眠のとり方について理解し、説明ができる。 ・個人や社会に起こる害について短期的・長期的の影響を理解するとともに社会環境整備などについて考える。 ・心身の健康や社会に及ぼす影響や個人や社会環境を理解すると説明できる。 ・疾患の発病・予防・治療について理解するとともに、精神保健の課題や社会環境整備が必要な事の説明が出来る。
2 学期	・現代の感染症 ・感染症の予防 ・性感染症・エイズとその予防 ・健康に関する意思決定・行動選択 ・健康に関する環境づくり ・ライフステージと健康 ・思春期と健康 ・性意識と性行動 ・妊娠・出産と健康 ・避妊法と人工妊娠中絶 ・結婚生活と健康 ・中高年期と健康 ・働くことと健康 ・労働災害と健康 ・健康的な職業生活	・感染症について理解をするとともに感染力や予防について説明が出来る。その要因や社会対策も理解をする。 ・健康に関する適切な選択や決定する方法や工夫について理解をする。 ・ライフステージと健康の関連性を知り、社会から活用できる支援について説明ができる。 ・体の変化と心の発達にかかわる問題について理解をする。 ・妊娠出産の家庭における健康課題や母子保健サービスを理解する。家族計画の意義と適切な方法について理解し、心身に及ぼす影響について説明できる。 ・心身の発達と結婚生活について説明でき、そのために必要な考え方や行動を理解する。 ・働くことの意義と健康の関りについて理解する。 ・職場における健康増進活動と多様な働き方を理解する。
3 学期	・大気汚染と健康 ・水質汚濁・土壌汚染と健康 ・環境と健康にかかわる対策 ・ごみ処理と上下水道の整備 ・食品の安全性 ・食品衛生にかかわる活動 ・保健サービスとその活用 ・医療サービスとその活用 ・医薬品の制度とその活用 ・様々な保健活動や社会的対策	・環境汚染の原因と健康への影響について理解する。 ・環境の保全に関するおもな施策について説明できる。 ・ごみ処理の現状とその課題や循環型社会について説明できる。 ・食品の安全性と健康との関りや今日の課題について理解する。 ・食品の安全性のための個人や行政、製造者の役割を理解する。 ・保健行政の役割と保健サービスの活用について知る。 ・医療保険の仕組みと医療機関の役割を理解する。 ・医薬品の正しい使い方と安全性を守る取り組みについて理解する。 ・国際機関、行政機関や民間機関の活動や社会的対策を知る。

	・健康に関する環境づくりと社会参加 ・応急手当の意義とその基本 ・日常的な応急手当 ・心肺蘇生法	・健康の保持増進のための環境づくりを理解する。 ・応急処置の意義や手順理解し、実践できる。 ・日常的なけがや熱中症の応急手当てができる。 ・心肺蘇生法の方法と手順をしり、実際にできる。
--	---	---

授業の形態	クラス一斉授業 講義形式
教科書	『現代高等保健体育』大修館書店
副教材	『現代高等保健体育ノート』大修館書店
評価の方法	定期考査 70%+課題点 30% 定期考査は以下のように実施をする。「1 学期中間・期末の 2 回、2 学期中間・期末の 2 回、3 学期学年末の 1 回」 課題点の内訳：（グループワークや発表、ワークブックや板書、課題等を授業内で課す） 平常点（授業に取り組む姿勢）
備考	

高校 1 年 （家庭科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
家庭基礎	2	必修	AM・GL・FT	吉田・小林

目 標	・人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。 ・自分と家族の生活を守り、家庭生活の担い手として主体的に行動していくための知識と技術を身につける。 ・より良い生活の創造者として、地域社会や国際社会と主体的に協働できる実践的な態度を養う。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
育てたい力	・家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。 ・家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	・家庭や地域の生活について課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身に付けている。	・家庭や地域の生活について関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・消費生活・環境問題とこれから ・青年期・家族、人の一生 ・子どもの保育 ・高齢期の生活、福祉の問題とこれから ・共生社会	・家族や生活の営みを人の一生とのかかわりの中で捉え、将来の生活設計や自立について深く考えることができる。 ・現代の職業や就労の問題について基礎的な知識を身につけ、自らの将来のあるべき姿（職業観）について深く考えることができる。 ・仕事と子育てや介護の問題についての基礎的な知識を身につけ、理想の男女観（夫婦観）や国際的な視点から今後の家庭生活のあり方について深く考えることができる。
2 学期	・食生活の問題とこれから ・衣生活の問題とこれから ・住生活の問題とこれから	・人間の体に必要な栄養素について、基礎的な知識を身につけ、それらを活かしながら、自分や家族が真に健康で居られるための生活改善を行うことができる。 ・調理の基礎的・基本的な知識と技術に触れながら、家庭生活の担い手として仲間と協働することができる。 ・自国の食文化に触れるとともに、現代の日本が抱える食糧事情を踏まえて、今後の日本のあるべき食生活の姿について考えることができる。 ・衣服の役割と機能についての基礎的な知識を身につけ、TPO に応じた着装を行うことができる。 ・自国の衣文化に触れるとともに、世界的な視点から衣服のリユースやサイクル活動に積極的に取り組むことができる。 ・住居の役割と機能についての基礎的な知識を身につけ、自分や家族に最適な住環境について構想を練ることができる。 ・自国の住文化に触れるとともに、戦後の間取りの変遷と国際的な住要求の視点から、今後の住まいのあり方について考えることができる。
3 学期	・ホームプロジェクト	・自らの生活全般を見つめ直し、その問題点を解決するための知識・技術を主体的に学ぶことができる。 ・世界中の人々の生き方・在り方を意識し、そのあるべき姿について提言することができる。

授 業 の 形 態	講義・調理実習・問題解決を考えるグループ討論
教 科 書	『Survive!!高等学校家庭基礎-』教育図書
副 教 材	『LIFE おとなガイド家庭科』教育図書
評 価 の 方 法	定期考査 60 % + 平常点 40 % 定期考査：1 学期期末、2 学期期末（2 回） 3 学期は考査を実施せず、平常点のみで評価を行う 平常点：出席確認カード・授業ノート・各種レポート・新聞記事のスクラップ
備 考	・授業の約半分は、演習や実習形式の授業となるため、平常点の配分が大きい。そのため、授業への出席状況や課題提出状況が評価に大きな影響を与えることになるので要注意。

高校 1 年 （外国語科：英語）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
英語コミュニケーション I	5	必修	AM・GL	橋詰・梅本・吉本・山内・二宮 ・Green・Grant

目 標	- 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報やアイデアなどを的確に理解したり適切に伝えたりする態度を養う。 - 国際化社会に対応できる英語運用能力を高めるために、個人およびペア・グループでの様々な活動を通し、その基盤となる「読む」「聞く」「話す（発表・やりとり）」「書く」力を身につける。 - 相手の発言を受けて発言したり質問したりする活動など、英語を使ったやり取りを通して、自分の意見やアイデアを持ったり、吟味したりする力を養う。 - 英語でスピーチやプレゼンテーションなどを行うための基本的な技能や英語力・表現力を身につける。また、聴き手として発表について即興で質問するなど、積極的に話し手に関わるための英語力を高める。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
育てたい力	- 語彙・構文・文法・発音等についての知識や、その運用についての知識を身につけるとともに、言語の背景にある文化などを理解している。 - 場面や状況に応じたふさわしい表現や強勢やイントネーションを知っている。 - 自分の興味や関心をもとに得た語彙や表現などを使いながら、自分が伝えたい内容などを他者と共有することを通して考察し、自分の学びとして知識・技能を身につける。	- 豊富な語彙や学習した表現を「聞く」「話す（やりとり・発表）」「読む」「書く」活動を通じて活用し、様々な話題に関する情報や自分のアイデアを英語で話したり、まとまった文章で表現したりできる。 - 日常的な話題について、英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとすることを理解し考える。 - 説明文や物語文に慣れ、様々な英文の要旨を理解し考える。	- 様々な分野の話題に興味、関心を持ち、自分の考えや価値判断の枠組みを組み換えようと、更に深く学ぶ意欲を持つ。 - 積極的に授業内での言語活動に参加しコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、自主的に授業外での学習に取り組む姿勢を身につける。 - 自分で学びたいことや具体的方法を考え、実際にやってみるなかで方法を吟味して更新することができる。	

時期	学習内容・項目		ねらい・目標
1 学期	- Pre Lesson - L1 The Blue White Shirt	英語の学び方を実践しながら学び、英語と和製英語を比較して、「言語文化」について考える。	- オンライン授業期間は、反転学習を行い、授業では課題解決型の学びを実践する。 - 様々な言語活動に取り組み、英語運用に必要なあらゆる技能の基礎基本を身に付ける。 ◆Listening / Reading - 様々なテーマについて書かれた英文を読んだり聴いたりして、その文章構造の正しい把握をもとに的確に情報を得ることができる。また、関連する英文を主体的に読み、自ら問いを持って、理解を深めることができる。 ◆Speaking(やりとり・発表) / Writing - 自分の意見やアイデアと、その根拠となる情報をプレゼンテーション形式で伝えること、また、他者の発言を受けて考えを深めたり、質問したりすることなどを通して、協働的な話し合いをすることができる。さらに英文を読んだり、やりとりをしたりして得た情報をもとに、自らの考えなどを書くことができる。
	- L2 Does It Spark Joy? - L3 Hatching the Egg of Hope	片付けコンサルタントの近藤氏や、アーティストのミヤザキの経験や生き方から、自分自身の「生き方」について考える。	
2 学期	- L4 Digging into Mystery - L5 Roots & Shoots - L7 Living in Alaska	縄文時代の人々やアラスカの人々の生活、チンパンジーの生態から、自分自身の「暮らし」を相対化しながら、社会課題の解決について考える。	
	- L6 You and Your Smartphone - L9 Our Lost Friend	スマートフォン普及や文化財返還問題を通して、物事の功罪や賛否両論をどう乗り越えらえるかを考える。	
3 学期	L8 Not So Long Ago	20世紀を象徴する写真を通し、歴史から何を学び、その教訓をどう活かせるかを考える。 【プレゼンテーション大会テーマ】	
	- L10 Good Ol' Charlie Brown - Reading Santa Closet	漫画ピーナッツや家族のストーリーから、「人」を思いやることの大切さについて考え、「人生の成功」とは何かを考える。	

授業の形態	クラス授業及びTT授業（ペアやグループでの言語活動を含む、学習者が主体となる授業） ＊5単位中1単位は、ネイティブ教員2名との授業となる。
教科書	『CROWN English Communication I』三省堂
副教材	『総合英語 be 4th Edition』いっずな書店
評価の方法	定期考査は実施せず、平常点のみで評価する （平常点は、単元テスト・パフォーマンステスト・課題提出など）
備 考	・上記の他、オリジナル教材を使用する

高校 1 年 （外国語科：英語）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
英語コミュニケーションⅠ	5	必修	FT	二宮・Green・Grant

目 標	- 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報やアイデアなどを的確に理解したり適切に伝えたりする態度を養う。 - 国際化社会に対応できる英語運用能力を高めるために、個人およびペア・グループでの様々な活動を通し、その基盤となる「読む」「聞く」「話す（発表・やりとり）」「書く」力を身につける。 - 相手の発言を受けて発言したり質問したりする活動など、英語を使ったやり取りを通して、自分の意見やアイデアを持ったり、吟味したりする力を養う。 - 英語でスピーチやプレゼンテーションなどを行うための基本的な技能や英語力・表現力を身につける。また、聴き手として発表について即興で質問するなど、積極的に話し手に関わるための英語力を高める。		
育てたい力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	- 語彙・構文・文法・発音等についての知識や、その運用についての知識を身につけるとともに、言語の背景にある文化などを理解している。 - 場面や状況に応じたふさわしい表現や強勢やイントネーションを知っている。 - 自分の興味や関心をもとに得た語彙や表現などを使いながら、自分が伝えたい内容などを他者と共有することを通して考察し、自分の学びとして知識・技能を身につける。	- 豊富な語彙や学習した表現を「聞く」「話す（やりとり・発表）」「読む」「書く」活動を通じて活用し、様々な話題に関する情報や自分のアイデアを英語で話したり、まとまった文章で表現したりできる。 - 日常的な話題について、英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとすることを理解し考える。 - 論説文や物語文に慣れ、様々な英文の要旨を理解し考える。	- 様々な分野の話題に興味、関心を持ち、自分の考えや価値判断の枠組みを組み換えようと、更に深く学ぶ意欲を持つ。 - 積極的に授業内での言語活動に参加しコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、自主的に授業外での学習に取り組む姿勢を身につける。 - 自分で学びたいことや具体的方法を考え、実際にやってみるなかで方法を吟味して更新することができる。

時期	学習内容・項目		ねらい・目標
1 学期	- Pre Lesson - L1 The Blue White Shirt	英語の学び方を実践しながら学び、英語と和製英語を比較して、「言語文化」について考える。	- オンライン授業期間は、反転学習を行い、授業では課題解決型の学びを実践する。 - 様々な言語活動に取り組み、英語運用に必要なあらゆる技能の基礎基本を身に付ける。 ◆Listening / Reading - 様々なテーマについて書かれた英文を読んだり聴いたりして、その文章構造の正しい把握をもとに的確に情報を得ることができる。また、関連する英文を主体的に読み、自ら問いを持って、理解を深めることができる。 ◆Speaking(やりとり・発表) / Writing - 自分の意見やアイデアと、その根拠となる情報をプレゼンテーション形式で伝えること、また、他者の発言を受けて考えを深めたり、質問したりすることなどを通して、協働的な話し合いをすることができる。さらに、英文を読んだり、やりとりをしたりして得た情報をもとに、自らの考えなどを書くことができる。
	- L2 Does It Spark Joy? - L3 Hatching the Egg of Hope	片付けコンサルタントの近藤氏や、アーティストのミヤザキの経験や生き方から、自分自身の「生き方」について考える。	
2 学期	- L4 Digging into Mystery - L5 Roots & Shoots - L7 Living in Alaska	縄文時代の人々やアラスカの人々の生活、チンパンジーの生態から、自分自身の「暮らし」を相対化しながら、社会課題の解決について考える。	
	- L6 You and Your Smartphone - L9 Our Lost Friend	スマートフォン普及や文化財返還問題を通して、物事の功罪や賛否両論をどう乗り越ええるかを考える。	
3 学期	L8 Not So Long Ago	20世紀を象徴する写真を通し、歴史から何を学び、その教訓をどう活かせるかを考える。 【プレゼンテーション大会テーマ】	
	- L10 Good Ol' Charlie Brown - Reading Santa Closet	漫画ピーナッツや家族のストーリーから、「人」を思いやることの大切さについて考え、「人生の成功」とは何かを考える。	

授業の形態	クラス授業及びTT 授業（ペアやグループでの言語活動を含む、学習者が主体となる授業） ＊5単位中1単位は、ネイティブ教員2名との授業となる。
教科書	『CROWN English Communication I』三省堂
副教材	『総合英語 be 4th Edition』いっずな書店 『CROWN English Communication I ワークブック アドバンスト』三省堂
評価の方法	平常点 100%（平常点は、単元テスト・パフォーマンステスト・課題提出など）
備 考	・上記の他、オリジナル教材を使用する

高校 1 年 （外国語科：英語）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
CU（キャッチアップ）	1	必修	F T（中入生）	二宮

目 標	・高校英文法の基礎・基本の定着から、運力を高めるための基本的な活動を行い、高校での発展的な英語学習に必要な英語力を養う。 ・英語コミュニケーション I での学習内容を確実に自らの力に変えていくための input, intake 活動を通して、本文の理解をより深め、十分な言語活動に活かせるようにしていく。		
育 て た い 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・語彙・構文・文法・発音等についての知識や、その運用についての知識を身につけるとともに、言語の背景にある文化などを理解している。 ・場面や状況に応じたふさわしい表現や強勢やイントネーションを知っている。	・豊富な語彙や学習した表現を「聞く」「話す（やりとり・発表）」「読む」「書く」活動を通じて活用し、様々な話題に関する情報や自分のアイデアを英語で話したり、まとまった文章で表現したりできる。 ・日常的话题について、英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとすることを理解し考える。	・様々な分野の話題に興味、関心を持ち、自分の考えや価値判断の枠組みを組み換えようと、更に深く学ぶ意欲を持つ。 ・積極的に授業内での言語活動に参加しコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、自主的に授業外での学習に取り組む姿勢を身につける。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
通年	・高校基礎英文法の整理と基本問題演習（中学学習内容の整理を含む）	・様々な言語活動に取り組み、英語運用に必要なあらゆる技能の基礎基本を身につける。
1 学期	・英語の読み方 ・語彙力のつけ方 ・文法項目 品詞・文型・助動詞・態・準動詞	◆Basic Grammar (Writing) ・高校で学習する基本的な英文法の形や機能を理解する。 ・基本となる英文（単文）を正確に書くことができる。
2 学期	・文法項目 関係詞・比較・仮定法	◆Listening / Reading ・様々なテーマについて書かれた英文を読んだり聴いたりして、その文章構造の正しい把握をもとに的確に情報を得ることができる。
3 学期	・英語コミュニケーション I での学習内容（1 学期～2 学期）の復習	

授 業 の 形 態	クラス授業
教 科 書	『CROWN English Communication I 』三省堂
副 教 材	『総合英語 be 4th Edition』いっずな書店 『CROWN English Communication I ワークブック アドバンスト』三省堂
評 価 の 方 法	評価は行わない
備 考	・上記の他、オリジナル教材を使用する ・受講については、原則中入生全員とするが、学習状況に応じて講座再編成を行うこともある。

高校 1 年 （総合的な探究の時間）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
Thinking Design	1	必修	AM・GL・FT	飯住、北村、國分、田辺

目 標	- 科学的見地から、自ら問いを立てるなど、探究の手法を体得する。 - 根気強く考える、相手にわかるように伝える、チームの中で「思考」を練り上げる力を身につける。 - 探究プロセスの中で、自己の成長を客観視（メタ認知）できるようになり、異なる状況の中でも身につけた探究手法が活用できるようになる。		
育 て たい 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	これまでに身につけてきた数学・理科・国語・社会などの知識・スキルや経験をつなぎ合わせながら深く思考し、自ら立てた問いの解決方法を見出していく探究活動につなげていくことができる。	身の回りの事象を科学的、数学的に捉え、問題設定・問題解決の道筋を見つけ出す。ディスカッションやレポート作成など、協働的または探究的作業の中で、自らの思考の変化に気づき、論理的説明力、異なる状況への応用力などをブラッシュアップできる。	答えの簡単に出ない問題に対して、これまでの知識や経験の中から類推したり、具体例に当てはめたり、解決の糸口を根気強く探し、自分なりの考えや行動を導く姿勢を養う。協働的な学びの中で、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えることができるようになる。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	ガイダンス ①類推（見えないものを考える、思い込みに気づく） ②科学的分析（伝える・説明するための技術） ③論理的記述（論理の正しさ・曖昧さを見抜く）	10 テーマより 4 人の担当者が選んだ 8 テーマを 3 時間ずつの授業（24 回）を受講する。ガイダンスとまとめは全体指導を行い、科目の目標や到達度を共有する。 - テーマ別にオムニバス形式にて授業展開を行う。 - 探究課題に対して、8 つの異なる観点からアプローチしながら、その関連性や多様性を学び、科学的思考や探究手法の基礎である仮説の立て方や根拠をもって論理的に表現する手法を身につける。 - 授業単位は半学級とし、同時並行で 2 クラス 4 チームが活動する。 - 少人数講座であることから、実習、ディスカッション、発表など、アクティブ要素を盛り込んだ形式とする。 - 毎時間「振り返り」を行うとともに、その都度、ワークシートなど取り組みのプロセスを確認し、成果物を蓄積する。各テーマの最終授業でその成果をまとめる。 - 評価に関しては、成果物や課題等によるポートフォリオを重視するが、取り組み姿勢と併せて総合的に評価する。
2 学期 前半	④数学モデリング（現象のモデル化による探究の作法） ⑤ファクトフルネス（データを基に世界を正しく見る）	
2 学期 後半	⑥仮説と検証（観察→仮説→根拠のプロセスを導く） ⑦発想法（多角的・協働的アプローチによる発散と収束）	
3 学期	⑧教理論理（現象を科学的に捉え根拠ある解決へ） ⑨修正と検証（見通しをもったトライアル＆エラー） ⑩ファシリテーショングラフィック（対話を「見える化」することで、場の活性化や相互理解を促す） 8 テーマ 24 回の授業のまとめとして、全体の振り返りや科学的思考力の到達度を問う確認テストなどを行う。	

授 業 の 形 態	半学級を単位とする授業／一斉授業・グループワーク・ディスカッションなど
教 科 書	なし
副 教 材	オリジナル教材
評 価 の 方 法	各テーマのワークシート・成果物・議論・発表・課題・GPS・Academic 等 100%
備 考	

高校2年（国語科）

科 目	単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
現代文B	2	必修	AM・AMs・GL・GLs	奥村・早瀬・南

目 標	・1年時に学習した「文章を論述するためのテクニック」を通して、読解の力を深める。 ・読解した文章に対し、自分の意見や考えを持ち、多角的な視点から論を展開する。 ・自分の意見や考えを論述できる思考力や表現力をつける（漢字検定2級レベルの語彙、基本的な概念語や評論用語の習得）。 ・自分の意見や考えに対し、他者の意見や考えを相対的に理解し、比較論述する力をつける。			
育 っ た い 力	意欲・関心・態度 ・話し合いや文章の共同批評など、協働の学びに能動的に取り組む力。 ・自らテーマを見つけ、発展的な読書に取り組む力。	見方・考え方 ・読解の方法や思考の型を駆使して自らの主張をもっとも効果的に論証する力。	表現・言語感覚 ・評論読解を基礎とした論証能力や批評力（反論力）。 ・文学作品のテーマを吟味、評価し、批評する力。	知識・理解 ・漢字検定2級レベルの語彙力や概念語の知識理解。 ・読解の基本的な技術や言語スキル、思考の能力。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	【評論】 「ミロのヴィーナス」清岡卓行 「相手依存の自己規定」鈴木孝夫 「科学的『発見』とは」小川眞里子 【論述】 文章論述のための基本テクニックを修得する。 （語・文・レベル）	○文章の内容を叙述に即して的確に読み取り、要約する力を習得する。 ・文の構造を理解し、運用することができる。 ・文章の種類を理解し、評論の構造と論理を読み深める力を養成する。 ・抽象的な記載内容に対し図を用いて整理することを習得する ・評論を読み、多角的に筆者の主張をとらえる力を養う。 ・論文構成表を用いて思考の整理をできるようにする。
2 学期	【評論】 「文学の未来」小野正嗣 【論述】 文章論述のための基本テクニックを修得する。 （文章・思考レベル） 【小説】 「山月記」中島敦 【論述】 自己の考えや意見を評論形式で執筆する。 【ディスカッション】 論述した内容をもとに、それぞれの意見の妥当性について議論する。	○文章の内容に対して自己の思考を深め、多角的な視野を獲得する。 ・語彙に着目し、定義づけに留意しながら評論を読む姿勢を養う。 ・筆者の意図について捉えながらより「自己」「自我」「対話」などの語句の意味を体得する。 ○文学作品の読解を通して作品世界を深く味わう豊かな感受性を涵養する。 ・小説に描かれた人間の心理を読み込む。 ・近代の代表的な小説を読むことによって、近代という時代や、時代と人間との関係について理解を深める。 ○複数の作品を比較し、共通点や相違点などを見出す。 ・論文や雑誌、新聞記事などを用いてまとめた文章として著すことができる。 ・自己の考えや意見を、他者と比較しながら深めることができる。 ・作品分析に対する自己の論について根拠を持って論じることができる。 ・他者の意見の正確性を、自己の意見と比較しながら深めることができる。
3 学期	【評論】 論文執筆（チーム論文） 生徒の状況に合わせ、適宜選出する。 【プレゼンテーション・ディスカッション】	○まとまった分量の論文を執筆し、他者との交流を通して考えを深める。 ・論文執筆のための資料の集め方、引用の仕方など、論文執筆の基本を習得する。 ○読解した内容をもとに様々な資料を調べ、その成果をプレゼンテーションの形にまとめる。 ・様々な情報から必要な情報を要約し、発表する力を身につける。 ・相手の主張を自己にひきつけて捉え、質問することができる。

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／講義形式／グループワーク
教 科 書	『精選現代文B』東京書籍
副 教 材	『プレミアムカラー国語便覧』数研出版、『読解を深める現代文単語』桐原書店、 『新編級別漢字セミナー』浜島書店
評 価 の 方 法	1・2 学期 定期テスト 30%＋平常点（小テスト、提出課題、ノート、積極性など） 70% 3 学期 定期テスト 30%＋平常点（小テスト、チーム論文、提出課題、ノート、積極性など） 70% 年間割合 定期テスト 30%＋平常点（小テスト、提出課題、ノート、積極性など） 70%
備 考	上記の授業内容は予定であり、学習者の実態に応じて授業内容が変更されることがある。 より深い思考力・対話力・判断力養成のため、別途課題を設けることがある。

高校2年（国語科）

科 目	単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
古典B	2	必修	AM・AMs・GL・GLs	奥村・川辺・有賀

目 標	・適切に継承され、現代の言語生活に生かされるべき古典（古文・漢文）を読む能力を養う。 ・古典に表れている、人間・社会・自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を読み取る。 ・古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。			
育 て た い 力	意欲・関心・態度	見方・考え方	表現・言語感覚	知識・理解
	・古典を読解するための文法的知識を身につける。 ・古典の内容や表現の特色を理解し、読み味わう。 ・古典をめぐる社会や人物についての理解や関心を持つ。	・古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえる。 ・我が国の文化や特質、中国の文化との関係について理解を深める。	・古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。 ・古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確に捉える。	・古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察する。 ・作品の時代背景や歴史、文学史について知識を得る。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	【漢文】 孟子「性之善也、猶水之就下」 荀子「人之性悪」 (反語形) 【古文】 「壇ノ浦の合戦」平家物語 (助動詞・音便)	・漢文訓読法について再確認し、理解を深める。 ・新出の句形について学習し、理解する。 ・日本文化の形成に影響をもたらした中国の思想に触れ、理解を深める。 ・「人間の本性」とはどのようなものなのかについて考えを深める。 ・既習の文法事項について再確認し、理解を深める。 ・用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。 ・登場人物達の「死に様」を読むことで、人としてどう生きるかという「生き様」について考えを深める。
2 学期	【古文】 「道真の左遷」大鏡 (助動詞・敬語) 【漢文】 「鴻門の会」「四面楚歌」「項王自刎」史記 (使役形・受身形・限定形・仮定形)	・用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。 ・内容を構成や展開に即して、的確に捉える。 ・史実および本文の内容から、登場人物の関係性や思惑を読み取る。 ・まとまった文量を既習の文法知識に基づいて読解することができる。 ・漢詩に触れ、技巧や読まれた心情について理解を深める。 ・主体的に古典世界に触れ、文学的価値や魅力を互いに学びあう。 ・中国の戦国時代を生きた武将達のかけひきや生き様、そして死に様を読み、「人間の一生」について思いを深める。
3 学期	【古文】 「フルヘッヘンド」蘭学事始 (助動詞・敬語)	・年間を通して学んだ文法事項(助動詞・敬語)の再確認を通し、理解の定着をはかる。 ・語句の意味、用法を理解し、人物関係や登場人物の心情を理解する。 ・日本の科学技術の繁栄の礎となった江戸時代の蘭学者達の苦勞を読み味わい、Beyond Borders の精神を実感する。

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／講義形式／グループワーク
教 科 書	『精選古典B』東京書籍
副 教 材	『解析古典文法 三訂版』桐原書店、『読んで見て覚える重要語文単語315』桐原書店、『精説漢文』いっずな書店、『プレミアムカラー国語便覧』数研出版
評 価 の 方 法	定期テスト60%＋平常点（小テスト、提出課題、ノート、積極性など）40%
備 考	・上記の授業内容は予定であり授業展開や学習者の実態に応じて授業内容が変更されることがある。

高校2年（国語科）

科 目	単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
現代文B	2	必修	FT・FTs	都筑

目 標	・国語総合で培った知識・能力を活用し、散文（小説・評論）を読解するための技術を駆使する論理性と、韻文を正確に、且つ深く味わう豊かな感受性を涵養する。 ・漢字・熟語などの語彙の増強と、高等教育機関での議論に耐えうる知識の獲得を目指す。 ・共通テストにおいてクラスの平均が80%以上となるよう基礎的な解答法を習得する。			
育 て たい 力	意欲・関心・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
	・文章を読んで、その構造を理解し、書き手の主張や意思を正確に捉えることができるようにする。	・人文科学的な分野からの視点のみならず、自然科学・社会科学的観点を身につけ、多角的に文章を読解する力を向上させる。	・他者の著した作品や主張を正確に把握し、これに対する批判的思考や情的想像力を培う。	・研究者の執筆した論文を遅滞なく読めるレベルの語彙力を身につける。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	論理的文章 清岡卓行『ミロのヴィーナス』 鈴木孝夫『相手依存の自己規定』 文学的文章 中島敦『山月記』 その他生徒の状況に合わせて適宜選出する。	・評論読解のために、言葉を正確に読むこと、すなわち「対比」「同義」「因果」という3つの関係を意識させる。 ・他人の意見を聞き、互いに質疑応答できるように訓練する。 ・小説においては、作品論的アプローチを主としつつ、作家論的アプローチにも挑戦させ作品への理解を深める。 ・『山月記』に関連して、存在論、実存主義基本的な理念も紹介する。
2 学期	論理的文章 小川眞里子『科学的「発見」とは』 長谷川英祐『人間の運命と科学』 文学的文章 夏目漱石『こころ』 その他生徒の状況に合わせて適宜選出する。	・聞く力・話す力の向上をねらいとして、身の回りの事象や文学作品をテーマに問いを立て、探究する。必要に応じて、グループディスカッション・プレゼンテーションの技術を習得し、活用することを求める。
3 学期	論理的文章 丸山真男『「である」ことと「する」こと』 高階秀爾『日本人の美意識』 文学的文章 横光利一『蠅』 その他生徒の状況に合わせて適宜選出する。	・評論・小説読解の技術を活用して理解した内容をもとに、持論を形成しプレゼンテーションができ、他者とディスカッションすることができるようになる。

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／グループワーク／意見発表
教 科 書	『精選現代文B』東京書籍
副 教 材	『プレミアムカラー国語便覧』数研出版、『演習入試漢字コア 2800』桐原書店、 『読解を深める現代文単語』桐原書店
評 価 の 方 法	平常点（小テスト、積極性、レポート）100%
備 考	・上記の授業内容は予定であり、今後の授業展開や学習者の実態に応じて授業内容が変更されることがある。

高校2年（国語科）

科 目	単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
古典B	2	必修	FT・FTs	山本聖

目 標	・1年時から引き続いて古典文法および修辞を教授し、古典常識も理解させる。古文単語は最少300語を習得させる。 ・漢文の基本語彙・基本句形を徹底して身につけさせる。 ・古文・漢文とも精読を通して解釈力を向上させ、年度後半は正確な速読ができるようにする。 ・入試を次第に意識させ、年度末の模試でクラス平均偏差値が60以上になることを目指す。			
育 て たい 力	意欲・関心・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
	・自分の力で古典を解釈する意欲を基礎に、読解力の向上を図る。	・たとえば古文における情緒的表現、漢文における論理的な表現に着目させ、日本の古典文学の特徴を考える力を身に付ける。	・本文に書かれている内容を正確に把握できる力を向上させ、心情変化・人間関係・言動の意図などに関わる問題の解答率を上げる。	・目標にあるように、基本的な知識の定着を課題として反復演習等を行う。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1学期	【古文】 一年時の知識をもとにした問題演習および作品読解（生徒の状況に合わせ適宜選出する） 【漢文】 一年時の知識をもとにした問題演習および作品読解（生徒の状況に合わせ適宜選出する）	・古文は単語・文法に注意しながら逐語訳を徹底させる。 ・敬語法の基礎を習得させる。 ・漢文は音読の大切さを意識させ正確に読む力を伸ばし、漢文独特のリズムを感得させる。 ・漢文の基礎知識を徹底して身につけさせる。
2学期	【古文】 作品読解（生徒の状況に合わせ適宜選出する） 【漢文】 作品読解（生徒の状況に合わせ適宜選出する）	・様々な分野・時代の文章を精読することで、古典文法の習熟度を上げる。同時に古典常識の知識を増強させる。 ・漢文も速読を意識しながら、書き下し（音読）と口語訳がほぼ同時に行えるようにさせる。
3学期	【古文】 国立大試験問題演習および作品読解（生徒の状況に合わせ適宜選出する） 【漢文】 共通テスト（センター試験）問題演習および作品読解（生徒の状況に合わせ適宜選出する）	・文法・敬語法の復習を行いつつ、古典文学における美意識や心理描写を味合わせてより深い読解に結びつける。 ・ここまで学習した漢文語彙・句形の知識を長文読解の中で即座に利用することができるよう演習を重ねる。

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／講義形式／グループワーク
教 科 書	『精選古典B』東京書籍
副 教 材	『プレミアムカラー国語便覧』数研出版、『体系古典文法』数研出版、『詳説漢文』いっぴいな書店、『読んで見て覚える重要古文単語315』桐原書店、『古文速読トレーニング基礎』数研出版
評 価 の 方 法	平常点100%（小テスト、授業態度、ノート、課題等）
備 考	・上記の授業内容は予定であり、授業展開や学習者の実態に応じて変更することがある。

高校2年（地理歴史科）

科 目	単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
地理A	2	必修	AM s ・ GL s	秋武

目 標	・現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。 ・世界地誌の基本的知識を習得し、次年度の世界史への橋渡しを行う。			
育 て た い 力	意欲・関心・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
	・現代世界に表出される諸現象を、地理的因果関係から論理的に明らかにできる。 ・地理的なものの見方を様々な社会事象にも積極的に用いようとする意欲・態度を養う。	・世界の人々の生活と環境の多様性を、自然及び社会的条件と関連付けて適切に判断できる。 ・地理的因果関係を合理的に理解するにあたってさまざまな観点から考えることができる。	・地図や統計資料から諸現象の背景や要因について大局的な理解ができる。 ・自らの考えを、統計資料などを用いて説得力を持って他者に伝えることができる。	・日本の諸地域と世界の諸地域における基礎的・基本的な知識を習得し、理解する。 ・普遍的な原理を理解し、合理的判断を下すための要素としての、活用できる知識を習得する。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	≪地球儀や地図から捉える現代社会≫ ・地球上の位置と国家 ≪人間生活を取り巻く環境≫ ・人々の生活と地形 ・人々の生活と気候 ≪世界の諸地域の生活・文化≫ ・中国の生活・文化	◎世界地誌を学ぶにあたって、最低限必要な地理の概念を確認する。 ・地球表面の大陸と海洋の分布を理解する。 ・緯度、経度の概念と球面上での位置関係を正しく理解する。 ・国家の領域を正しくとらえるとともに、地域区分の概念を理解する。 ・大地形の成因と特徴について理解を深める。 ・世界の気候区分と生活とのかかわりを概観する。 ◎世界地域の生活・文化を地理的環境、民族的特徴・経済産業的動向から理解する。 ・中国の人々の生活・文化の特色や動向を考察する視点や方法を習得する。
2 学期	・東南アジアの生活・文化 ・インドの生活・文化 ・中央アジア・西アジア・北アフリカの生活・文化 ・ヨーロッパの生活・文化	・東南アジアの生活・文化の特色や動向を考察する視点や方法を習得する。 ・インドの生活・文化の特色や動向を考察する視点や方法を習得する。 ・中央アジア・西アジア・北アフリカの生活・文化の特色や動向を考察する視点や方法を習得する。 ・ヨーロッパの生活・文化の特色や動向を考察する視点や方法を習得する。
3 学期	・北アメリカの生活・文化	・北アメリカの生活・文化の特色や動向を考察する視点や方法を習得する。

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／講義形式 タブレットを活用したグループワーク・プレゼンテーション等
教 科 書	『高等学校 新地理A』帝国書院、『新詳高等地図』帝国書院
副 教 材	『新詳地理資料 COMPLETE2022』帝国書院
評 価 の 方 法	平常点 100%（主題図の作成・プレゼン・小テスト・単元テストなど）
備 考	・グループワークによるプレゼンテーションを積極的に行う。

高校 2 年 （地理歴史科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
地理 B	4	必修	AM・GL	秋武・中川

目 標	・現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景・日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養う。 ・地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。 ・世界地誌の基本的知識を習得し、世界史とリンクした観点を養う。			
育 っ て い た い 力	意欲・関心・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
	・現代世界の諸現象を、地理的因果関係から論理的に明らかにしようとする。 ・地理的なものの見方を様々な社会事象にも積極的に用いようとする。	・世界の人々の生活の多様性を、自然及び社会的条件と関連付けて適切に判断できる。 ・地理的因果関係を合理的に理解するにあたってさまざまな観点から考えることができる。	・地図や統計資料から、諸現象の背景や要因について大局的な理解が出来る。 ・自らの考えを、地図や統計資料などを用いて説得力を持って他者に伝えることができる。	・日本の諸地域と世界の諸地域における基礎的・基本的な知識を習得し、理解する。 ・普遍的な原理を理解し、合理的判断を下すための要素としての、活用できる知識を習得する。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	【系統地理分野】 ≪地球儀や地図から捉える現代社会≫ ・地球上の位置 ・地球儀と図法、時差 ・大地形、小地形、地形図 ・気候	◎地理を学習する上で、各分野にて最低限必要な地理の概念を確認する。(系統地理) ・緯度・経度の概念と球面上での位置関係を正しく理解する。 ・地図の 4 要素や改良の歴史、地形図の読図・各図法の特徴について理解する。 ・大地形の成因と特徴について理解を深める。 ・世界の気候要素や気候区分、生活とのかかわりを概観する。
2 学期	・農林水産業 ・鉱産資源、エネルギー ・工業 ・第 3 次産業 ・交通・通信・貿易 ・人口 ・村落・都市 ・生活文化、民族・宗教	・気候・地形・土壌の分布から世界各地の農牧林業分布を考え、社会的理由によって特徴的な分布を示す農業も学ぶ。 ・大地形の復習を兼ねて鉱産資源とエネルギー資源の分布および新エネルギーの現在の価値と各国の特徴について学ぶ。 ・各種工業について、設立の経緯や立地条件の変化を通して特徴を考察させる。 ・水上・陸上交通が果たしてきた役割と、航空交通網が世界に与えた影響について理解し、今後の姿について考察する。 ・世界の人口推移とその課題、人口構成と人口転換の社会的・経済的背景を理解させる。 ・集落の形成過程について理解し、地形図から集落の形態を判別できるようになる。都市の機能について理解する。 ・民族と宗教について、民族と言語、世界の宗教の分布や特徴、生活との関わりについて考察する。
3 学期	【地誌分野】 ≪人間生活を取り巻く環境≫ ・人々の生活と地形および気候 ≪世界の諸地域の生活・文化≫ ・世界の諸地域の生活・文化	◎世界地域の生活・文化を地理的環境、民族的特徴・経済産業的動向から理解する。(地誌) ・世界の諸地域（アジア、アフリカ、ヨーロッパ、アングロアメリカ、ラテンアメリカ、オセアニア）の人々の生活・文化の特色や動向を考察する視点や方法を習得する。

授 業 の 形 態	クラス授業/一斉授業/講義形式、タブレットを活用したグループワーク・プレゼンテーション等
教 科 書	『新詳地理 B』 帝国書院、『新詳高等地図 初訂版』 帝国書院
副 教 材	『新詳地理資料 COMPLETE』 帝国書院
評 価 の 方 法	平常点 100% ※ レポート課題・単元テスト・5 月 GW 課題・夏期主題図の作成・授業内プレゼン・タブレットリアクション・予習復習ノート・地図地理検定の受験などを平常点に含む予定。 ※ 平常点は、各提出物の内容・提出期日により評価する。
備 考	・グループワークによるプレゼンテーションを積極的に行う。与えられた課題に対し統計資料などをもとにして、常に自分で検討し、自分の結論を持ち積極的に表現すること。 ・定期テストを実施しないため、日常の取り組みが評価のすべてとなる。主体的に取り組める姿勢が、最も重要である。

高校 2 年 （地理歴史科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
地理 B	2	選択必修	FT・FTs	山本

目 標	・地理的思考の基礎となる「系統地理」分野を学ぶ。 ・現代世界の地理的な諸課題を地域性と結び付けて考察することで、地理的な見方や考え方を培い、グローバル化の加速する世界で主体的に生きる力を養う。 ・世界の文化や歴史を地理的に考察することで、「正義と倫理を持った地球市民」の育成を目指す。			
育 っ た い 力	意欲・関心・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
	・現代世界の諸現象を、地理的因果関係から客観的に考察しようとする。	・地図や世界の動向を表す統計資料などを用いて、世界の諸問題を合理的に判断できる。	・地図や統計資料から、諸現象を客観的に分析できる。 ・自分の考えを地図や統計資料に基づいて表明することができる。	・普遍的な原理・理論を理解し、合理的判断を下すための根拠となる知識を習得する。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	【系統地理分野】 ・地球儀と図法、時差 ・大地形、小地形、地形図 ・気候・環境問題	・大地形の形成過程から分布傾向や産出される地下資源を理解する。 ・侵食・堆積によって形成される局地的な地形と人間生活の関係を学ぶ。 ・地形図を作成するための方法と適用されるルールを理解することで、地形図が表現する内容を正確に把握して地形図が読めるようになる。 ・気候をつくる根本原理を論理的に理解する。そしてその原理が実際の地球各地ではどのような傾向を持って現れるかをケッペンの気候区分法を用いて把握する。また、植生・土壌も合わせて理解する。
2 学期	・農林水産業 ・鉱産資源、エネルギー ・工業 ・第 3 次産業 ・交通	・気候・地形・土壌の分布から世界各地の農牧林業分布を規定しなおすとともに、社会的理由によって特徴的な分布を示す農業も学ぶ。また、それら産物の流通を今日的な視点から解析できるようになる。 ・気候要素としての海流という観点から水産業を理解し直す。 ・大地形の復習を兼ねて鉱産資源とエネルギー資源の分布および新エネルギーの現代的価値と各国の特徴について学ぶ。 ・交通について、水上・陸上交通が果たしてきた役割と、航空交通網が世界に与えた影響について理解し、今後の姿について考察する。
3 学期	・人口 ・村落・都市 ・生活文化、民族・宗教	・都市化と都市問題について経済発展の観点から学び、消費行動の変化がもたらす行動空間の変化を分析できるようになる ・集落の形成過程について理解し、地形図から集落の形態を判別できるようになる。 ・民族と宗教について、民族と言語、世界の宗教の分布や特徴、生活との関わりについて考察する。

授 業 の 形 態	クラス授業/一斉授業/講義形式、タブレットを活用したグループワーク・プレゼンテーション等
教 科 書	『新詳地理 B』 帝国書院、『新詳高等地図 初訂版』 帝国書院
副 教 材	『新詳地理資料 COMPLETE』 帝国書院
評 価 の 方 法	定期考査 90%＋平常点 10% （※ 定期考査：1 学期中間を除く年間 4 回実施予定） 5 月 GW 課題・国際地理オリンピックへの参加・地図地理検定の受験・授業内プレゼン・小テスト・タブレットリアクション・予習復習ノート などを平常点に含む予定
備 考	・アクティブラーニングを取り入れる。与えられた課題に対し統計資料などをもとにして、常に自分で検討し、自分の結論を持ち積極的に表現すること。 ・3 月の年度末補講にて地誌分野に進む予定。

高校2年（地理歴史科）

科 目	単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
世界史B	4	必修	AM・GL	角原・山岸

目 標	・現代の国際社会で生きていくために最低限必要な世界各地の歴史と文化を、成立要因と過程に注目して捉える。 ・今日のグローバリゼーションの起源を学び、国際的な諸課題について考察し知識・理解を深める。 ・多角的な世界の見方を学ぶことで、立命館の教学理念「平和と民主主義」についての理解を深める。			
育 っ た い 力	意欲・関心・態度 ・歴史に登場する人物やそれ以外の一般人の心情を汲み取ろうとする。 ・歴史的事象や現代世界の事象を多角的な視点で見る。	見方・考え方 ・歴史的事象を現代の社会的事象や人間の生き方と結び付けて、自らのあり方について考える力を養う。	表現・処理 ・資料を用いて事実の把握と問題提起・解決に有効な情報を主体的に選択し活用することができる。	知識・理解 ・世界の歴史についての基本的な事柄を現代における諸事象と関連付けながら正しく理解し、その知識を身につける。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1学期	・「世界史A」と「現代社会」の学びを深める ・現代社会の芽生えと世界大戦 ・現在につながる社会の形成 ・第一次世界大戦がもたらしたもの ・民族自決を求めて ・経済危機から第二次世界大戦へ ・冷戦終結への道のり、地域社会への歩み	・第二次産業革命と帝国主義の成立、展開についてアフリカ分割を例に学習する。 ・近代戦、総力戦、女性の社会参加、民族運動の原因となった第一次世界大戦の概観と植民地の動向を学習する。 ・世界恐慌とファシズムの台頭について、大衆化の観点から理解を深める。 ・冷戦の終結、社会主義体制の崩壊により新しい時代が幕開けしたが、地球規模の問題の解決に世界全体で取り組まなければならないことを理解し、世界の歴史を学ぶ意義について考える。
2学期	・1部 諸地域世界の形成と交流 - 序章 人類の出現 1章 オリエント世界と地中海世界の出現 1 オリエント世界の形成 2 地中海世界の形成とオリエントとの融合 3 ローマと地中海世界の成長 4 ローマ帝国周辺の西アジア 3章 南アジア世界の形成 4章 東アジア世界のあけぼの 1 中華文明の形成 2 秦漢帝国と東アジア 7章 東アジア世界の変動と再編 1 ユーラシアの変動と東アジア世界 2 東アジア諸地域の成長と自立	・人類の誕生から文明の成立に至るまでの先史時代を概観し、獲得経済・国家形成に至る過程を学び、歴史時代へのつながりを認識する。 ・オリエント・地中海世界の特徴を気候・地形などと関連させて捉えると共にそれが統合され、ヨーロッパの原型が造られる様相を歴史的・地域的に理解する。 ・海洋と山に囲まれ、モンスーン気候の影響を大きく受けて、独自の文明世界を形成した南アジア世界の特色を理解し、同時に他地域への影響も捉える。 ・北部の乾燥・畑作地域と南部の湿潤・稲作地域という2つの農耕世界を漢字文化が結びつけ、統一王朝が成立したことを理解する。同時に周囲の国家形成の様相も捉える。 ・北方民族の活発化と中国の混乱した時代が重なり、大きく変容した東アジア世界の状況を総合的に捉えるとともに、周縁世界の自立を理解する。
3学期	8章 イスラーム世界の形成と拡大 1 イスラーム文明の誕生 2 イスラーム世界の形成と拡大 10章 ユーラシア大帝国の出現 9章 ヨーロッパ世界の形成 1 地中海北方へ広がるキリスト教 2 西ヨーロッパの成長と拡大 3 封建社会の解体と王権の伸張	・交易を重視した都市生活を背景に生まれたイスラームが、単なる宗教にとどまらず、独自の世界を形成し、やがてヨーロッパとアジアを結びつける役割を果たしていくことを理解する。 ・モンゴル帝国が従来から内陸交易で結ばれていたユーラシアの農耕・牧畜両世界を政治的に統合したものであり、世界の一体化を進めていく一大画期となったことを理解させる。 ・封建社会の形成と変容、キリスト教世界の形成、十字軍の遠征と国王による中央集権化の進展について学び、地中海世界が解体し、ヨーロッパ世界が形成された過程を理解する。

授 業 の 形 態	講義形式 グループワークなど
教 科 書	『新詳 世界史B』帝国書院 『明解 世界史A』帝国書院
副 教 材	
評 価 の 方 法	平常点100%（レポート課題・パフォーマンス課題・単元テストなど）
備 考	

高校 2 年 （社会科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
世界史 B	3	必修	FT	山岸

目 標	- 世界史の概論（特に、先史時代～近世史）を理解する。 - 史料を「文脈を踏まえて理解する」ための基礎を涵養する。			
育 て た い 力	意欲・関心・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
	歴史事象の整理を主体的に行う。	先行研究・歴史学界の動向を踏まえたうえで、多様な見方を理解する。	歴史事象を理解し、他地域や隣接する時代と比較するなど、特徴を踏まえた論述をできるようにする。	歴史事象を正確に把握する。その際に、地域性や時代性を意識して、丸暗記ではない理解を進める。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	<u>先史・古代史</u> - 先史時代 - 古代オリエント史 - 古代ギリシア・ローマ史 - 古代中世インド史 - 前近代東南アジア史 - 古代アジア史	先史時代・古代史を中心に概論する。食糧生産革命、都市国家の成立、宗教などに重点を置く。その中でも宗教の基礎的な理解、宗教と支配の関係は史料などを用いて立ち入った理解を深める。古代アジア史では、中国の土地制度を丁寧に把握する。古代ギリシア・ローマ史では、古代末期論や地中海世界研究を用いて、より包括的な時代・地域理解を獲得する。
2 学期	<u>東洋中近世史・イスラーム史</u> - 中世アジア史 - 近世アジア史 - 前近代イスラーム史	中世・近世アジア史では、土地と税制、他地域との関係を特に丁寧に理解する。時代の転換点を把握し、古代から中世、中世から近世への変容とそれらの特徴を、史料を用いて理解する。イスラームは日本人にかなり難解な思想であるため、イスラームの思想内容を丁寧に理解する。加えて、カリフの意味の変容やイスラーム王朝の分裂について丁寧に整理する。
3 学期	<u>イスラーム史・ユーラシア史・西洋中世史</u> <u>冷戦史（A の未到達部分があれば）</u> - 前近代イスラーム史 - 西洋中世史 - ユーラシア史	西洋中世史を中心に概論する。特に、封建制、キリスト教、皇帝権と教皇権、中世都市の成立に重点を置く。可能な限り史料に基づいた理解を推進する。前近代イスラーム史では、特にオスマン帝国の宗教的寛容と官僚制に力点を置いた理解を進める。世界史 A で終わらなかった範囲があれば、3 学期か夏期・冬期などの講習でフォローする。時間に余裕があれば、各論・を行う。

授 業 の 形 態	講義・議論
教 科 書	『世界史 B』 帝国書院
副 教 材	『タペストリー』 帝国書院
評 価 の 方 法	定期考査 90%、平常点 10%（小テスト・提出物・授業内活動）
備 考	

高校2年（地理歴史科）

科 目	単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
日本史B	2	選択	F T ・ F T s	荒井

目 標	- 日本の歴史を、世界の歴史と関連付けながら理解させ、人類の課題を多角的に考察させることによって、歴史的思考力を培い、「国際人」として必要な自覚と資質を養う。 - わが国において、人間の権利と自由の尊重を獲得するまでの道のりを理解し、教学理念の「平和と民主主義」について理解を深める。			
育 て た い 力	意欲・関心・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
	日本の歴史に対する関心と課題意識を高め、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を自覚する。	日本の歴史から課題を見出し、世界的視野に立つて、多面的・多角的に考察し、判断する能力を養う。	日本の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用し、これを適切に表現する能力を培う。	日本の歴史についての基本的な事柄を世界の歴史と関連付けながら正しく理解し、その知識を身につける。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	- ガイダンス - 日本文化のあけぼの - 律令国家の形成 - 貴族政治と国風文化	- 原始社会や古代国家の成立から変質、そしてそれぞれの時代の社会や文化の特色について、東アジア世界の動向や東アジア世界からもたらされた文物・諸制度が、我が国の国家や文化の形成に大きな影響を及ぼしたことに留意し、地理的条件とかかわらせながら多面的・多角的に考察し、この時代の特色を大きくとらえる。 - 東アジア世界との関係の変化、諸地域における土地と人々に対する支配体制の動揺、公領の変質や荘園の拡大と武士の登場、摂関政治の展開や院政の成立などに着目して、律令体制の再編と変質について考察する。
2 学期	- 中世社会の形成 - 武家社会の成長	- この時期の仏教にみられる多様な動きの社会的・思想的な意義やその影響について考察するとともに、武士や庶民を題材にした文学や絵巻物などに着目して、文化に新しい機運が生まれたこととその背景を考察する。 - 貴族階級に代って、武士による政権が誕生し、武家社会を確立させていく。この流れを東アジアとの関係や、大航海時代を迎えての世界的な歴史を踏まえて、日本独自の封建社会について理解を深める。
3 学期	- 室町幕府の成立 - 室町時代の社会	- 室町幕府の成立過程を理解し、遣唐使廃止移行後、中国との国交を開き、その後の日本にどのような影響を与えたかを考察する。 - 室町時代の社会状況が、その後の日本社会にどのような影響をあたることになるのかを考察する。

授 業 の 形 態	一斉講義、協同学習
教 科 書	『日本史B』山川出版社
副 教 材	『新詳日本史』浜島書店、『頻出テーマ 日本史重要史料集』浜島書店
評 価 の 方 法	定期考査 90％＋平常点 10％（予習課題・振返課題・単元テストなど）
備 考	・授業進度は早いので、各自しっかり予習をして授業に臨むこと。

高校 2年 (数学科)

科 目	単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
数学Ⅱ	4	必修	AM・GL	吉川秀・八木・小嶋

目 標	- 複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数及び微分法と積分法の考えについて理解する。 - 知識の習得と技能の成熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を身につける。			
育 て たい 力	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
	複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数及び微分・積分の考え方に興味をもつとともに、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現することなどを通して、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数及び微分・積分の考えにおける数学的な見方や考え方を身につける。	複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数及び微分・積分の考え方において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につける。	複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数及び微分・積分の考え方における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身につける。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	第2章 複素数と方程式 (複素数とその計算/2次方程式の解/解と係数の関係/剰余の定理と因数定理/高次方程式)	- 数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算をできるようにする。 - 方程式の解を発展的にとらえ、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くことや因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。
	第3章 図形と方程式 (直線上の点/平面上の点/直線の方程式/2直線の関係/円の方程式/円と直線/2つの円/軌跡と方程式/不等式の表す領域)	- 座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 - 軌跡と領域の概念を理解し、求められるようにする。また、不等式の領域を利用した証明方法を理解する。
2 学期	第4章 三角関数 (角の拡張/三角関数/三角関数のグラフ/三角関数の性質/三角関数の応用/三角関数の加法定理/加法定理の応用)	- 三角関数について理解し、関数についての理解を深め、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。 - 角の概念を一般角まで拡張する意義や弧度法による角度の表し方について理解し、三角関数の値の変化やグラフの特徴について理解する。 - 三角関数の加法定理や2倍角の公式、合成について理解する。
	第5章 指数関数と対数関数 (指数の拡張/指数関数/対数とその性質/対数関数/常用対数)	- 指数関数・対数関数について理解し、関数についての理解を深め、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。 - 指数を有理数へ拡張する意義を理解し、指数法則を用いて数や式の計算をできるようにする。 - 指数関数・対数関数の値の変化やグラフの特徴について理解する。
	第6章 微分法と積分法 (微分係数/導関数とその計算/接線の方程式/関数の増減と極大・極小/関数の増減・グラフの応用/不定積分/定積分/図形の面積と定積分)	具体的な事象の考察を通して微分・積分の考えを理解し、それを用いて関数の値の変化を調べることや面積を求めることができるようにする。
3 学期		

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業、グループ or 個別学習
教 科 書	『改訂版 高等学校 数学Ⅱ』数研出版
副 教 材	『改訂版 4プロセス 数学Ⅱ+B』数研出版
評 価 の 方 法	定期考査 60%＋平常点 40% (立守数検、小テスト、課題など)
備 考	- 立守数検を活用し、毎学期の振り返りを行う - 平日の放課後に補習を実施し、学習内容の定着を図る

高校 2年 (数学科)

科 目	単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
数学Ⅱ	4	必修	AMs・GLs	吉川秀・小嶋

目 標	・複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数及び微分法と積分法、数学Ⅲ複素数平面の考えについて理解する。 ・知識の習得と技能の成熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を身につける。			
育 っ た い 力	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
	・複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数及び微分・積分の考え方に関心をもつとともに、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	・事象を数学的に考察し表現することなどを通して、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数及び微分・積分の考えにおける数学的な見方や考え方を身につける。	・複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数及び微分・積分の考え方において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につける。	・複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数及び微分・積分の考え方における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身につける。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	第2章 複素数と方程式 (複素数とその計算/2次方程式の解/解と係数の関係/剰余の定理と因数定理/高次方程式)	・数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算をできるようにする。 ・方程式の解を発展的にとらえ、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くことや因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。
	第3章 図形と方程式 (直線上の点/平面上の点/直線の方程式/2直線の関係/円の方程式/円と直線/2つの円/軌跡と方程式/不等式の表す領域)	・座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 ・軌跡と領域の概念を理解し、求められるようにする。また、不等式の領域を利用した証明方法を理解する。
2 学期	第4章 三角関数 (角の拡張/三角関数/三角関数のグラフ/三角関数の性質/三角関数の応用/三角関数の加法定理/加法定理の応用)	・角の概念を一般角まで拡張する意義や弧度法による角度の表し方について理解し、三角関数の値の変化やグラフの特徴について理解する。 ・三角関数の加法定理や2倍角の公式、合成について理解する。
	第5章 指数関数と対数関数 (指数の拡張/指数関数/対数とその性質/対数関数/常用対数)	・指数を有理数へ拡張する意義を理解し、指数法則を用いて数や式の計算をできるようにする。 ・指数関数・対数関数の値の変化やグラフの特徴について理解する。
	第6章 微分法と積分法 (微分係数/導関数とその計算/接線の方程式/関数の増減と極大・極小/関数の増減・グラフの応用/不定積分/定積分/図形の面積と定積分)	・具体的な事象の考察を通して微分・積分の考えを理解し、それを用いて関数の値の変化を調べることや面積を求めることができるようにする。
3 学期	数学Ⅲ 第1章 複素数平面 (複素数平面)	・複素数平面と複素数の極形式、複素数の実数倍、和、差、積及び商の図形的な意味を理解する。

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業、グループ or 個別学習
教 科 書	『改訂版 高等学校 数学Ⅱ』数研出版、『改訂版 高等学校 数学Ⅲ』数研出版
副 教 材	『改訂版 4プロセス 数学Ⅱ+B』数研出版、『改訂版 4プロセス 数学Ⅲ』数研出版 『AI教材 atama+』
評 価 の 方 法	定期考査 60%＋平常点 40% (立守数検、小テスト、課題など)
備 考	・立守数検を活用し、毎学期の振り返りを行う ・AI教材を活用し、学習内容の習熟を図る ・平日の放課後に補習を実施し、学習内容の定着を図る

高校2年（数学科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
数学Ⅱ	4	必修	FT	古山

目 標	・微分法、積分法、いろいろな関数及び極限について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。 ・上記の内容について、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識し、それらを活用する態度を身につける。			
育 っ て たい 力	意欲・関心・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
	・多面的にものを見たり、理論性のあるいろいろな考えに触れたり、試行錯誤しながら考え、主体的に数学的な見方や考え方のよさを学ぼうとする。 ・身近な事象を数値化し、積極的に数学を活用しようとする。	・数学的な見方や考え方のよさを認識できる。 ・自らの思考過程を振り返りながらより発展的に考え、一般化して問題の本質を探ることができる。	・数学的な見方や考え方を生かし、自ら工夫して問題を解決し判断することができる。 ・設定した数学的な課題を既習事項や公式・定義などを基にして分析・整理し、数学的に考察したことを明確に表現することができる。	・数理的に考察し処理することのよさや既習事項などを体系的に整理し活用できる。 ・構成した数学的知識の意味を考え、見いだした数学的知識を活用できる。 ・文化や社会生活において数学の役割を理解している。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	第6章 微分法と積分法 ・微分係数・導関数・接線・関数の値の変化 ・最大値最小値・関数のグラフと方程式不等式	・微分係数や導関数の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の導関数を求められる ・導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形をかき、事象の考察に活用できる
	・不定積分・定積分・面積	・不定積分及び定積分の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の不定積分や定積分を求められる
2 学期	図形と計量・三角関数の復習 (復習内容は一例であり、アンケートを取るなど生徒の状況に応じて適切に変更することがある)	・既習範囲の復習を通して苦手分野に取り組む ・公式を用いた問題、簡単な記述問題に習熟し、共通テストに備える ・毎回の課題を通して、規則正しく学習する習慣を身につける ・高3から入試問題に取り組むための数学の土台を確立する
	図形と方程式の復習	
3 学期	入試問題演習	

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／講義形式
教 科 書	『改訂版 高等学校 数学Ⅱ』数研出版
副 教 材	『改訂版 スタンダード数学Ⅱ+B』数研出版 『Focus Gold 4 th Edition I+A, II+B』啓林館
評 価 の 方 法	定期考査 60%＋平常点 40%（問題集用ノート、長期休暇課題、立守数検、小テストなど）
備 考	・夏季・冬季・春季休業中に演習のための特別授業を行う。

高校2年（数学科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
数学Ⅱ	4	必修	FTs	中山

目 標	・微分法、積分法、いろいろな関数及び極限について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。 ・上記の内容について、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識し、それらを活用する態度を身につける。			
育 て た い 力	意欲・関心・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
	・多面的にものを見たり、理論性のあるいろいろな考えに触れたり、試行錯誤しながら考え、主体的に数学的な見方や考え方のよさを学ぼうとする。 ・身近な事象を数値化し、積極的に数学を活用しようとする。	・数学的な見方や考え方のよさを認識できる。 ・自らの思考過程を振り返りながらより発展的に考え、一般化して問題の本質を探ることができる。	・数学的な見方や考え方を生かし、自ら工夫して問題を解決し判断することができる。 ・設定した数学的な課題を既習事項や公式・定義などを基にして分析・整理し、数学的に考察したことを明確に表現することができる。	・数理的に考察し処理することのよさや既習事項などを体系的に整理し活用できる。 ・構成した数学的知識の意味を考え、見いだした数学的知識を活用できる。 ・文化や社会生活において数学の役割を理解している。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	数学Ⅱ 第6章 微分法と積分法 (不定積分/定積分/面積) 数学Ⅲ 第3章 関数 (分数関数/無理関数/逆関数と合成関数)	・不定積分及び定積分の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の不定積分や定積分を求められる。 ・分数関数と無理関数及びそれらのグラフの特徴について理解できる。 ・合成関数や逆関数の意味を理解し、それらを求められる。
	第4章 極限 (数列の極限/無限等比数列/無限級数/ 関数の極限/三角関数と極限/関数の連続性)	・数列の極限について理解し、求め、事象の考察に活用できる。 ・無限級数の収束・発散について理解し、無限等比級数などの簡単な無限級数の和を求め、事象の考察に活用できる。 ・関数の極限について理解し、求めることができる。 ・関数の連続性について理解する。
2 学期	第5章 微分法 (微分係数と導関数/導関数の計算/ いろいろな関数の導関数/第n次導関数/ 関数のいろいろな表し方と導関数) 第6章 微分法の応用 (接線と法線/平均値の定理/関数の値の変化/ 関数の最大と最小/関数のグラフ/ 方程式不等式への応用)	・微分法についての理解を深めるとともに、その有用性を認識し、事象の考察に活用できる。 ・関数の積及び商の導関数について理解し、関数の和、差、積及び商の導関数を求められる。 ・合成関数の導関数について理解し、合成関数の導関数を求められる。 ・三角関数、指数関数及び対数関数の導関数を求められる。 ・導関数を用いて、いろいろな曲線の接線の方程式を求め、いろいろな関数の値の増減、極大・極小、グラフの凹凸などを調べ、グラフの概計をかける。またそれらを事象の考察に活用できる。
	第7章 積分法 (不定積分とその基本的性質/置換積分法/部分積分法/いろいろな関数の不定積分/定積分とその基本的性質/定積分の置換積分/定積分の部分積分/定積分の種々の問題)	・積分法についての理解を深めるとともに、その有用性を認識し、事象の考察に活用できる。 ・いろいろな関数についての積分を工夫して求められるようになるとともに、置換積分法や部分積分法などの活用もできるようにする。
3 学期	第7章 第3節 積分法の応用 (面積/体積/曲線の長さ・速度と道のり) 数学Ⅲの復習	・いろいろな曲線で囲まれた図形の面積や立体の体積及び曲線の長さを定積分を利用して求める。 ・既習範囲の復習を通して苦手分野に取り組む。 ・公式を用いた問題、簡単な記述問題に習熟し共通テストに備える。 ・毎回の課題を通して、規則正しく学習する習慣を身につける。 ・高3から入試問題に取り組むための数学の土台を確立する。

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／講義形式
教 科 書	『改訂版 高等学校 数学Ⅱ』数研出版、『改訂版 高等学校 数学Ⅲ』数研出版
副 教 材	『改訂版 スタンダード数学Ⅱ+B』数研出版、『改訂版 スタンダード・オリジナル数学Ⅲ』数研出版 『Focus Gold 4th Edition 数学Ⅱ+B』啓林館、『Focus Gold 4th Edition 数学Ⅲ』啓林館
評 価 の 方 法	定期考査60%＋平常点40%（問題集用ノート、長期休暇課題、立守数検、小テストなど）
備 考	・夏季・冬季・春季休業中に特別授業を行う。

高校2年（数学科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
数学B	2	必修	AM・AMs GL・GLs	東前・吉川秀・児玉 ・館野・小嶋・北村

目 標	- ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 - 簡単な数列とその和及び漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。			
育 て たい 力	意欲・関心・態度	数学的な見方・考え方	数学的な技能	知識・理解
	- 座標・ベクトルを用いて図形の性質を解明しようとする - 数列・漸化式を活用しようとする	問題をモデル化して、数学の世界に持ち込み、ベクトル、数列を用いて問題を解決しようとする	諸問題に対して、それぞれの項目の意味をふまえて数式化し、計算で処理することができる	- ベクトルの表現を理解できる - 数列の基本的な性質を理解し、一般項、その和などを求めることができる

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	第3章 数列 (数列と一般項、等差数列、等差数列の和、等比数列、等比数列の和、和の記号 Σ 、階差数列、いろいろな数列の和、漸化式、数学的帰納法)	- 等差数列と等比数列について理解する。 - いろいろな数列の一般項や和について理解する。 - 漸化式について理解し、漸化式で表された数列について一般項を求める。 - 数学的帰納法について理解し、事象の考察に活用できるようにする。
2 学期	第1章 平面上のベクトル (ベクトル、ベクトルの演算、ベクトルの成分、ベクトルの内積、位置ベクトル、ベクトルの図形への応用、図形のベクトルによる表示)	- ベクトルの意味、相等、和、差、実数倍、位置ベクトル及びベクトルの成分表示について理解する。 - ベクトルの内積及びその基本的な性質について理解し、それらを平面図形の性質などの考察に活用できるようにする。
3 学期	第2章 空間のベクトル (空間の点、空間のベクトル、ベクトルの成分、ベクトルの内積、ベクトルの図形への応用、座標空間における図形)	- 平面座標にもう1本直交する座標を導入することで座標・ベクトルの考えが空間についても自然に拡張できることを知る。 - 空間でも平面と同じように、ベクトルの成分や内積、位置ベクトルを考えることができることを理解し、事象の考察に活用できるようにする。

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業，グループ or 個別学習
教 科 書	『改訂版 高等学校 数学B』数研出版
副 教 材	『改訂版 4プロセス 数学Ⅱ+B』数研出版 『AI 教材 atama+』（AMs・GLsのみ）
評 価 の 方 法	1 学期 定期考査50%（期末考査のみ）＋平常点50%（立守数検、atama+、小テスト、課題など） 2、3 学期 定期考査60%＋平常点40%（立守数検、atama+、小テスト、課題など）
備 考	- 立守数検を活用し、毎学期の振り返りを行う - AI 教材を活用し、学習内容の習熟を図る（AMs・GLsのみ） - 平日の放課後に補習を実施し、学習内容の定着を図る

高校2年（数学科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
数学B	3	必修	FT	中山

目 標	- ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識するとともに、平面図形・空間図形の問題解決に活用できるようにする。 - 簡単な数列とその和及び漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。			
育 て た い 力	意欲・関心・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
	- 座標・ベクトルを用いて図形の性質を解明しようとする。 - 数列・漸化式を活用しようとする。 - 複素数平面について興味を持ち、既習の学習事項との関係を探求する。	- ベクトルの有用性を認識し、ベクトルを用いて数学的に考察することができる。 - 問題をモデル化して、数学の世界に持ち込み、数列を用いて問題を解決しようとする。 - 複素数平面上での図形変換と計算の関係を考察できる。	- ベクトルを用いて図形の諸問題を解決できる。 - 数列の性質を的確に把握し、漸化式で表し一般項、和などを求めることができる。 - 諸問題に対して、その項目の意味をふまえ数式化し、計算で処理することができる。	- 図形の定義・性質と式・ベクトルでの表現を関連させて理解できる。 - 数列の基本的な性質を理解し、一般項、その和などを求めることができる。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	数学B 第3章 数列 (等差数列/等比数列/数列の和/ いろいろな数列/漸化式と数列/数学的帰納法)	- 等差数列、等比数列、階差数列などいろいろな数列について理解し、一般項及び和を求めることができる。 - 漸化式について理解し、漸化式で表された数列について、一般項を求めること、漸化式を事象の考察に活用することができる。 - 数学的帰納法について理解し、それを用いて命題を証明することができる。
	数学B 第1章 平面上のベクトル (平面上のベクトル/ベクトルの演算/成分/ 内積/ベクトルと図形/ベクトル方程式)	- ベクトルの意味を理解し、位置ベクトルの考え方を身に付け、図形の性質を考えることができる。 - ベクトル方程式を理解し、作成することができる。 - 平面座標にもう1本直交する座標を導入することで座標・ベクトルの考えが空間に拡張できることを知る。
2 学期	数学B 第2章 空間のベクトル (空間座標/空間のベクトル/空間のベクトルの 成分/内積/位置ベクトル/空間座標における直 線・平面・球面の方程式)	空間でも平面と同じように、ベクトルの成分や内積、位置ベクトルを考えることができることを理解し、図形の性質の考察に活用できる。
	数列の復習	- 既習範囲の復習を通して苦手分野に取り組む。 - 公式を用いた問題、簡単な記述問題に習熟し、共通テストに備える。
3 学期	場合の数・確率・整数の性質の復習	- 毎回の課題を通して、規則正しく学習する習慣を身につける。 - 高3から入試問題に取り組むための数学の土台を確立する。

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／講義形式
教 科 書	『改訂版 高等学校 数学B』数研出版
副 教 材	『改訂版 スタンダード数学II+B』数研出版 『Focus Gold 4th Edition 数学I+A』啓林館, 『Focus Gold 4th Edition 数学II+B』啓林館
評 価 の 方 法	定期考査 60%＋平常点 40%（問題集用ノート、長期休暇課題、立守数検、小テストなど）
備 考	・夏季・冬季・春季休業中に特別授業を行う。

高校2年（数学科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
数学B	3	必修	FTs	中川

目 標	- ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識するとともに、平面図形・空間図形の問題解決に活用できるようにする。 - 簡単な数列とその和及び漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。			
育 て た い 力	意欲・関心・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
	- 座標・ベクトルを用いて図形の性質を解明しようとする。 - 数列・漸化式を活用しようとする。 - 複素数平面について興味を持ち、既習の学習事項との関係を探求する。	- ベクトルの有用性を認識し、ベクトルを用いて数学的に考察することができる。 - 問題をモデル化して、数学の世界に持ち込み、数列を用いて問題を解決しようとする - 複素数平面上での図形変換と計算の関係を考察できる。	- ベクトルを用いて図形の諸問題を解決できる。 - 数列の性質を的確に把握し、漸化式で表し一般項、和などを求めることができる。 - 諸問題に対して、その項目の意味をふまえて数式化し、計算で処理することができる。	- 図形の定義・性質と式・ベクトルでの表現を関連させて理解できる。 - 数列の基本的な性質を理解し、一般項、その和などを求めることができる。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	数学B 第3章 数列 (等差数列、等比数列、数列の和、いろいろな数列、漸化式と数列、数学的帰納法)	- 等差数列、等比数列、階差数列などいろいろな数列について理解し、一般項及び和を求めることができる。 - 漸化式について理解し、漸化式で表された数列について、一般項を求めること、漸化式を事象の考察に活用することができる。 - 数学的帰納法について理解し、それを用いて命題を証明することができる。
	第1章 平面上のベクトル (平面上のベクトル、ベクトルの演算、成分、内積、ベクトルと図形、ベクトル方程式) 第2章 空間のベクトル (空間座標、空間のベクトル、空間のベクトルの成分、内積、位置ベクトル、空間座標における直線・平面・球面の方程式)	- ベクトルの意味を理解し、位置ベクトルの考え方を身に付け、図形の性質を考えることができる。 - ベクトル方程式を理解し、作成することができる。 - 平面座標にもう1本直交する座標を導入することで座標・ベクトルの考えが空間に拡張できることを知る。 - 空間でも平面と同じように、ベクトルの成分や内積、位置ベクトルを考えることができることを理解し、図形の性質の考察に活用できる。
2 学期	数学Ⅲ 第2章 式と曲線 (放物線、楕円、双曲線、2次曲線の平行移動、2次曲線と直線、2次曲線の性質、曲線の媒介変数表示、極座標と曲方程式)	- 平面上の曲線がいろいろな式で表されることについて理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 - 平面上の曲線がいろいろな式で表される（直交座標、極座標、媒介変数）ことを理解し、考察できる。
	第1章 複素数平面 (複素数平面、複素数の極形式と乗法・除法、ド・モアブルの定理、複素数と図形)	- 複素数平面と複素数の極形式、複素数の実数倍、和、差、積及び商の図形的な意味を理解し、それらを事象の考察に活用する - ド・モアブルの定理について理解し、複素数の諸演算が平面上の図形の移動などと関連付けられることを認識するとともに、極形式による表現の良さを理解する。
3 学期		

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／講義形式
教 科 書	『改訂版 高等学校 数学B』数研出版、『改訂版 高等学校 数学Ⅲ』数研出版
副 教 材	『改訂版 スタンダード数学Ⅱ+B』数研出版、『改訂版 スタンダードオリジナル数学Ⅲ』数研出版 『Focus Gold 4thEdition 数学Ⅱ+B』啓林館、『Focus Gold 4thEdition 数学Ⅲ』啓林館
評 価 の 方 法	定期考査 60%＋平常点 40%（問題集用ノート、長期休暇課題、立守数検、小テストなど）
備 考	・夏季・冬季・春季休業中に演習のための特別授業を行う。

高校2年（理科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
物理基礎	2	必修	AM・GL	水谷・水野・齋藤

目 標	・身の回りの自然現象等への興味・関心を高め、自然科学・技術を正しく活用しようという態度や倫理観を育む。 ・学習内容と実験・観察データを統合・判断して、論理的・科学的に説明できる力をつける。 ・実験・観察、探究活動を通して、科学的に探究する方法と能力を身につける。 ・自然科学の基礎・基本となる知識・概念の理解を深め、科学的な自然観の育成を図る。			
育 て た い 力	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	実生活と科学との関わりへの興味関心を高め、粘り強く科学的に探究しようする態度を身につける。	学習内容と実験結果から正しく現象を考察し、表現できる力を養う。	実験・観察、探究活動を通して、科学的に探究する方法を習得する。	物理の基礎・基本となる知識・概念を正しく理解する。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	運動の表し方 ・速度 ・加速度 ・落体の運動 運動の法則 ・力とそのはたらき ・力のつりあい ・運動の法則 ・摩擦を受ける運動	・速度，加速度の概念を把握し，これらを活用して定量的に表現する。 ・等加速度運動の典型例として，落体の運動を処理する。 ・力の概念を理解し，さまざまな局面で現れる力を見いだす。 ・摩擦力，抵抗力，浮力などが働く場合の運動を処理する。 ・力が物体に及ぼす効果を把握し，加速度との関連を理解し処理する。
2 学期	仕事と力学的エネルギー ・仕事 ・運動エネルギー ・位置エネルギー ・力学的エネルギーの保存 熱とエネルギー ・熱と熱量 ・熱と物質の状態 ・熱と仕事 ・不可逆変化と熱機関	・仕事と力学的エネルギーの概念を理解する。 ・力学的エネルギー保存の条件を理解し，各種の運動の計算に応用する。 ・熱と温度を原子や分子の熱運動という視点から理解する。 ・熱の移動及び熱と仕事の変換について理解する。
3 学期	音 ・音の性質 ・発音体の振動と共振・共鳴 物質と電気抵抗 ・電気の性質 ・電流と電気抵抗 ・電気エネルギー エネルギーとその利用 ・エネルギーの移り変わり ・エネルギー資源と発電 物理学が拓く世界	・波動現象の特徴と，伝わり方を理解する。 ・正弦波の要素（周期，振動数，振幅，波長，速さ）を理解し処理する。 ・縦波の表し方と，疎密や振動状態との関連を理解する ・波動固有の現象（干渉，回折，反射，屈折）を理解する。 ・音が縦波であること，音の要素，発音体の振動を理解し，処理する。・物質によって抵抗率が異なることを理解する。 ・交流の発生，送電及び利用について，基本的な仕組みを理解する。 ・各種エネルギーが相互に転換することを理解する。 ・人類が利用可能な水力，化石燃料，原子力，太陽光などを源とするエネルギーの特性や利用などについて，物理学的な視点から理解する。 ・「物理基礎」で学んだ事柄が，日常生活やそれを支えている科学技術と結び付いていることを理解する。

授業の形態	講義・グループでの実験やパフォーマンス課題など
教 科 書	『考える物理基礎』啓林館
副 教 材	なし
評価の方法	定期試験 0% + 平常点 100%（単元テスト・実験レポート・パフォーマンス課題など）
備 考	

高校2年（理科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
物理基礎	2	必修	AMs・GLs	水谷

目 標	・身の回りの自然現象等への興味・関心を高め、自然科学・技術を正しく活用しようという態度や倫理観を育む。 ・学習内容と実験・観察データを統合・判断して、論理的・科学的かつ説得的に説明できる力をつける。 ・実験・観察、探究活動を通して、科学的に探究する方法と能力を身につける。 ・自然科学の基礎・基本となる知識・概念の理解を深め、科学的な自然観の育成を図る。			
育 成 する 力	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	・実生活と科学との関わりへの興味関心を高め、科学的に探究しようする態度を身につける。	・学習内容と実験結果から正しく現象を考察し、表現できる力を養う。	・実験・観察、探究活動を通して、科学的に探究する方法を習得する。	・物理の基礎・基本となる知識・概念を正しく理解する。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	運動の表し方 ・速度 ・加速度 ・落体の運動 運動の法則 ・力とそのはたらき ・力のつりあい ・運動の法則 ・摩擦を受ける運動 ・液体や気体から受ける力	・速度、加速度の概念を把握し、これらを活用して定量的に表現する。 ・等加速度運動の典型例として、落体の運動を処理する。 ・力の概念を理解し、さまざまな局面で現れる力を見いだす。 ・摩擦力、抵抗力、浮力などが働く場合の運動を処理する。 ・力が物体に及ぼす効果を把握し、加速度との関連を理解し処理する。
2 学期	仕事と力学的エネルギー ・仕事 ・運動エネルギー ・位置エネルギー ・力学的エネルギーの保存 熱とエネルギー ・熱と熱量 ・熱と物質の状態 ・熱と仕事 ・不可逆変化と熱機関 波の性質 ・波と媒質の運動 ・波の伝わり方 音 ・音の性質 ・発音体の振動と共振・共鳴	・仕事と力学的エネルギーの概念を理解する。 ・力学的エネルギー保存の条件を理解し、各種の運動の計算に応用する。 ・熱と温度を原子や分子の熱運動という視点から理解する。 ・熱の移動及び熱と仕事の変換について理解する。 ・波動現象の特徴と、伝わり方を理解する。 ・正弦波の要素（周期、振動数、振幅、波長、速さ）を理解し処理する。 ・縦波の表し方と、疎密や振動状態との関連を理解する ・波動固有の現象（干渉、回折、反射、屈折）を理解する。 ・音が縦波であること、音の要素、発音体の振動を理解し、処理する。
3 学期	物質と電気抵抗 ・電気の性質 ・電流と電気抵抗 ・電気エネルギー 交流と電磁波 ・交流 ・電磁波 エネルギーとその利用 ・エネルギーの移り変わり ・エネルギー資源と発電 物理学が拓く世界	・物質によって抵抗率が異なることを理解する。 ・交流の発生、送電及び利用について、基本的な仕組みを理解する。 ・各種エネルギーが相互に転換することを理解する。 ・人類が利用可能な水力、化石燃料、原子力、太陽光などを源とするエネルギーの特性や利用などについて、物理学的な視点から理解する。 ・「物理基礎」で学んだ事柄が、日常生活やそれを支えている科学技術と結び付いていることを理解する。

授業の形態	クラス授業／一斉授業／講義・グループワーク・実験・実習・観察
教科書	『物理基礎 改訂版』啓林館
副教材	『セミナー 物理基礎+物理』 第一学習社, atama+ (デジタル教材), 各種プリント等
評価の方法	定期試験 80% + 平常点 20% (課題・小テスト・中テスト・レポート)
備考	

高校2年（理科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
物理基礎	2	必修	FT（物理選択者以外）	水野

目 標	・身の回りの自然現象等への興味・関心を高め、自然科学・技術を正しく活用しようという態度や倫理観を育む。 ・学習内容と実験・観察データを統合・判断して、論理的・科学的かつ説得的に説明できる力をつける。 ・実験・観察、探究活動を通して、科学的に探究する方法と能力を身につける。 ・自然科学の基礎・基本となる知識・概念の理解を深め、科学的な自然観の育成を図る。			
育 て た い 力	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	・実生活と科学との関わりへの興味関心を高め、科学的に探究しようする態度を身につける。	・学習内容と実験結果から正しく現象を考察し、表現できる力を養う。	・実験・観察、探究活動を通して、科学的に探究する方法を習得する。	・物理の基礎・基本となる知識・概念を正しく理解する。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	運動の表し方 ・速度 ・加速度 ・落体の運動 運動の法則 ・力とそのはたらき ・力のつりあい ・運動の法則 ・摩擦を受ける運動 ・液体や気体から受ける力	・速度，加速度の概念を把握し，これらを活用して定量的に表現する。 ・等加速度運動の典型例として，落体の運動を処理する。 ・力の概念を理解し，さまざまな局面で現れる力を見いだす。 ・摩擦力，抵抗力，浮力などが働く場合の運動を処理する。 ・力が物体に及ぼす効果を把握し，加速度との関連を理解し処理する。
2 学期	仕事と力学的エネルギー ・仕事 ・運動エネルギー ・位置エネルギー ・力学的エネルギーの保存 熱とエネルギー ・熱と熱量 ・熱と物質の状態 ・熱と仕事 ・不可逆変化と熱機関 波の性質 ・波と媒質の運動 ・波の伝わり方 音 ・音の性質 ・発音体の振動と共振・共鳴	・仕事と力学的エネルギーの概念を理解する。 ・力学的エネルギー保存の条件を理解し，各種の運動の計算に応用する。 ・熱と温度を原子や分子の熱運動という視点から理解する。 ・熱の移動及び熱と仕事の変換について理解する。 ・波動現象の特徴と，伝わり方を理解する。 ・正弦波の要素（周期，振動数，振幅，波長，速さ）を理解し処理する。 ・縦波の表し方と，疎密や振動状態との関連を理解する ・波動固有の現象（干渉，回折，反射，屈折）を理解する。 ・音が縦波であること，音の要素，発音体の振動を理解し，処理する。
3 学期	物質と電気抵抗 ・電気の性質 ・電流と電気抵抗 ・電気エネルギー 交流と電磁波 ・交流 ・電磁波 エネルギーとその利用 ・エネルギーの移り変わり ・エネルギー資源と発電 物理学が拓く世界	・物質によって抵抗率が異なることを理解する。 ・交流の発生，送電及び利用について，基本的な仕組みを理解する。 ・各種エネルギーが相互に転換することを理解する。 ・人類が利用可能な水力，化石燃料，原子力，太陽光などを源とするエネルギーの特性や利用などについて，物理学的な視点から理解する。 ・「物理基礎」で学んだ事柄が，日常生活やそれを支えている科学技術と結び付いていることを理解する。

授業の形態	クラス授業／一斉授業／講義・グループワーク・実験・実習・観察
教 科 書	『物理基礎 改訂版』啓林館
副 教 材	『セミナー物理基礎＋物理』第一学習社、デジタル教材、各種プリント等
評価の方法	定期試験 80% ＋ 平常点 20%（課題・小テスト・レポート）
備 考	

高校2年（理科）

科 目	単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
物理基礎	2	必修	FT s（物理選択）	水谷

目 標	・身の回りの自然現象等への興味・関心を高め、自然科学・技術を正しく活用しようという態度や倫理観を育む。 ・学習内容と実験・観察データを統合・判断して、論理的・科学的にわかりやすく表現できる力をつける。 ・実験・観察、探究活動を通して、科学的に探究する方法と能力を身につける。 ・自然科学の基礎・基本となる知識・概念の理解を深め、科学的な自然観の育成を図る。			
育 成 力	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	・実生活と科学との関わりへの興味関心を高め、科学的に探究しようする態度を身につける。	・学習内容と実験結果から正しく現象を考察し、表現できる力を養う。	・実験・観察、探究活動を通して、科学的に探究する方法を習得する。	・物理の基礎・基本となる知識・概念を正しく理解する。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	力 ・いろいろな力 ・力のつりあい ・力の合成と分解 ・作用反作用	・力の表し方や性質、特に力の合成と分解の考え方や合成分解の仕方を習得する。
	運動の表し方 ・速度 ・加速度 ・等加速度直線運動 ・重力による運動	・速度、加速度について学び、物体の運動の記述の仕方を理解する。 ・加速度のある物体の運動を、平面上の運動の分析を習得する。
	運動の法則 ・慣性の法則 ・運動の法則 ・作用反作用の法則	・運動に係る3法則や力と運動の関係について理解する。 ・実際の運動について、運動方程式による運動分析の手法を習得する。
	エネルギー ・仕事 ・力学的エネルギーとその保存 ・熱と温度 ・熱と仕事 ・気体の法則 ・エネルギーの変換とその保存	・仕事の概念を理解し、エネルギーについての正しい理解を深める。 ・エネルギー、なかでも特に力学的エネルギーの定量的な扱いを学び、これらの間に保存の関係が成立することを理解する。 ・熱がエネルギーのひとつであることを理解する。
	波 ・波の伝わり方 ・波の種類 ・重ね合わせの原理と波の干渉 ・回折・反射・屈折 ・音の性質 ・弦・気柱の固有振動と共鳴	・波の要素について学び、波の表し方について理解する。 ・波の種類とその性質について、原理法則から理解する。 ・音の諸現象を、波動としてとらえ、理解する。
	電気と磁気 ・静電気 ・電流 ・電磁誘導 ・発電機 ・交流	・静電気や電流など、電気に関わる法則を学習し、さらに発電機や電磁波について理解する。 ・電磁誘導や交流、電磁波の基礎について理解する。
	物理と私たちの生活 物理学が拓く世界	・人類が利用することができる各種エネルギーの特性や利用方法について理解する。

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／講義・グループワーク・実験・実習・観察
教 科 書	『物理基礎 改訂版』啓林館
副 教 材	『セミナー 物理基礎＋物理』第一学習社、プリント教材
評 価 の 方 法	定期考査 80%＋平常点（課題・小テスト・レポート） 20%
備 考	・1 学期で終了する。ただし、夏季休業中に全員履修の特別授業を行う。

高校2年（理科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
物理	3	選択	FT s（物理選択）	水谷

目 標	・身の回りの自然現象等への興味・関心を高め、自然科学・技術を正しく活用しようという態度や倫理観を育む。 ・学習内容と実験・観察データを統合・判断して、論理的・科学的にわかりやすく表現できる力をつける。 ・実験・観察、探究活動を通して、科学的に探究する方法と能力を身につける。 ・自然科学の基礎・基本となる知識・概念の理解を深め、科学的な自然観の育成を図る。			
育 成 意 図	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
力	・身の回りの自然現象等への興味関心を高め、科学的に探究する態度を身につける。	・学習内容と実験結果から正しく現象を考察し、表現できる力を養う。	・実験・観察、探究活動を通して、科学的に探究する力を習得する。	・物理の知識・概念を正しく理解し、科学的な自然観を育む。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
2 学期	力 ・剛体のつりあい ・重心 運動量の保存 ・運動量と力積・運動量の保存・反発係数	・力のモーメントについて学び、剛体のつりあいの条件を考える。また、剛体の重心の求め方を理解する。 ・運動量と力積の関係および運動量の保存について理解を深め、その成立条件を踏まえて、その適用について学ぶ。
	円運動と万有引力 ・円運動と単振動 ・万有引力の法則	・等速円運動について、鉛直面内の円運動を含めて学ぶ。 ・単振動の原理と円運動の関係、ばね振り子、単振り子を理解する。 ・万有引力の法則がケプラーの法則の関係および、万有引力による天体の運動等について考える。
	熱と温度 ・気体の状態方程式 ・気体分子の熱運動 ・状態変化と熱・仕事 波 - 音 ・音の性質 ・ドップラー効果 - 光 ・光の性質 ・レンズ ・光の回折と干渉 電場 - 静電気 ・クーロンの法則 ・電場と電位	・気体について、気体の法則を用いて、状態変化を扱う。 ・身近な熱現象を、エネルギーの観点から、また気体については気体分子の力学的な運動の観点から理解する。気体の内部エネルギーが熱運動による気体分子の運動エネルギーであることを理解する。 ・音の諸現象を、波動としてとらえ、理解する。 ・光についても、音同様波としてとらえることにより、その諸現象について理解する。 ・静電気の世界を、電場と電位という概念を導入して理解する。
3 学期	・コンデンサー 電流 ・オームの法則 ・キルヒホッフの法則 電流と磁場 - 磁場 ・電流がつくる磁場 ・電流が磁場から受ける力 ・ローレンツ力	・コンデンサーについて知り、その接続を扱えるようにする。 ・電流の現象を微視的にとらえ、オームの法則について理解を深める。 ・電気回路における抵抗の接続について学び、その分析法を習得する。 ・電流のまわりに生じる磁場をもとに、磁場に係わる現象を分析する。合わせて、ベクトルとしての定量的な扱いについても理解する。 ・電流が磁場から受ける力を、微視的な視点を持って理解する。

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／講義・グループワーク・実験・実習・観察
教 科 書	『物理基礎 改訂版』啓林館、『物理 改訂版』啓林館
副 教 材	『セミナー 物理基礎＋物理』第一学習社、プリント教材
評 価 の 方 法	定期考査 80％＋平常点 20％（課題・小テスト・レポート）
備 考	・2学期より開始する。ただし、冬季、春季休業中に特別講義を行う。

高校 2 年 （理科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
化学	2	必修	AM s ・ GL s	宮嶋・北澤

目 標	・身の回りの自然現象等への興味・関心を高め、自然科学・技術を正しく活用しようという態度や倫理観を育む。 ・学習内容と実験・観察データを統合・判断して、論理的・科学的に、かつ他人に理解できるようにわかりやすく表現できる力をつける。 ・実験・観察、探究活動を通して、科学的に探究する方法と能力を身につける。 ・自然科学の基礎・基本となる知識・概念の理解を深め、科学的な自然観の育成を図る。			
育 っ て たい 力	意欲・関心・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
	・実生活と科学との関わりへの興味関心を高め、科学的に探究しようする態度を身につける。	・学習内容と実験結果から理科学的な見方考え方を使って、科学的に考察する力を身につけます。	・実験・観察、探究活動を通して、それらの過程を記録、整理し、科学的な方法で処理し、図や表を用いて論理的に表現する方法を身につけます。	・化学の基礎・基本となる知識・概念を正しく理解する。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	物質の状態 ・化学結合と結晶 ・物質の三態と熱運動 ・気体の性質 ・溶液の性質	・気体、液体、固体の性質を観察、実験などを通して探究し、物質の状態変化、状態間の平衡、溶解平衡及び溶液の性質について理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようにする。
2 学期	物質の変化と平衡 ・物質とエネルギー ・電池と電気分解 ・化学反応の速さ ・化学平衡 ・電離平衡	・化学反応における熱及び光の発生や吸収は、反応の前後における物質のもつ化学エネルギーの差から生じることを理解する。 ・観察、実験などを通して、それらを日常生活や社会と関連づけて考察できる。 ・化学反応に伴うエネルギーの出入り、反応速度及び化学平衡を観察、実験などを通して探究し、化学反応に関する概念や法則を理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようにする。
3 学期	有機化合物 1 ・有機化合物の基礎 ・有機化合物の特徴と構造 ・脂肪族炭化水素 ・酸素を含む有機化合物	・有機化合物の性質や反応を、構造と関連づけて理解する。 ・主な有機化合物について、構造や性質を理解し、それらの化合物が生活と深く関わっている事を理解する。 ・材料や薬品などの分野にも応用されることが多い分野でもあるので、理工学部や生命科学・薬学部へ進学希望する生徒へのつながりを心がける。

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／講義・実験
教 科 書	『改訂 高等学校 化学』第一学習社
副 教 材	『2022 セミナー化学』第一学習社 atama+（デジタル教材）
評 価 の 方 法	定期考査 70%＋平常点 30%（実験レポート、ノート、問題演習、小テスト、など）
備 考	・定期考査は年 5 回する。基礎基本の習得を確実にする為に小テストを実施する。 ・実験観察を重視し、自ら実験結果・考察をまとめる力を育成する為に実験レポートを課する。 ・科学館・企業・大学などへの見学や自由研究などを勧めます。

高校 2 年 （理科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
化学（文系）	3	必修	FT	宮嶋

目 標	・身の回りの自然現象等への興味・関心を高め、自然科学・技術を正しく活用しようという態度や倫理観を育む。 ・学習内容と実験・観察データを統合・判断して、論理的・科学的に他人に理解できるようにわかりやすく表現できる力をつける。 ・実験・観察、探究活動を通して、科学的に探究する方法と能力を身につける。 ・自然科学の基礎・基本となる知識・概念の理解を深め、科学的な自然観の育成を図る。			
育 っ て たい 力	意欲・関心・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
	・身の回りの自然現象等への興味関心を高め、科学的に探究しようする態度を身につける。	・学習内容と実験結果から理科的な見方考え方を使得、科学的に考察する力を身につけます。	・実験・観察、探究活動を通して、それらの過程を記録、整理し、科学的な方法で処理し、図や表を用いて論理的に表現する方法を身につけます。	・化学の知識・概念を正しく理解し、科学的な自然観を育む。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	無機物質 金属元素 非金属元素	・ 金属元素の単体と化合物の性質や反応について理解する。 ・ その特長を生かして人間生活の中で利用されていることを理解するとともに、日常生活や社会と関連づけて考察できる。 ・ 金属イオンの系統分析ができる。 ・ 非金属元素の単体と化合物の性質や反応を周期表と関連づけて理解する。 ・ その特長を生かして人間生活の中で利用されていることを理解するとともに、日常生活や社会と関連づけて考察できる。
2 学期	有機化合物 脂肪族化合物 芳香族化合物	・ 有機化合物の性質や反応を、構造と関連づけて理解する。 ・ 観察、実験などを通して、それらを日常生活や社会と関連づけて考察できる。 ・ 有機化合物の性質や反応を、構造と関連づけて理解する。 ・ 観察、実験などを通して、それらを日常生活や社会と関連づけて考察できる。
3 学期	有機化合物（高分子化合物） 糖類・タンパク質・油脂 繊維・樹脂・ゴム	・ 食品や繊維、樹脂、薬品などの高分子化合物の基本的な構造、性質を理解する。また、合成高分子の合成について理解する。 ・ 観察、実験などを通して、それらを日常生活や社会と関連づけて考察できる。

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／講義形式・実験形式・演習形式
教 科 書	『化学』数研出版（1 年次高入済み）
副 教 材	『フォトサイエンス化学図録』数研出版、『リードα 化学基礎＋化学』数研出版 『WINSTEP 化学基礎』ラーズ
評 価 の 方 法	定期考査 70%＋確認テスト・平常点 30%（実験レポート、ノート、問題演習、小テスト）
備 考	・基本事項の確認テスト、または既習分野の到達度確認テストを行う。スタディサブリの活用を薦める。

高校 2 年 （理科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
化学（理系）	3	必修	FTs	宮嶋

目 標	・身の回りの自然現象等への興味・関心を高め、自然科学・技術を正しく活用しようという態度や倫理観を育む。 ・学習内容と実験・観察データを統合・判断して、論理的・科学的に他人に理解できるようにわかりやすく表現できる力をつける。 ・実験・観察、探究活動を通して、科学的に探究する方法と能力を身につける。 ・自然科学の基礎・基本となる知識・概念の理解を深め、科学的な自然観の育成を図る。			
育 て たい 力	意欲・関心・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
	・身の回りの自然現象等への興味関心を高め、科学的に探究しようとする態度を身につける。	・学習内容と実験結果から理科的な見方考え方を使得、科学的に考察する力を養う。	・実験・観察、探究活動を通して、それらの過程を記録、整理し、科学的な方法で処理し、図や表を用いて論理的に表現する方法を身につけます。	・化学の知識・概念を正しく理解し、科学的な自然観を育む。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	反応速度と化学平衡 反応の速さ ルシャトリエの原理・平衡定数の基礎 平衡定数の応用	・ 反応速度の表し方及び反応速度に影響を与える要因を理解する。 ・ 可逆反応、化学平衡及び化学平衡の移動を理解するとともに、ルシャトリエの原理を用いて代表的な反応について説明できる。 ・ 電離定数、圧平衡定数、溶解度積など平衡定数を用いて、化学変化を考察できる。
	無機物質（1） 金属元素	・ 金属元素の単体と化合物の性質や反応について理解する。 ・ その特長を生かして人間生活の中で利用されていることを理解するとともに、日常生活や社会と関連づけて考察できる。 ・ 金属イオンの系統分析ができる。
2 学期	無機物質（2） 非金属元素	・ 非金属元素の単体と化合物の性質や反応を周期表と関連づけて理解する。 ・ その特長を生かして人間生活の中で利用されていることを理解するとともに、日常生活や社会と関連づけて考察できる。
	有機化合物（1） 脂肪族化合物	・ 有機化合物の性質や反応を、構造と関連づけて理解する。 ・ 観察、実験などを通して、それらを日常生活や社会と関連づけて考察できる。
3 学期	有機化合物（2） 芳香族化合物	・ 有機化合物の性質や反応を、構造と関連づけて理解する。 ・ 観察、実験などを通して、それらを日常生活や社会と関連づけて考察できる。
	有機化合物（高分子化合物） 糖類・タンパク質・油脂 繊維・樹脂・ゴム	・ 食品や繊維、樹脂、薬品などの高分子化合物の基本的な構造、性質を理解する。また、合成高分子の合成について理解する。 ・ 観察、実験などを通して、それらを日常生活や社会と関連づけて考察できる。

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／講義形式・実験形式・演習形式
教 科 書	『化学』数研出版（1 年次高入済み）
副 教 材	『フォトサイエンス化学図録』数研出版、『リードα 化学基礎＋化学』数研出版 『WINSTEP 化学』ラーンズ(理系)
評 価 の 方 法	定期考査 70%＋確認テスト・平常点 30%（実験レポート、ノート、問題演習、小テスト）
備 考	・基本事項の確認テスト、または既習分野の到達度確認テストを行う。スタディサブリの活用を薦める。

高校2年（理科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
生物	2	必修	AM s・GL s	脇田・澤田

目 標	・身の回りの自然現象等への興味・関心を高め、自然科学・技術を正しく活用しようという態度や倫理観を育む。 ・学習内容と実験・観察データを統合・判断して、自らの考えを論理的・科学的に表現できる力をつける。 ・実験・観察を通して、科学的に探究する方法と能力を身につける。 ・自然科学の基礎・基本となる知識・概念の理解を深め、科学的な自然観の育成を図る。 ・国際誌の紹介を行いながら、国際的な時事問題に対する意識を高める。			
育 て た い 力	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	・身の回りの自然現象等への興味関心を高め、科学的に探究しようする態度を身につける。	・学習内容と実験結果から正しく現象を考察し、表現できる力を養う。	・実験・観察、探究活動を通して、習得した科学的に探究する力を高める。	・生物の知識・概念を正しく理解し、科学的な自然観を育む。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	生命現象と物質 ・細胞と分子 ・代謝	・細胞の内部構造とそれを構成する物質の特徴を理解する。 ・様々なタンパク質が、様々な生命活動を支えていることを理解する。 ・呼吸、光合成、窒素同化の仕組みを理解する。
2 学期	・代謝 ・遺伝情報と発現	・呼吸、光合成、窒素同化の仕組みを理解する。 ・DNA 複製の仕組み、遺伝子の発現の仕組み及び遺伝情報の変化、遺伝子の発現が調整される仕組みの概要を理解する。
3 学期	・遺伝情報と発現 - 生殖と発生 ・生殖と発生	・遺伝子を扱った技術について、その原理と有用性と課題を理解する。 ・減数分裂による遺伝子の分配と受精により多様な遺伝的な組み合わせが生じること、遺伝子の連鎖と組換えについて理解する。 ・動物における配偶子形成と受精の過程、卵割から器官分化の始まりまでの過程、細胞の分化と形態形成の仕組みを理解する。 ・植物における配偶子形成と受精及び胚発生の過程、被子植物の器官の分化の過程の概要を理解する。

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／講義・実験
教 科 書	『改訂版 生物』 数研出版
副 教 材	『ニューステージ 新生物図表』 浜島書店、 『リードlight ノート 生物』 数研出版 『atama+』 デジタル教材
評 価 の 方 法	定期考査 40%＋平常点 60%（実験レポート、ノート、授業態度等）
備 考	・定期考査は中間考査を実施せず、それに代わって実験レポートを評価対象とする。

高校2年（理科）

科 目	単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
生物	3	選択	FTs	森田

目 標	・身の回りの自然現象等への興味・関心を高め、自然科学・技術を正しく活用しようという態度や倫理観を育む。 ・学習内容と実験・観察データを統合・判断して、論理的・科学的に他人に理解できるようにわかりやすく表現できる力をつける。 ・実験・観察、探究活動を通して、科学的に探究する方法と能力を身につける。 ・自然科学の基礎・基本となる知識・概念の理解を深め、科学的な自然観の育成を図る。			
育 て た い 力	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	・身の回りの自然現象等への興味関心を高め、科学的に探究しようとする態度を身につける。	・学習内容と実験結果から正しく現象を考察し、表現できる力を養う。	・実験・観察、探究活動を通して、習得した科学的に探究する力を高める。	・生物の知識・概念を正しく理解し、科学的な自然観を育む。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	生命現象と物質 ・細胞と分子 ・代謝	・細胞の内部構造とそれを構成する物質の特徴を理解する。 ・様々なタンパク質が、様々な生命活動を支えていることを理解する。 ・呼吸、光合成、窒素同化の仕組みを理解する。
2 学期	・遺伝情報と発現 生殖と発生 ・生殖と発生	・DNA 複製の仕組み、遺伝子の発現の仕組み及び遺伝情報の変化、遺伝子の発現が調整される仕組みの概要を理解する。 ・遺伝子を扱った技術について、その原理と有用性と課題を理解する。 ・減数分裂による遺伝子の分配と受精により多様な遺伝的な組み合わせが生じること、遺伝子の連鎖と組換えについて理解する。 ・動物における配偶子形成と受精の過程、卵割から器官分化の始まりまでの過程、細胞の分化と形態形成の仕組みを理解する。 ・植物における配偶子形成と受精及び胚発生の過程、被子植物の器官の分化の過程の概要を理解する。
3 学期	生物の環境応答 ・動物の反応と行動	・動物における、刺激の受容から反応するまでの仕組み、動物個体の行動について理解する。

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／講義・実験
教 科 書	『改訂版 生物』数研出版
副 教 材	『ニューステージ新生物図表』浜島書店、『22 セミナー生物』第一学習社
評 価 の 方 法	定期考査 80%＋平常点 20%（実験レポート、提出物、授業態度等）
備 考	・理科系大学（特に医学・薬学・農学）に対応できる力を養成する内容を重点的に学習させ、実験データを応用的にレポートに纏める能力の涵養を目指す。

高校2年（保健体育科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
体育	2	必修	AM・AMs・GL・GLs・ FT・FTs	前田・川端・石田・白井・伊藤

目 標	・運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 ・運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。		
育 て た い 力	運動・技能 ・ 技能や身につけた動きをより高め、記録や技に挑戦する力 ・ 自己のねらいに応じて体力の向上をはかる力	態度 ・ 自主的に取り組む力 ・ ルールやマナーを自主的に守る力 ・ 道具や施設を大切に扱う力 ・ 互いの違いや良さを認め合う力 ・ 自己の責任を果たす力	知識・思考・判断 ・ 運動を継続する意義を理解する力 ・ 技術の名称や行い方を理解する力 ・ 体力の高め方を理解する力 ・ 自分の体調に気付く力

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・ オリエンテーション ・ 集団行動 ・ 新体力テスト ・ 男子：陸上競技 ・ 女子：陸上競技 ・ 立守ダンス ・ 体育理論	・ 体育館やグラウンドの使用マナー、授業内でのルールを再確認。 ・ 安全かつ円滑に授業ができるようにする。 ・ 新体力テストを実施し、自己の能力や課題について知る。 ・ 陸上競技を通して自己の目標にチャレンジする。 ・ 立守ダンスのポイントを明確にし、日常の学習活動が効果的に進められるようにする。 ・ 体育理論…運動やスポーツについての理解を深める。
2 学期	・ 男子：球技2種目 (ネット型・ベースボール型) ・ 女子：ダンス・球技1種目 (ネット型)	・ 球技…運動やスポーツについての理解を深める。 ・ 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、仲間と連携してゲームが展開できるようにする。 ・ ダンス…体を使って表現する楽しさを味わう。
3 学期	・ 男子：持久走 球技1種目 (ゴール型) ・ 女子：持久走 球技1種目 (ネット型)	・ 持久走…一定のペースを持続できるようにする。自己の記録にチャレンジする。

授 業 の 形 態	3 クラス合同授業（4 講座展開）
教 科 書	『現代高等保健体育改訂版』 大修館書店
副 教 材	『現代高等保健体育ノート改訂版』 大修館書店
評 価 の 方 法	・ 評価点100%（実技100点） ・ 実技…運動能力だけでなく、自主的・積極的に参加する姿勢や規範意識の姿勢を重視する。 ・ 欠課1回につき2点、忘れ物や遅刻1回につき1点を差し引く。
備 考	・ 体づくり運動を通年実施し、体力の維持・向上をはかる。 ・ 指定の体操服を着用し（見学者も同様）、体育館更衣室で着替えること。 ・ 見学が必要な場合は、筆記用具持参の上、必ず授業時間前に体育準備室の教員に申し出ること。 ・ 途中でケガや気分が悪くなった場合は必ず担当教員に申し出ること。 ・ 身体的理由で長期間の見学が必要な場合は診断書等の提出を求める場合がある。

高校2年（保健体育科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
保健	1	必 修	AM・AMs・GL・GLs・ FT・FTs	石田・澤井・白井・伊藤

目 標	・ 1. 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。 ・ 2. 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 ・ 3. 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。		
育 て た い 力	意欲・関心・態度	思考・判断	知識・理解
	・ 健康に関する興味・関心や課題解決への意欲	・ 生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく思考力と判断力	・ 重要語句を理解し、説明する・活用する力

学期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・ 思春期と健康 ・ 結婚生活と健康 ・ 妊娠・出産と健康 ・ 家族計画と人工妊娠中絶 ・ 応急手当の意義とその基本 ・ 心肺蘇生法（実技講習含む）	・ 思春期における心身の発達や健康課題について特に性的成熟に伴い、心理面、行動面が変化することについて理解する。 ・ 結婚生活について、心身の発達や健康状態など理解できるようにする。 ・ 受精・妊娠・出産などの健康課題について理解できるようにする。 ・ 傷害や疾病の悪化を防いだり、傷病者の苦痛を緩和したりすることを理解する。 ・ 自他の生命や身体を守り、不慮の事故災害に対応できるようにする。
2 学期	・ 加齢と健康 ・ 高齢者のための社会的取り組み ・ 保健制度とその活用 ・ 医療制度とその活用 ・ 医薬品と健康 ・ さまざまな保健活動や対策 ・ 大気汚染と健康 ・ 水質汚濁・土壌汚染と健康	・ 加齢に伴う心身の健康について理解する。 ・ 高齢者の心身の健康を支援するための社会的対策について理解する。 ・ 保健制度や保健活動について、自分のライフステージと関連させ、理解する。 ・ 医療関係について、医療制度や医薬品などと関連させ、理解する。 ・ 環境汚染と健康の関わりについて理解し、個人や社会の環境保全に対する取り組みが重要であることを理解する。
3 学期	・ 食品衛生活動のしくみと働き ・ 食品と環境の保健と私たち ・ 働くことと健康 ・ 労働災害と健康 ・ 健康的な職業生活	・ 食品の衛生管理の仕組みや私たちができる食品の安全対策の方法を理解する。 ・ 労働と健康についてのかかわりや安全管理などについて理解する。

授 業 の 形 態	クラス一斉授業 講義形式
教 科 書	『現代高等保健体育改訂版』 大修館書店
副 教 材	『現代高等保健体育ノート改訂版』 大修館書店
評 価 の 方 法	定期考査 70%+課題点 30% 課題点の内訳：提出物（ノート…ワークや板書、課題…授業内で課す）、平常点（授業に取り組む姿勢）
備 考	

高校２年（芸術科：音楽）

科 目	単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
音楽Ⅰ	1	選択	AM・AMs・GL・GLs・ FT・FTs	西川

目 標	・芸術の幅広い活動を通して生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め。芸術の諸能力を伸ばし、豊かな情操を養う。 ・感性を高め、創造的な表現と能力を伸ばす。			
育 て た い 力	意欲・関心・態度 ・視唱力の伸長 ・視奏力の伸長 ・音楽の組み立ての把握	見方・考え方 ・歌詞及び曲想の把握と表現の工夫 ・旋律に対する和音の工夫	表現・処理 ・曲の構成及び曲想の把握と表現の工夫 ・いろいろな音素材を生かした即興的表現	知識・理解 ・楽曲の歴史的背景 ・声や楽器の特性と表現上の効果

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	<理論> ・ソルフエージュ ・音楽理論	・リズム感、音感を育てる。 ・表現方法の多様性を知り、楽曲の構成を読み取る力を育てる。
	<表現> ・歌唱（3部合唱） ・創作（作曲） ・器楽（アルトリコーダーアンサンブル）	・曲の成り立ち、適切な表現方法を自ら考える。 ・曲作りの方法を学び簡単な曲を作る。 ・仲間と協力し曲を仕上げる。
2 学期	<表現> ・歌唱（3、4部合唱） <鑑賞> ・レポート（感想文）	・難曲にチャレンジし自分たちで表現方法を考え発表する。 ・作曲家の思いを歴史的背景から読み取る力を育てる。
	<理論> ・ソルフエージュ ・音楽理論	・リズム感、音感を育てる。 ・移調や転調といった複雑な音楽理論を学習する。
3 学期	<表現> ・歌唱（3部合唱） ・器楽創作（グループ発表）	・より高度な楽曲にチャレンジし高度な表現を学ぶ。 ・練習の成果発表をする。
	<鑑賞> ・レポート（感想文）	・オペラやミュージカル・映画などを通じて表現の特性や効果などを学ぶ。

授 業 の 形 態	・個人、グループ練習、全体
教 科 書	『MOUSA』教育芸術社
副 教 材	・学習プリント
評 価 の 方 法	・実技点80％＋平常点20％（レポート・課題等）
備 考	・個人、グループ練習から全体発表

高校２年（芸術科：美術）

科 目	単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
美術Ⅰ	1	選択	AM・AMs・GL・GLs	山崎

目 標	・美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛する心情を育てる。 ・感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし美術文化についての理解を深める。			
育 て たい 力	意欲・関心・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
	・主体的に美術の活動に取り組み、心豊かな生活を創造する意欲と態度を高める。	・独創的かつ総合的な見方や考え方を培い、表現形式の選択と創造的で豊かに表現する構想の力を伸ばす。	・デッサン、色彩、構成、材料や用具の生かし方などの技能を身につけ、意図に応じた多様な表現方法を創意工夫し、美しく表現する能力を伸ばす。	・自然の造形や美術作品・文化遺産などへの理解や見方を広げる。よさや美しさ、作者の心情や意図、表現の工夫など幅広い視点で美術を理解する。美術文化の創造・継承・育成に対する関心を深める。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	<表現Ⅰ> ・絵本～伝える①～ <鑑賞Ⅰ> ・参考作品鑑賞 ・美術鑑賞（レポート）	・グループのテーマと考察を元に、作品の構想を練る。 ・共同制作の意味を理解し、それぞれの個性を生かして計画的にひとつのものを作り上げる。 ・鑑賞や制作を通して感じたことを言語化し、お互いの価値観の認識を深める
2 学期	<表現Ⅱ> ・映像Ⅱ～伝える②～ <鑑賞Ⅱ> ・美術鑑賞	・生徒が発想・構想を共有しながら創造活動し、共に創造する喜びを感じる。 ・自他の取り組みおよび作品を客観的に振り返り、作品のよさや努力、互いの価値観を認め合うことができる ・鑑賞や制作を通して感じたことを言語化し、自己認識を深める
3 学期	<表現Ⅲ> 映像Ⅱ～伝える③～ <鑑賞Ⅲ> ・作品鑑賞・相互評価	・自他の取り組みおよび作品を客観的に振り返り、作品のよさや努力、互いの価値観を認め合うことができる ・鑑賞や制作を通して感じたことを言語化し、自己認識を深める

授 業 の 形 態	・講義と個人制作、作品講評、グループワーク
教 科 書	・『美術Ⅰ』光村図書
副 教 材	・なし
評 価 の 方 法	・作品 50%＋平常点・レポート 50%
備 考	・効果的な参考作品や、映像教材を準備する。

高校２年（芸術科：書道）

科 目	単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
書道Ⅰ	1	選択	AM・AMs・GL・GLs	田中

目 標	・書道における表現と鑑賞の幅広い活動を通して、書を愛する心情を育てる。 ・書を楽しむ態度を通して、感性を豊かにし様々な場面に対応する書写能力を高める。 ・多様な書の美に触れ、自己を主体的に表現する能力と書の美しさを感じ取る鑑賞の基礎的な能力を伸ばす。			
育 て た い 力	意欲・関心・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
	・主体的に書道の活動を取り組み、書を愛好し書く力を高め自ら進んだ表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。	・書のよさや美しさを感じ取る心と力を豊かにし、創造的で豊かに表現する構想力を伸ばす。	・自分らしさを表現するために、まずは様々な古典を取り上げ、基礎的な技術を身につける。	・様々な古典を取り上げ、それぞれの書風や特徴を知り、理解することによって、その良さや美しさを深く味わう。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	＜表現Ⅰ＞ ～臨書による表現～ ・オリエンテーション ・硬筆の学習（展覧会出品） ・隷書の学習	・年間計画、注意事項について理解する。 ・文字を正しく丁寧に書く。 ・各書体の特徴を理解し、用筆、運筆、字形等理解する。 ・古典を取り上げることにより、その持つ特徴を理解し自己表現する。 ・隷書の特徴を理解し、用筆、運筆、字形等を理解する。
2 学期	＜表現Ⅱ＞ ～創作による表現～ ・漢字仮名交じり ・年賀状 ・仮名の学習	・漢字と仮名の調和した表現について理解し自由に表現する喜びを味わう。 ・墨の濃さや筆、紙の種類による表現の違いを理解し、創造的な表現を工夫する。 ・特殊な筆や身近にある用具用材を使う事で創造的な自己表現をする。 ・他者の作品を鑑賞し、それぞれの表現美を味わう。 ・顔彩を使う事で作品の幅を広げる。 ・仮名で使用する用具についての理解を深める。 ・平仮名の単体・連綿・変体仮名の書き方や、仮名独特の美しさに関心を深める。
3 学期	＜表現Ⅲ＞ ・生活の中の書	・生活の中の書として暮らしを豊かにする自己表現をする。 ・社会人になった時の為の必要なマナーの修得をする。。

授 業 の 形 態	講義と個人製作
教 科 書	『書道Ⅰ』東京書籍
副 教 材	なし
評 価 の 方 法	作品課題・小テスト点 80%＋授業貢献度点 20%
備 考	・効果的な参考作品や映像教材を準備

高校２年（外国語科：英語）

科 目		単位数	種別	対象コース	担当教諭
コミュニケーション英語Ⅱ		4	必修	AM・AMs	田中海・田中英・上村
目 標	- 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報やアイデアなどを的確に理解したり適切に伝えたりする態度を養う。 - 英語運用能力を高めるために、個人およびペア・グループでの様々な活動を通し、その基盤となる「読む」「聞く」「話す（発表・やり取り）」「書く」力を身につける。 - 相手の発言を受けて発言したり質問したりする活動など、英語を使ったやり取りを通して、自分の意見やアイデアを持ったり、吟味したりする力を養う。 - 英語でスピーチやプレゼンテーションなどを行うための技能や英語力・表現力を身につける。また、聴き手として発表について即興で質問するなど、積極的に話し手に関わるための英語力も高める。 - 全ての活動を通して、国際社会で活躍するために必要とされる英語運用能力の習得を目指す。				
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解	
育 て たい 力	- 様々な分野の話題に興味、関心を持ち、更に深く学ぶ意欲を持つ。 - 積極的に授業内での言語活動に参加しコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、自主的に授業外での学習に取り組む姿勢を身につける。	「話す（発表・やり取り）」「書く」活動を通じて、様々な話題に関する情報や自分のアイデアを英語で話したり、まとまった文章で表現したりできる。	- 日常的な話題について、英語で「聞く」「読む」活動を通じて、情報や考えなど相手が伝えようとすることを理解できる。 - 論説文や物語文に慣れ、様々な英文の要旨を理解できる。 - 論点や根拠などを明確にするとともに、文章の構成や図表との関連を理解できる。	- 語彙・構文・文法・発音等についての知識や、その運用についての知識を身につけるとともに、言語の背景にある文化などを理解している。 - 場面や状況に応じたふさわしい表現や強勢やイントネーションを知っている。	

時期	学習内容・項目		ねらい・目標
1 学期	使用する教材を以下の5つのユニット「人生」「平和」「文化・芸術」「自然」「科学技術」に分け、それぞれのタームで取り扱う項目について、より深い読みを進めていく。なお[I]の表記は、[コミュニケーション英語Ⅰの教科書単元]を意味し、必要に応じて扱う。		様々な言語活動に取り組み、英語運用に必要なあらゆる技能を身に付ける。また、トピックについては、コミュニケーション英語Ⅰで既習の物も扱いながら、各単元の内容を主体的に深めていくことを目標とする。 ◆Listening / Reading - 様々なテーマについて書かれた英文を読んだり聴いたりして、その文章構造の正しい把握をもとに的確に情報を得ることができる。また、関連する英文を主体的に読み、理解を深めることができる。 ◆Speaking(会話・発表) - 自らの考えと、その根拠となる情報をプレゼンテーション形式で伝えることができる。また相手の発言等に即興で質問することができる。 ◆Writing - 英文を読んだり、やりとりをして得た情報をもとに、自らの考えなどを一定量の英文で書くことができる。 ◆Discussion - 課題に対して、協働的に話し合い、やりとりをすることにより、課題解決を提案したり、自らの意見を再構築したりすることができる。
	ターム 1 ・生き方・あり方を考える	・L1 Around the World on a Bike 劇作家 平田オリザ氏の体験 ・[I] L2 Going into Space 宇宙飛行士 若田光一氏の生き方 ・L2 Into Unknown Territory 棋士 羽生善治氏の人生哲学 ・[I] L4 Seeing with the Eyes of the Heart ピアニスト 辻井伸行氏の生き方	
	ターム 2 ・国際貢献のあり方を考える	・L4 Crossing the Border 国境なき医師団 貫戸朋子氏の活動 ・L8 Working against the Clock 科学者 広瀬茂男氏の取り組み ・夏課題 自らの生き方を考える(プレゼンテーション作成)	
2 学期	ターム 3 ・文化や芸術の可能性について考える	・L3 OOPARTS 不思議な人工物 OOPARTS ・L6 Ashura--A Statue with Three Faces-- 興福寺阿修羅像の魅力	
	ターム 4 ・自然の力・自然との共生について考える	・L7 Why Biomimicry? 自然と人間の共生 ・[I] Roots & Shoots 学者 Jane Goodall 氏の活動 * biomimicry の可能性 (プレゼンコンテスト)	
3 学期	ターム 5 ・現代の科学技術の可能性について考える	・冬課題 自由研究(プレゼンテーション作成) ・L9 The Long Voyage Home 小惑星探査機 はやぶさの帰還	

授業の形態	クラス授業（ペアやグループでの言語活動を含む、学習者が主体となる授業）
教科書	『CROWN English Communication II New Edition』三省堂
副教材	生徒用リスニングCD・『ワークブックスタンダード』三省堂・『速読英単語①必修編 改訂第7版』・CD Z会
評価の方法	定期考査は実施せず、平常点のみで評価する (平常点は、単元テスト・パフォーマンステスト・プレゼン・スピーチ・課題提出など)
備 考	・上記の他、オリジナル教材を使用し、授業内でパフォーマンステストを定期的に行う

高校２年（外国語科：英語）

科 目		単位数	種 別	対象コース	担当教諭
コミュニケーション英語Ⅱ		4	必修	GL・GLs	田中海・大矢
目 標	- 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報やアイデアなどを的確に理解したり適切に伝えたりする態度を養う。 - 英語運用能力を高めるために、個人およびペア・グループでの様々な活動を通し、その基盤となる「読む」「聞く」「話す（発表・やり取り）」「書く」力を身につける。 - 相手の発言を受けて発言したり質問したりする活動など、英語を使ったやり取りを通して、自分の意見やアイデアを持ったり、吟味したりする力を養う。 - 英語でスピーチやプレゼンテーションなどを行うための技能や英語力・表現力を身につける。また、聴き手として発表について即興で質問するなど、積極的に話し手に関わるための英語力も高める。 - 全ての活動を通して、国際社会で活躍するために必要とされるより高度な英語運用能力の習得を目指す。				
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解	
育 て た い 力	- 様々な分野の話題に興味、関心を持ち、更に深く学ぶ意欲を持つ。 - 積極的に授業内での言語活動に参加しコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、自主的に授業外での学習に取り組む姿勢を身につける。	「話す（発表・やり取り）」「書く」活動を通じて、様々な話題に関する情報や自分のアイデアを英語で話したり、まとまった文章で表現したりできる。より豊富な語彙や表現を活用し、状況に応じた語り方・書き方ができる。	- 日常的な話題について、英語で「聞く」「読む」活動を通じて、情報や考えなど相手が伝えようとすることを理解できる。 - 論説文や物語文に慣れ、様々な英文の要旨を理解できる。 - 論点や根拠などを明確にするとともに、文章の構成や図表との関連を理解できる。	- 語彙・構文・文法・発音等についての知識や、その運用についての知識を身につけるとともに、言語の背景にある文化などを理解している。 - 場面や状況に応じたふさわしい表現や強勢やイントネーションを知っている。	

時期	学習内容・項目		ねらい・目標
1 学期	使用する教材を以下の5つのユニット「人生」「平和」「文化・芸術」「自然」「科学技術」に分け、それぞれのタームで取り扱う項目について、より深い読みを進めていく。なお[I]の表記は、[コミュニケーション英語Ⅰの教科書単元]を意味し、必要に応じて扱う。		様々な言語活動に取り組み、英語運用に必要なあらゆる技能を身に付ける。また、トピックについては、コミュニケーション英語Ⅰで既習の物も扱いながら、各単元の内容を主体的に深めていくことを目標とする。 ◆Listening / Reading - 様々なテーマについて書かれた英文を読んだり聴いたりして、その文章構造の正しい把握をもとに的確に情報を得ることができる。また、関連する英文を主体的に読み、理解を深めることができる。 ◆Speaking(会話・発表) - 得た情報をもとに、自らの意見を伝えたり、課題解決に向けたやりとりをしたりできる。相手の発言等に即興で質問することができる。 ◆Writing - 英文を読んだり、やりとりをして得た情報をもとに、自らの考えなどを一定量の英文で書くことができる。 ◆Discussion / Debate - 課題に対して、協働的に話し合い、やりとりをすることにより、課題解決を提案したり、自らの意見を再構築したりすることができる。
	ターム 1 ・生き方・あり方を考える	・L1 Around the World on a Bike 劇作家 平田オリザ氏の体験 ・[I] L2 Going into Space 宇宙飛行士 若田光一氏の生き方 ・L2 Into Unknown Territory 棋士 羽生善治氏の人生哲学 ・[I] L4 Seeing with the Eyes of the Heart ピアニスト 辻井伸行氏の生き方	
	ターム 2 ・国際貢献のあり方を考える	・L4 Crossing the Border 国境なき医師団 貫戸朋子氏の活動 ・L8 Working against the Clock 科学者 広瀬茂男氏の取り組み ・夏課題 自らの生き方を考える(プレゼンテーション作成)	
	ターム 3 ・文化や芸術の可能性について考える	・L3 OOPARTS 不思議な人工物 OOPART ・L6 Ashura--A Statue with Three Faces-- 興福寺阿修羅像の魅力	
2 学期	ターム 4 ・自然の力・自然との共生について考える	・L7 Why Biomimicry? 自然と人間の共生 ・[I] Roots & Shoots 学者 Jane Goodall 氏の活動 * biomimicry の可能性 (プレゼンコンテスト)	
	ターム 5 ・現代の科学技術の可能性について考える	・冬課題 自由研究(プレゼンテーション作成) ・L9 The Long Voyage Home 小惑星探査機 はやぶさの帰還	
3 学期			

授業の形態	クラス授業（ペアやグループでの言語活動を含む、学習者が主体となる授業）
教科書	『CROWN English CommunicationⅡ New Edition』三省堂
副教材	生徒用リスニングCD・『ワークブックスタンダード』三省堂、 『速読英単語①必修編 改訂第7版』・CD Z会
評価の方法	定期考査は実施せず、平常点のみで評価する (平常点は、単元テスト・パフォーマンステスト・プレゼン・スピーチ・課題提出など)
備 考	・上記の他、オリジナル教材を使用し、授業内でパフォーマンステストを定期的に行う

高校 2 年（外国語科：英語）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
コミュニケーション英語Ⅱ	4	必修	FT・FTs	上村・橋詰

目 標	- 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報やアイデアなどを的確に理解したり適切に伝えたりする態度を養う。 - 国際化社会に対応できる英語運用能力を高めるために、個人およびペア・グループでの様々な活動を通し、その基盤となる「読む」「聞く」「話す（発表・やりとり）」「書く」力を身につける。 - 相手の発言を受けて発言したり質問したりする活動など、英語を使ったやり取りを通して、自分の意見やアイデアを持ったり、吟味したりする力を養う。 - 英語でスピーチやプレゼンテーションなどを行うための技能や英語力・表現力を身につける。また、聴き手として発表について即興で質問するなど、積極的に話し手に関わるための英語力も高める。			
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
育 っ た い 力	- 様々な分野の話題に興味、関心を持ち、更に深く学ぶ意欲を持つ。 - 積極的に授業内での言語活動に参加しコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、自主的に授業外での学習に取り組む姿勢を身につける。	豊富な語彙や学習した表現を「聞く」「話す（やりとり・発表）」「読む」「書く」活動を通じて活用し、様々な話題に関する情報や自分のアイデアを英語で話したり、まとめた文章で表現したりできる。	- 日常的な話題について、英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとすることを理解できる。 - 論説文や物語文に慣れ、様々な英文の要旨を理解できる。 - 論点や根拠などを明確にするとともに、文章の構成や図表との関連を理解できる。	- 語彙・構文・文法・発音等についての知識や、その運用についての知識を身につけるとともに、言語の背景にある文化などを理解している。 - 場面や状況に応じたふさわしい表現や強勢やイントネーションを知っている。

時期	学習内容・項目		ねらい・目標
1 学期	使用する教材を以下の5つのユニット「人生」「平和」「文化・芸術」「自然」「科学技術」に分け、それぞれのタームで取り扱う項目について、より深い読みを進めていく。なお[I]の表記は、[コミュニケーション英語Ⅰの教科書単元]を意味し、必要に応じて扱う。		様々な言語活動に取り組み、英語運用に必要なあらゆる技能を身に付ける。また、トピックについては、コミュニケーション英語Ⅰで既習の物や副教材の素材も扱いながら、各単元の内容を主体的に深めていくことを目標とする。 ◆Listening / Reading - 様々なテーマについて書かれた英文を読んだり聴いたりして、その文章構造の正しい把握をもとに的確に情報を得ることができる。また、関連する英文を主体的に読み、理解を深めることができる。 ◆Speaking(会話・発表) - 得た情報をもとに、自らの意見を伝えたり、課題解決に向けたやりとりをしたりできる。また相手の発言等に即興で質問することができる。 ◆Writing - 英文を読んだり、やりとりをして得た情報をもとに、自らの考えなどを一定量の英文で書くことができる。 ◆Discussion / Debate - 課題に対して、協働的に話し合い、やりとりをすることにより、課題解決を提案したり、自らの意見を再構築したりすることができる。
	ターム 1 ・生き方・あり方を考える	・L1 Around the World on a Bike 劇作家 平田オリザ氏の体験 ・[I] L2 Going into Space 宇宙飛行士 若田光一氏の生き方 ・L2 Into Unknown Territory 棋士 羽生善治氏の人生哲学 ・[I] L4 Seeing with the Eyes of the Heart ピアニスト 辻井伸行氏の生き方	
	ターム 2 ・国際貢献のあり方を考える	・L4 Crossing the Border 国境なき医師団 貫戸朋子氏の活動 ・L8 Working against the Clock 科学者 広瀬茂男氏の取り組み ・夏課題 自らの生き方を考える(プレゼンテーション作成)	
2 学期	ターム 3 ・文化や芸術の可能性について考える	・L3 OOPARTS 不思議な人工物 OOPART ・L6 Ashura--A Statue with Three Faces-- 興福寺阿修羅像の魅力	
	ターム 4 ・自然の力・自然との共生について考える	・L7 Why Biomimicry? 自然と人間の共生 ・[I] Roots & Shoots 学者 Jane Goodall 氏の活動 * biomimicry の可能性 (プレゼンコンテスト)	
3 学期	ターム 5 ・現代の科学技術の可能性について考える	・冬課題 自由研究(プレゼンテーション作成) ・L9 The Long Voyage Home 小惑星探査機 はやぶさの帰還	

授 業 の 形 態	クラス授業（ペアやグループでの言語活動を含む、学習者が主体となる授業）
教 科 書	『CROWN English CommunicationⅡ New Edition』三省堂
副 教 材	生徒用リスニングCD・『ワークブックアドバンスト』三省堂、 『速読英単語①必修編 改訂第7版』・CD Z会 『速読英単語②上級編 改訂第4版』・CD Z会
評 価 の 方 法	定期考査は実施せず、平常点のみで評価する (平常点は、単元テスト・パフォーマンステスト・プレゼン・スピーチ・課題提出など)
備 考	・上記の他、オリジナル教材を使用し、授業内でパフォーマンステストを定期的に行う

高校 2 年（外国語科：英語）

科 目	単位数	種別	対象生徒	担当教諭
Expression I	2	必修	AM・AMs	梅本・大矢・上村・山内・Coslian・Staden・Grant

目 標	・基本的な発表の仕方を学び、堂々と人前で自分の意見や考えを発表できる力を身につける。 ・テーマについて深く考え、根拠に基づいた論理的で偏りのない思考や、自己の思考・感情を意識的に振り返る内省的な思考を行う力を身につける。 ・場面や状況にあった適切な表現を使って円滑に会話することための幅広い言語運用能力を伸ばす。 ・与えられたトピックに対して、即興的に話す即自的な力を伸ばす。 ・プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート、ロールプレイ等の多様な言語活動を通して、英語を用いて意見やアイデアをやりとりするための英語運用能力を養う。			
育 っ て い き た い 力	意欲・関心・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
	・さまざまな分野の話題に興味、関心を持ち、更に深く学ぶ意欲を持つ。 ・積極的に授業内での言語活動に参加しコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、自主的に授業外での英語学習に取り組む姿勢を身につける。	・「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の活動を通じてさまざまなトピックに関する情報や自分の意見を英語で話したり、まとまった文章で表現したりできる。	・英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解する。 ・聞いたり読んだりしたことを学習や経験に基づき、情報や考えをまとめ発表する。 ・また発表されたものを聞いて、質問したり、意見を述べたりする。	・英語やその運用についての知識を身につけるとともに、言語の背景にある文化などを理解する。 ・さまざまな分野の知識を増やし、幅広い視点で物事を考えられるようになる。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・①Functional Expressions 1) 勧誘・紹介・説明 2) 依頼・希望 3) 対比・対照 4) 提案・助言 5) 要約・結論 6) 主張・理由 7) 許可・禁止	◆Thinking ・身の回りにある問題や社会性のある課題に関して、論理的に思考をすることができる。 ・独自のアイデアを創ることができる。 ・物事の優劣を比較検討することができる。 ◆Reading ・日常生活での実用的な文章の要点や意図を理解できる。 ・社会性のある分野について書かれた文章の概要を把握し、その要点や意図を理解できる。 ◆Listening ・日常生活の話題や、社会性のある分野について話された一定の長さの内容・会話を聞いて、全体把握することができる。 ◆Speaking ・日常生活の話題や、社会性のある分野について、場面や目的に応じて一定の長さで自分の意志と理由を述べることができる。
2 学期 3 学期	・②Presenting Opinions 1) Brain Storming 2) Show & Tell 3) Speech 4) Presentation ・③Exchanging Opinions 1) Discussion Group Discussion Panel Discussion 2) Debate Micro Debate Group Debate	・準備なしで即興的に発表したり、やりとりしたりすることができる。 ・読んだり聞いたりしたことを受けて、即興的に質問したり、質問に対応することができる。 ◆Writing ・論理的に考え、根拠に基づいて、一貫性のある文章を書くことができる。 ・言語の使用場面と働きを理解し、状況に応じて適切な表現を正しく使うことができる。 ◆Vocabulary ・様々な活動のなかで必要とされる表現を積極的に活用しながら、語彙を豊かにすることができる。 ◆Presentation / Discussion / Debate ・聞き手の興味を引き付け、考えや意図を効果的に伝えられるプレゼンテーションができる。 ・情報を整理し、自分の意見や価値観を積極的に意見し、共有することができる。 ・論題に対し、根拠をベースに論理的に思考し、英語で相手を説得することができる。

授 業 の 形 態	クラス授業（日本人教員とネイティブ教員による、アウトプットを主体とした授業）
教 科 書	なし
副 教 材	なし
評 価 の 方 法	定期考査は実施せず、平常点のみで評価する （単元テスト、課題提出、スピーチやプレゼンテーション、ディベートなどのパフォーマンス課題など）
備 考	・上記の他、オリジナル教材を使用する

高校 2 年（外国語科：英語）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
Expression I	3	必修	FT・FTs	吉本・上村・Coslian・Grant

目 標	・基本的な発表の仕方を学び、堂々と人前で自分の意見や考えを発表できる力を身につける。 ・テーマについて深く考え、根拠に基づいた論理的で偏りのない思考や、自己の思考・感情を意識的に振り返る内省的な思考を行う力を身につける。 ・場面や状況にあった適切な表現を使って円滑に会話することための幅広い言語運用能力を伸ばす。 ・与えられたトピックに対して、即興的に話す即自的な力を伸ばす。 ・プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート、ロールプレイ等の多様な言語活動を通して、英語を用いて意見やアイデアをやりとりするための英語運用能力を養う。			
	意欲・関心・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
育 っ て たい 力	・さまざまな分野の話題に興味、関心を持ち、更に深く学ぶ意欲を持つ。 ・積極的に授業内での言語活動に参加しコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、自主的に授業外での英語学習に取り組む姿勢を身につける。	・「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の活動を通じてさまざまなトピックに関する情報や自分の意見を英語で話したり、まとまった文章で表現したりできる。	・英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解する。 ・聞いたり読んだりしたことを学習や経験に基づき、情報や考えをまとめ発表する。 ・また発表されたものを聞いて、質問したり、意見を述べたりする。	・英語やその運用についての知識を身につけるとともに、言語の背景にある文化などを理解する。 ・さまざまな分野の知識を増やし、幅広い視点で物事を考えられるようにする。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・① Functional Expressions 1) 勧誘・紹介・説明 2) 依頼・希望 3) 対比・対照 4) 提案・助言 5) 要約・結論 6) 主張・理由 7) 許可・禁止	◆Thinking ・身の回りにある問題や社会性のある課題に関して、論理的に思考をすることができる。 ・独自のアイデアを創ることができる。 ・物事の優劣を比較検討することができる。 ◆Reading ・日常生活での実用的な文章の要点や意図を理解できる。 ・社会性のある分野について書かれた文章の概要を把握し、その要点や意図を理解できる。 ◆Listening ・日常生活の話題や、社会性のある分野について話された一定の長さの内容・会話を聞いて、全体把握することができる。 ◆Speaking ・日常生活の話題や、社会性のある分野について、場面や目的に応じて一定の長さで自分の意志と理由を述べるることができる。 ・準備なしで即興的に発表したり、やりとりしたりすることができる。 ・読んだり聞いたりしたことを受けて、即興的に質問したり、質問に対応することができる。 ◆Writing ・論理的に考え、根拠に基づいて、一貫性のある文章を書くことができる。 ・言語の使用場面と働きを理解し、状況に応じて適切な表現を正しく使うことができる。 ◆Vocabulary ・様々な活動のなかで必要とされる表現を積極的に活用しながら、語彙を豊かにすることができる。 ◆Presentation / Discussion / Debate ・聞き手の興味を引き付け、考えや意図を効果的に伝えられるプレゼンテーションができる。 ・情報を整理し、自分の意見や価値観を積極的に意見し、共有することができる。 ・論題に対し、根拠をベースに論理的に思考し、英語で相手を説得することができる。
2 学期 3 学期	・②Presenting Opinions 1) Brain Storming 2) Show & Tell 3) Speech 4) Presentation ・③Exchanging Opinions 1) Discussion Group Discussion Panel Discussion 2) Debate Micro Debate Group Debate	

授 業 の 形 態	クラス授業（日本人教員とネイティブ教員による、アウトプットを主体とした授業）
教 科 書	なし
副 教 材	なし
評 価 の 方 法	定期考査は実施せず、平常点のみで評価する （単元テスト、課題提出、スピーチやプレゼンテーション、ディベートなどのパフォーマンス課題など）
備 考	・上記の他、オリジナル教材を使用する

高校2年 (外国語科：英語)

科 目	単位数	種別	対象生徒	担当教諭
Critical Thinking I	2	必修	GL	大矢・Green

目 標	・複数の視点から吟味し、問い、よく考える知的な営み（Critical Thinking）を通して、根拠に基づいた論理的で偏りのない思考や、自己の思考・感情を意識的に振り返る内省的な思考を行う力を身につける。 ・プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート、ロールプレイ等の多様な言語活動を通して、英語を用いて意見やアイデアをやりとりするための基礎・基本的な言語運用能力を身につける。			
育 っ た い 力	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
	・さまざまな分野の話題に興味、関心を持ち、更に深く学ぶ意欲を持つ。 ・積極的に授業内での言語活動に参加しコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、自主的に授業外での英語学習に取り組む姿勢を身につける。	・「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の活動を通じてさまざまなトピックに関する情報や自分の意見を英語で話したり、まとまった文章で表現したりできる。	・英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解する。 ・英語の論説文や物語文に慣れ、長短さまざまな英文の要旨を理解できる。 ・論点や根拠などを明確にするとともに、文章の構成や図表との関連を考える。	・英語やその運用についての知識を身につけるとともに、言語の背景にある文化などを理解する。 ・さまざまな分野の知識を増やし、幅広い視点で物事を考えられるようにする。

学習内容・項目	ねらい・目標
年間を通して様々なテーマに基づく単元学習を設定し、以下のような活動を行うことを通して、各テーマについての思考を深める。 【単元と活動の一例】 単元名：学力差問題 ・① グループ・ディスカッション 「学力差を解決するにはどうすれば良いか」という問いについてフリー・ディスカッションを行う。 ・② グループ・プレゼンテーション ディスカッションで出たアイデアをもとにグループで解決策を提案する。 ・③ ディベート 各グループが提案した解決策に関し、その是非について、様々な形式でディベートを行う（1対1、グループ、準備型、即興型等）。 ・④ ライティング ディベートでの学びを生かして、自分の意見を一定量の英文で書く。	◆Thinking ・社会が直面する様々な問題について、論理的に思考を深めることができる。 ・自ら問いを持ち、探究し、独自のアイデアを創ることができる。 ・情報の信頼度について検証・判断し、必要な情報を的確に獲得できる。 ◆Reading ・日常生活での実用的な文章の要点や意図を理解できる。 ・社会性のある分野について書かれた文章の概要を把握し、その要点や意図を理解できる。 ・前提や論理を疑いながら読み、自らの意見やアイデアを持つことができる。 ◆Listening ・日常生活の話題や、社会性のある分野について話された一定の長さの内容・会話を聞いて、全体把握することができる。 ・前提や論理を疑いながら聞き、自らの意見やアイデアを持つことができる。 ◆Speaking ・日常生活の話題や、社会性のある分野について、場面や目的に応じて一定の長さで自分の意志と理由を述べるができる。 ・準備なしで即興的に発表したり、やりとりしたりすることができる。 ・読んだり聞いたりしたことを受けて、自らの意見やアイデアを不自然な間を置くことなく話すことができる。 ・読んだり聞いたりしたことを受けて、即興的に質問したり、質問に対応することができる。 ◆Writing ・論理的に考え、根拠に基づいて、一貫性のある文章を書くことができる。 ・語彙や文構造に多様性を持たせた文章を書くことができる。 ◆Vocabulary ・様々な活動のなかで積極的に活用しながら、語彙表現を豊かにすることができる。 ・語彙テストを通して、語彙の偏りを意識しながら、補強することができる。

授 業 の 形 態	クラス授業（ネイティブ教員による、アウトプットを主体とした授業）
教 科 書	なし
副 教 材	『速読英単語①必修編 改訂第7版』・CD Z会
評 価 の 方 法	定期考査は実施せず、平常点のみで評価する (語彙テスト、レポート、プロジェクト課題、プレゼンテーション、ディスカッションなど)
備 考	・上記の他、オリジナル教材を使用する

高校2年（外国語科：英語・理科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
Science English I	2	必修	G L s	澤田・Green

目 標	・科学的 content について積極的に英語で実験を行い、基本的な単語や文法、プロトコルの見方や Topic の事象について学習を深める。 ・Topic についてディスカッションを行い、科学的事実や意見を英語でリサーチし、その内容を多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら話し合い、プレゼンテーション能力を養う。 ・ワークショップなどにおいて、英語で発表する力を育成することで、国際的視野を深める。			
	意欲・関心・態度	外国語表現の能力	思考・知識・理解	表現・発表
育 っ た い 力	・化学・物理・生物などの様々な話題に興味・関心を持ち更に深く学ぶ意欲を持つ。 ・積極的に授業内での言語活動に参加し科学的な話題についてディスカッションしようとする姿勢や自主的に授業外でのリサーチ活動などに取り組む姿勢を身につける。	・「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の活動を通して様々な科学的トピックについての情報や自分の意見を即興で話したり、整理した内容を論理的に発表したりできる。	・聞いたり読んだりした科学的 content について学習や経験に基づき自分の考えをまとめることができる。 ・英語を通して科学的な知識を深め、現代的な科学の話題について理解できる。	・ディスカッションにおいて質問し、相手の意見を理解しながら自分の立場を決めて様々な情報や意見を交換することができる。 ・リサーチした内容を論理的にまとめ発表することができる。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期 2 学期	・1. オリエンテーション ・2. 化学・生物・物理に関する課題実験に取り組む ◦仮説の立て方 ◦データのまとめ方 ◦考察 ◦プレゼンテーション発表 ◦レポートの作成 ・3. サイエンスニュース（英語）を読む	・1. 本授業の内容と必要とされる提出物や課題内容の説明 ・2. 化学基礎、生物基礎、物理基礎で習得した内容の発展内容について (1) 【日本語】分野の内容確認、実験の試薬などの説明 (2) 【英語】プロトコルをもとに実験実習、Topic についての説明 (3) 【日本語・英語】考察&Topic ディスカッション ※ (1) ～ (3) の繰り返し テーマを設定し、一定期間実験・データを蓄積する。 仮説検証実験を繰り返すことにより、科学的思考力、考察力、英語表現、プレゼン能力を養う。 ・3. 英語で書かれたサイエンスニュースを読み、英語で要約する力を養う。また、そのニュースに関する自身の考えを持ち、表現する力を養う。
3 学期	・1. アカデミックプレゼンに向けて ・2. Science English II に向けて	・1. 1, 2 学期で学んだプレゼンテーション課題について、選びさらに深める。準備したプレゼンテーションを発表しアカデミックプレゼンで発表するグループを選ぶ。 ・2. Science English II に向けて、レポートの作成について学ぶ。

授 業 の 形 態	クラス授業・ペアワーク・グループワーク・個人研究
教 科 書	なし
副 教 材	オリジナル教材（プリント配布）
評 価 の 方 法	定期考査は実施せず、平常点のみで評価する (授業への出席, 参加, レポート, 課題, リサーチ, プレゼンテーションなど)
備 考	・事前学習について、実験に関する基礎知識や使用する試薬については、日本語で説明する。 ・実験時の使用言語は、すべて英語となる。 ・水環境ワークショップや SAP・SSH 成果発表会において、英語で発表することを目標とする。

高校 2 年 （情報科）

科 目	単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
社会と情報	1	必修	AM・AMs・GL・GLs・FT・FTs	伊藤・藤井

目 標	【文理共通】 - 情報のデジタル化および情報通信ネットワークの基本事項についての知識および技能を理解して習得を図る。 - Python を使ったプログラミング実習を通じて、基本的なプログラミングに関する知識・技能の定着を図る。 - 表計算ソフトの活用を通じて、関数を使った処理や、データベース的な活用、データの加工を通じてデータサイエンスや統計の数学的知識を使った思考力・判断力・表現力の育成を図る。		
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
育 っ て たい 力	● タイピング入力速度 135 文字/分を目標に入力速度を伸ばす ● 表計算エクセルで IF など応用的な関数を利用し、データ処理やデータサイエンスの基礎力を伸ばす。 ● プログラム言語『Python』を用いてのプログラミング深め、自己表現のための技能を伸ばす。 ● コンピュータの仕組みやデジタル表現、情報通信ネットワークなどの基本的な知識を習得し、活用できる力を伸ばす。	● プログラムの基本 3 処理の順次処理、分岐処理、反復処理を組み合わせ、自分で考えて最適な組み合わせや手順で問題を解決する力を伸ばす。	● 自ら進んで計画的に知識の理解や技能習得の理解に努めるため、繰り返し行うなどの習得力を伸ばす。 ● 課題提出を作業として捉えるのではなく、自身の能力向上のための課題となるよう取り組む態度を伸ばす。

時期	学習項目＜技能＞	学習項目＜知識＞	ねらい・目標
1 学期 2 学期	● タイピング入力練習 ● 表計算エクセル応用（関数） ● プログラミング実習 ・ Python の基本 ● 実技試験①：制限時間内に四則演算・繰り返し・条件分岐などの基本的なプログラムができる簡単ができる。	＜1 学期定期試験範囲予定＞ 第 2 編 デジタル情報と情報の活用 第 1 章 コンピュータのしくみ 第 2 章 情報のデジタル表現 教科書 p62-83 問題集プリント No. 17-24 等より出題	● コンピュータの仕組みや情報のデジタル表現について理解する。 ● 基本的な Python の知識を理解し、実技試験によって知識技能の定着を図る。
2 学期 3 学期	● タイピング入力練習 ● プログラミング実習課題 ● 実技試験②：Python を用いて簡単なプログラムを作ることができる。 ● 実技試験③：Python を用いて簡単なプログラムを作ることができる。（関数・乱数の利用などを含む）	＜2 学期定期試験範囲予定＞ 第 3 編 情報通信ネットワーク 第 1 章 コミュニケーション手段の発達 第 2 章 インターネットのしくみ 教科書 p104-129 問題集プリント No. 27-34 プログラミング分野の内容等 より出題 ＜3 学期の定期試験はありません＞	● 基本的なプログラミングの技法や知識を、Python を用いて理解し、練習問題や課題を通じて技能の定着を図る。 ● インターネットをはじめとする情報通信ネットワークの理解を深める。
授業の形態	実習形式と個別学習（オンデマンド映像、個別化学習アプリなど）		
教科書	『改訂版 高等学校 社会と情報』数研出版		
副教材	＜知識分野＞ ・ 社会と情報サポートノート など ＜技能分野＞ ・ 『ポイントでマスター基礎からはじめる情報リテラシーOffice2016』 実教出版 ・ Life is Tech Lesson/ Progate Python I ～III		
評価の方法	定期試験：平常点＝25％：75％（平常点内訳：タイピング、実技試験（Python、Excel）など） 1 学期の成績表に評価は算出しません。2 学期の成績表には 4 月から 9 月ぐらいまでの実施内容の評価を、3 学期の成績表は年間の実施内容の評価を記載する。		
備考	・ この授業は授業時間内に一生懸命取り組んでも一定のレベルに達しない場合は単位を認定しません。自分の力量に合わせて、授業内はもちろんのこと、授業時間外の個々の学習が必須です。また、受け身の姿勢ではなく、自ら学ぶ姿勢で、結果を出す努力が大切です。Python 言語は、繰り返し練習することで身につきます。Progate は最低でも 3 回は練習するようにしてください。 ・ 知識の習得に関して、Classi や Life is Tech Lesson!、Progate、Google Classroom などのオンライン学習ツールを駆使し、各自計画的に教科書の知識について各自学習すること。 ・ 1 学期末と 2 学期末実施の定期試験はマークシートを用いる方法で実施する。 ・ 課題に取り組むことを作業とせず、実技試験に向けて自分の能力向上のため課題に取り組むこと。		

※このシラバスは 2021 年度末の段階での案です。状況に応じて変更になる場合があります。変更の際に授業にてお知らせします。

高校 2 年（学校設定）

科 目	単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
文社探究Ⅰ	2	必修	AM・GL	石田、上田、梅本、大橋、南

目 標	- 情報の集め方、文章の読み方、問いの立て方などを学び、探究活動の土台となる情報収集力・文章読解力・批判的思考力を養う。 - 研究テーマの決め方、リサーチクエスチョンの立て方、フィールドワークの手法などを学び、探究活動の根幹となる、情報分析力・論理的思考力を養う。 - 自分たちの興味・関心に応じた社会問題を調査し、それを解決するためのアクションプランを計画・実行し、持続可能な社会づくりに貢献する。			
	関心・意欲・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
育 て た い 力	社会科学系分野の現代的課題に対して、これまでの知識や経験の中から類推したり、新たな知見を獲得するなどを通じて、解決の糸口を根気強く探し、自分なりの解決策や行動を導き社会貢献しようとする姿勢を養う。	- 身の回りの事象を科学的に捉え、課題設定・課題解決の道筋を見つけ出す。 - 協働的な学びの中で、思考の過程を振り返り多面的・創造的に考えることができる。	- 新聞記事や書籍等から得られる情報・データを公平な視点から分析することができる。 「誰に・何を伝えるのか」を明確にし、研究成果をレポートやスライド等にまとめることができる。	- 情報の集め方、文章の読み方、問いの立て方の手法を身につける。 - 研究テーマの決め方、リサーチクエスチョンの立て方、フィールドワークの手法の手法を身につける。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	- 自分史ワーク - 興味関心と社会課題（困っている人を）を結びつける。 - 共通の興味関心のある人とグループを作り夏休みにフィールドワークへ行く。	- これまでの人生を振り返り、自分とは何か。何に興味があるのか自分を知ることから始める。発表する - 興味関心と社会課題を結び付け、研究テーマを決定し、理解と知識を深める。 - 必要に応じて情報の集め方、整理などを学ぶ。
2 学期	夏休みフィールドワーク（FW）成果発表 アクションの実施 1. 研究手法を考え、計画を立てる 2. アクションを実施する 3. 結果をまとめて考察し、結論を導く 4. 反省をもとに、次のアクションを考える	- 研究テーマに関する理解と知識を深め、社会をどう良くしていきたいのか、具体的なリサーチクエスチョンを設定する - FWの成果を基にアクションプランを立てる - 計画に基づき、記録をこまめにつけながら、アクションを実施する - 行ったアクションの結果を分析し、得られた結果に対してさらに「問い」を立て、考察を行い、ブラッシュアップを重ねる
3 学期	5. 研究内容を発表する 研究成果は外部のコンテストに全員が出品する予定	- アクションの内容をパワーポイントにまとめ、発表する - 次年度の文社探究Ⅱに向けて、個人の課題意識をさらに広げ、探究活動を継続する

授 業 の 形 態	テーマ別ゼミ（半学級）を単位とする授業／一斉授業・グループワーク・フィールドワークなど
教 科 書	なし
副 教 材	なし
評 価 の 方 法	各テーマのワークシート・成果物・議論・発表・「探究学力測定テスト」の結果等 100%
備 考	

高校 2 年（学校設定）

科 目	単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
理数探究Ⅰ	2	必修	AMs・GLs	稲田、小嶋、児玉、吉田結

目 標	・Thinking Design で学んだ基本的な、情報の集め方・データの処理の仕方などを応用し、探究活動の土台となる情報処理能力・情報収集力・文章読解力・批判的思考力を養い、最終的に高校3年生の「理数探究Ⅱ」で行う研究テーマの設定を自力でできるようにする。 ・研究テーマの決め方を学び、探究活動の根幹となる情報分析力・論理的思考力を養う。 ・探究プロセスの中で自ら立てた問いに対して根気強く向き合いながら、自己の成長を客観視（メタ認知）するとともに、持続可能な社会づくりに貢献しようとする態度を養う。			
	関心・意欲・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
育 て た い 力	・現代的課題に対して、これまでの知識や経験の中から類推したり、新たな知見を獲得したりするなどを通じて、解決の糸口を根気強く探し、自分なりの解決策や行動を導き社会貢献しようとする姿勢を養う。	・身の周りの事象を科学的に捉え、課題設定・課題解決の道筋を見つけ出す。 ・協働的な学びの中で、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えることができる。	・実験結果や参考文献等から得られる情報・データを公平な視点から分析することができる。 ・「誰に・何を伝えるのか」を明確にし、研究成果をレポートやスライド等にまとめることができる。	・情報の集め方、文章の読み方、問いの立て方の手法を身につける。 ・研究テーマの決め方、課題設定の立て方の手法を身につける。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・実験やゼミなどを通じて以下のような課題研究に必要なスキルを学ぶ ①実験実施に関わる基本的な技術の習得と安全管理 ②レポートの作成方法 ③データの処理 ④考察の仕方 など ・自分史の作成	・「探究的な学び」とは何かを理解する ・課題実験を通じて、課題研究に必要な基礎スキルを身につける。
2 学期	・探究テーマの設定と練り上げ ・課題と解決すべき問いの設定 ・課題について調査/実験 ・課題について中間発表	・研究テーマに関する理解と知識を深め、課題研究で何を明らかにしたいのか明確にする。 ・先行研究・先行事例を学び、研究テーマに関して理解を深める。 ・研究手法を考え、研究計画を立てることができるようになる。 ・研究計画をもとに、実験及び探究活動をおこなう。その過程のなかで、考察および新たな問いを立てることができるようになる。
3 学期	・研究内容を発表する ・次年度の探究テーマの確定 良い研究成果があれば「SAP」にて校内発表をおこなう。	・個人で設定した課題研究の内容をレポートやパワーポイントにまとめ、発表する。 ・次年度の「理数探究Ⅱ」に向けて、個人の課題意識をさらに広げ、探究活動を継続する。

授 業 の 形 態	テーマ別ゼミグループを単位とする授業／一斉授業・グループワーク・フィールドワークなど
教 科 書	なし
副 教 材	教員が自作したプリント・スライドなど
評 価 の 方 法	①定期考査なし 平常点 100% （平常点として、レポート・日々の報告書・面談（質疑）・発表等、年度末課題、GPS アカデミックなどを総合的に判断） ②「理数探究Ⅱの授業で各自が行うテーマ登録」を単位習得の必須条件とする。
備 考	・「主体的・対話的で深い学び」「総合的な探究の時間」のモデル授業として展開する。 ・講演会や学会の案内などさまざまなプロジェクトを案内するので、積極的に取り組むことを奨励する。 ・図書館にある『課題研究メソッド～よりよい探究活動のために～』 岡本尚也著（啓林館）を随所に活用する。

高校3年（国語科）

科 目	単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
現代文B	2	必修	AM・AMs・GL・GLs	太田・早瀬

目 標	・社会における諸問題を扱った評論文や小説などから、そこに描かれている事象を正しく読み取る力を養う。 ・論理的思考力を養う。 ・幅広い問題意識を持ち、自ら情報を発信する力を養う。 ・プレゼンテーション能力やコミュニケーション力を総合的に養う。 ・自主的な読書や学習をおこなう主体性の形成をはかる。			
	意欲・関心・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
育 て たい 力	・さまざまな視点を通して語られる主張から、国際間の諸問題や日本の現状をとらえる能力。 ・自らテーマを見つけ、協働の学びに能動的に取り組む能力。 ・さまざまな文章に積極的に親しむ態度を養う。	・人間の生き方の多様性を学び、自らの人生の幅を広げる視点を獲得する。 ・現代社会の諸問題に対する多様な考え方に触れ、より多角的に物事を見て思考する力を獲得する。	・学術論文や志望理由書、報告書の執筆が支障無くできるような文章執筆能力。 ・相手の話を正確に理解し、自分の意見をまとめ、人に正確に伝える力。	・学術的な内容についても正確な聴取をし、持論の構築や思考に繋げられる能力。 ・教科書や新聞を隅々まで読むことができる語彙力。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・「世界をつくり変えるために」 小林康夫 上記学習を基礎とし、対話を行う。	・関連する事象に目を配り比較・検討することで、相対的な視点から筆者の主張を批判するための方法や思考力を身につける。 ・対話活動の中から自身や他者の新たな面を知り、対話による思考や行動の変容を体感する。
2 学期	・「こころ」 夏目漱石 上記学習を基礎とし、それに関する資料収集と調査分析ふまへ、対話を行う。	・日本の近代化の渦中で描かれた作品を読むことで、作品の登場人物の心理変化や夏目が伝えたかったことについて考察することができる。 ・思想家としての側面から夏目漱石を理解し、「こころ」読解、理解を深めることができる。 ・対話活動の中から自身や他者へのメタ的な視座を獲得し、自身の進路選択について思考をふかめることができる。
3 学期	・「であること」と「すること」 丸山真男 上記学習を基礎とし、自身の関心のある現代社会の問題を取り上げ、その問題に対峙する自分たちのあり方について対話を行う。	・日本の近代の思想史を理解し、それを現代にあてはめて理解を深めることができる。 ・これからの社会における自らの生き方について考え、表現することが出来る。 ・他者を理解し、共に考えるために言葉を用いて表現する姿勢を身につけるとともに、対話のテーマ設定や問いの設定などファシリテートの力を付ける。

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／講義形式／グループワーク
教 科 書	『精選現代文B』 東京書籍
副 教 材	『最新国語便覧』 浜島書店、『読解を深める現代文単語』 桐原書店
評 価 の 方 法	定期テスト 50%＋平常点（小テスト、提出課題、積極性など） 50%
備 考	・定期テストは、取り上げた教材の読解を中心に出題する。また、既習の知識を応用することで読み解ける初見の文章も出題する。 ・授業の内容によっては定期テストに代わりレポートを課すことも可とする。 ・上記の授業内容は予定であり、今後の授業動向や学習者の実態に応じて授業内容が変更されることがある。

高校3年（国語科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
現代文B	2	必修	FT・FTs	有賀

目 標	・大学入試共通テストにおいて、確実に80%以上の正解が出来るようになるための受験技術（基礎・応用）を習得する。 ・漢字・熟語などの語彙の増強と高等教育機関での議論に耐えうる知識の獲得を目指す。 ・一般常識の力を増強するため、社会問題にも関心を向けさせる。			
育 成 力	意欲・関心・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
	・学問を職業の糧とするという ことは、どのような社会的意味 を持つのか、という視野を広く した上で取り組む姿勢を養う。	・自己の観点は「主観」に過 ぎず、「客観」が求められるこ とと、その「客観」には複数 あることを意識する。	・筆者の用いている語句には 必ず、一定の「意図があるこ とを意識し、その思考を丁寧 に理解することを目指す。	・研究者の執筆した論文が遅 滞なく読めるレベルの語彙力 や思考の観点を身につける。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・センター試験過去問題 2002 年度～2020 年度分	・センター試験の問題に慣れる。 ・センター試験の問題で80%の正答率を確保する。
2 学期	・国公立2次試験過去問題 評論・小説の良質な入試問題を精選し、 生徒の学力と志望校に合わせて演習する。	・大学入試共通テストの問題への対応力を身に付ける。 ・難関大学の2次試験に対応できる読解力と要約力を身に付ける。 ・難関大学の2次試験で60%の正答率を確保する。
3 学期	・共通テスト対策	・共通テストに対応できる入試学力を身に付ける。

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／講義形式／グループワーク／ペアワーク
教 科 書	『展望現代文』筑摩書房
副 教 材	教員配布のプリント各種、センター試験過去問題集
評 価 の 方 法	平常点（授業内テスト、小テスト、積極性）100%
備 考	・受験において、確実な得点をするための学習活動である点が特徴である。夏期・冬期・春期休暇中に演習のための特別授業を行う。 ・上記の授業内容は予定であり、今後の授業展開や学習者の実態に応じて授業内容が変更されることがある。

高校3年（国語科）

科 目	単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
古典B	2	必修	AM・GL	川辺・有賀

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	随筆（古文） ・『徒然草』「花は盛りに」 ・『玉勝間』「兼好法師が詞のあげつらひ」 小話（漢文） ・『世説新語』「漱石枕流」 ・『十八史略』「先從隗始」 など 史伝（漢文） ・『史記』より『荊軻伝』 「風蕭蕭兮易水寒」 「図窮而匕首見」 評論（古文） ・『難波土産』より「虚実皮膜論」	・兼好法師と本居宣長の観花・観月に関する価値観の違いを理解する。 ・月を題材とした日中の漢詩を比較することで、日本人に特徴的に見られ美意識を読み取る。 ・室町と江戸という時空を越えた論戦から二人の主張の違いを読み取り、現代人として自分なりの意見を持つ。 ・漢文訓読のための基本事項を確認する。 ・秦王による暴政に対し、荊軻という一人の男が燕の太子の命を受けて暗殺を計画するものあと少しのところで失敗するという物語から、一人の男が志をもって最期を迎えるにいたるまでのドラマを読み味わう。 ・江戸時代の観劇について論じた文章を読み、自らの芸術鑑賞の経験と繋げて文化祭での表現活動を豊かにする。
2 学期	思想（漢文） ・『孔子』『孟子』『荀子』『老子』『韓非子』『墨子』 探究古典（古文・漢文） ・「花鳥風月」	・日本にも大きな影響を与えた中国思想について理解する。 ・それぞれの思想家達が説く思想について理解するとともに、プレゼンテーションバトル形式で現代の事例と関連させた自身の意見として示すことが出来る。 ・高校3年間の古典教育の集大成として、班ごとにテーマを決めて古典文学について探究活動を行う。 ・古代から近世までの和漢の古典作品すべてを対象として扱うことで、古代から現代までに至る日本文化や言語文化の変遷を概括し理解を深める。 ・さまざまな古典作品に描かれた自然の描写や人々の思いや考え方などについてそれぞれの興味に基づき探究することで、生徒自身のこれからの人生を豊かにし、古典を「生きたもの」とする。 ・授業内容については1学期冒頭の段階で告知し、年間を通した長期プロジェクトとすることで、生徒の授業に取り組む姿勢や知的探究心をより深めることを目指す。
3 学期	評論（古文） ・『源氏物語玉の小櫛』より「もののあはれの論」	・世界的にも評価の高い古典文学作品である『源氏物語』に対する評論を読み、俯瞰的な立場から鑑賞することで、日本の古典の世界を概括して理解する。

授 業 の 形 態	講義形式・グループワーク・ペアワーク・探究活動・プレゼンテーション
教 科 書	『精選古典B（古文編）』東京書籍、『精選古典B（漢文編）』東京書籍
副 教 材	『基礎から学ぶ解析古典文法三訂版』桐原書店・『プレミアムカラー国語便覧』数研出版
評 価 の 方 法	定期テスト50%＋平常点50%（探究活動、授業内発表、レポート課題、小テスト、授業態度等）
備 考	・上記の授業内容は予定であり、学習者の実態に応じて授業内容が変更されることがある。

高校3年（国語科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
古典B	2	必修	FT・FTs	有賀

目 標	・大学入試共通テストにおいて、確実に80%以上の正解が出来るようになるための受験技術（基礎・応用）を習得する。 ・基本事項の中でも定着しにくい分野（文語の助詞、敬語法、漢文の句形など）の強化を図る。 ・難関大学2次試験の過去問題で、70%以上の正解ができるような読解力を身に付ける。 ・和歌、漢詩などの韻文に関する理解を深める。			
育 て た い 力	意欲・関心・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
	・古文・漢文はどちらも強化することによって、安定した得点源となるので、入試における「武器」として捉える。	・古典の深みや、先人の見識・思考について人生の指針と出来るような観点で捉える。	・作者の用いている言語や、その時代背景について意識の網を張り、そこに潜む「論理」と「感覚」に気付く。	・日本の文化を創り上げてきた文学作品と、中国思想を作り上げてきた漢文作品から高い教養を身に付ける。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・センター試験過去問題 2002 年度～2020 年度分 ・国公立2次試験過去問題	・センター試験の問題に慣れる。 ・センター試験の問題で80%の正答率を確保する。 ・大学入試共通テストへの対応力を身に付ける。
2 学期	・古文・漢文の良質な入試問題を精選し、生徒の学力と志望校に合わせて演習する。	・難関大学の2次試験に対応できる読解力と要約力を身に付ける。 ・難関大学の2次試験で60%の正答率を確保する。
3 学期	・共通テスト対策	・共通テストに対応できる入試学力を身につける。

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／講義形式／グループワーク／ペアワーク
教 科 書	『精選古典B』東京書籍
副 教 材	教員配布のプリント各種、センター試験過去問題集
評 価 の 方 法	平常点（授業内テスト、小テスト、積極性）100%
備 考	・受験を視野に入れつつ、確実に合格レベルまで引き上げる学習活動である点が特徴である。 ・上記の授業内容は予定であり、今後の授業展開や学習者の実態に応じて授業内容が変更されることがある。

高校3年（学校設定科目）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
文社選択Ⅰ (クリティカルリーディング)	2	選択	AM	川辺

目 標	- 近代以降の様々な文章を「クリティカルに読む＝批判的に読む＝精読する」ことを目的とし、そのためのスキルを身につける。 - 大学進学後にさまざまな文献や論文を正しく読み解き、自らの研究活動に役立てることができるようになる。 「自己と社会」「言語と身体」「情報とメディア」「自然と科学」「経済と人間」「近代化の経験」「グローバルと境界」というテーマのもと幅広いジャンルの文章を多く読み、自らの思考のフィールドを広げる。 - 現代社会や現代思想においてトピックとなるような文章を読み、現代の社会の動きに敏感に対応できるような感性を養う。 - 精緻に読むことを目的とするものの、インプットにとどまらず、小論文を作成するなどアウトプットも重視することにより、生きた論理的思考力を身につける。			
	意欲・関心・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
育 て た い 力	様々な文章の読解を通して、自分を囲繞する今日的な問題について意見をもてるようになる。	現代の様々な問題に対して多角的な視野から検討できるようになること。多様な思想背景を持った文章を読むことで、柔軟な思考力を育み、さらに思考の幅を広げる。	難解な語彙や複雑な論理構造を持った文章でも、一文一文を精緻に読み込むことで理解できるようにし、さらにその内容を説明できるようになる。	どのような文章でも自力で理解できるようになるために語彙力を増やす。学術論文や専門書などに用いられる表現や言い回しを、自分も使えるようになる。
時期	学習内容・項目		ねらい・目標	
1 学期	「自己と社会」…「私」とは何か 岡田美智男／若林幹夫／温又柔 アイデンティティ、共時性／通時性、日本語とは何か 「言語と身体」…言語論・身体論 加賀野井秀一／斎藤慶典／前田愛 記号／差異、分節化、ことばと身体 「情報とメディア」…IT社会とAI・認識論 猪谷千香／三宅楊一郎／山本貴光／加藤秀一 メディアリテラシー、アフォーダンス ジェンダー		「私」とは固定化された同一のものではなく、社会との関係の中で絶えず生成変化を続けるということを、文章の中から読み取る。 - 言語と身体結びつきを文章から読み取り、そこから発展させて自己や世界との関連性を論理的に思考するように試みる。 - ソーシャルの言語論のアウトラインを理解することによって、言語を通して社会や世界のあり方を理解する力を身につける。 - IT社会における情報の性質を文章から理解し、人工知能やフェイクニュースといった現代的な問題を批判的に思考する。 - メディアとジェンダーの関連性を理解すると同時に、固定化されたジェンダー規範に対する批判的な思考を涵養する。 - 授業で扱った各分野に対して自らの考えを論理的に記述する。	
2 学期	「自然と科学」…自然科学と人文知 福岡伸一／村上陽一郎／北村喜宣 生物多様性、トランスサイエンス、SDGs 「経済と人間」…資本主義社会への視座 松井彰彦／ナタリー・サルトゥー＝ラジュ／岩井克人 貨幣の誕生、贈与、物神化 「近代化の経験」…近代と日本社会 福井憲彦／加藤周一／本田和子 歴史認識、日本文化論、時間		- 自然科学を題材に扱った文章を読み、生物多様性や生命倫理といった問題に関する理解を深める。 - 経済と人間に関する文章への理解を通して、資本主義経済下における人間社会のあり方について批判的に考察をする。 - ポストコロニアルな問題を取り扱うことによって、西欧的な近代社会のもつ負の側面に関して正確に理解する力を身につける。 - 日本文化の特質を文章から読み取ることで、非対称性のもつ美学に関する理解を深める。 - 子どもたちの有する固有の時間、空間感覚を文章から理解する。 - 授業で扱った各分野に対して自らの考えを論理的に記述する。	
3 学期	「グローバル化と境界」…越境する言葉 多木浩二／小熊英二／中屋敷均 境界、ナショナリズム		- グローバル社会におけるナショナリズムや境界の問題を文章から正確に理解し、近代社会を批判的に考察する力を身につける。 - 授業で扱った各分野に対して自らの考えを論理的に記述する。	

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／講義形式／個別指導
教 科 書	『高校生のための現代文ガイダンス ちくま評論文の論点21』筑摩書房
副 教 材	教員配布のプリント各種
評 価 の 方 法	平常点100%(レポート課題、小テスト、授業態度など)
備 考	・今後の授業展開や生徒の動向に合わせて適宜変更する可能性がある。

高校3年（学校設定）

科 目	単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
文社選択Ⅰ（小論文演習）	2	選択	AM	井上眞

目 標	・社会の出来事と自身の進路選択を結びつけ、言語化する力を付ける。 ・2年生までに国語の授業で習得した「構成表」を、探究科目課題等の文章を作成する演習の中で実践的に活用する。 ・説明したり、聞き取ったりすることで、抽象語の理解と運用を進める。			
育 て たい 力	意欲・関心・態度	見方・考え方	表現・言語感覚	知識・理解
	・書くことを通して、知識が「情報を知っている状態」から「情報を使える状態」にできることを体得し、書くこと自体への意欲を高める。 ・書くことから生まれる問いを醸成し大学の学びへの興味関心を引き出す。	・漢字検定2級レベルの語彙力や概念語の知識理解。 ・抽象語を文章の中で活用できるレベルの理解力。	・文章の読み手を意識し、構成や表現を工夫することができる力。また、他者の文章を分析したり、評価したりすることができる力。	・読解の方法や思考の型を駆使して、収集した情報を基に自らの主張をもっとも効果的に論証する力。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・600字コラム 600字程度で自身の身の回りの事象に対する考えを記述する。 ・800字考察 複数の意見を比較し、考察したことをまとめて書く。 ・研究資料の適切な収集方法を学ぶ。 ＊年間を通じて論理性の高い文章に触れる。	○自分の考えを記述する機会を増やし、語彙力、表現力を高める。 ○身の周りの事象から学問との関連を考えることができる。 ・人文科学系において必須となる抽象語を説明することを通じ、それぞれが自らの語彙として使いこなせるレベルに落とし込む。 ・問題発見や課題解決に必要な文献資料を収集することができる。 ・論理性の高い文章に多く触れることで、記述に応用することができる。
2 学期	・1000字レポート 評論文や論文、および同等の意見や主張のある音声情報を用いて、考察したことを記述する。 探究課題の研究で収集した個々の資料を要約し、適切に活用して論述する。	○収集した学術レベルの内容のテキストを、分析し、必要に応じた形に要約、比較し、具体例を用いながら自分の言葉でわかりやすく説明することができる。 ・探究課題の研究結果をクラスメイトに報告し、質疑することを通じ、論述構成をより伝わりやすいものに推敲することができる。
3 学期	・2000字レポート 探究課題の研究で収集した資料等の比較分析を基に考察したことを、論理性の高い文章にまとめたり、要約したりする。	○学術レベルの内容のテキストに対する批評を論理的に記述することができる。 ・探究成果を交流し合う中で、継続課題を発見することができる。 ・大学図書館を活用した情報検索方法を知る。

授業の形態	講義形式／演習形式／グループワーク
教科書	興味関心に応じて適時選出する
副教材	『最新国語便覧』浜島書店、『読解を深める現代文単語』桐原書店、各自の探究課題に関する収集資料
評価の方法	演習課題（レポート・論文）60%程度 授業参加課題（授業内発表・提出物など）40%程度 定期考査は実施しない。
備考	・上記の授業内容は予定であり、今後の授業展開や学習者の実態に応じて授業内容が変更されることがある。

高校3年（国語科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
小論文	2	必修	FT	山本聖

目 標	・小論文を書くための素地となる知の体系を、文章の要約やディスカッションを通して体得する。 ・身边から世界へという方向で段階的に書かせることで、書く楽しみや自己の思いを客観視する姿勢を体得する。 ・現代思想の流れをたどることを通して、現在を生きる私たちの問題について自分なりの展望をもつ。			
育 て た い 力	意欲・関心・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
	・様々な文章の読解を通して、自分を囲繞する今日的な問題について意見をもてるようになる。 ・良問を解くことを通して、国語を学ぶ楽しさを発見できるようになる。	・現代文中心の記述演習を通して、先人たちが困難な状況の中でどのように展望を拓いてきたのか、体系的に理解する力を身に付ける。	・小論文において、知の体系を踏まえた自分なりの考察を論理的に展開する力を習得する。	・小論文を書くための素地となる知の体系を、現代思想の流れをたどることを通じて理解できるようになる。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・効率よく小論文が書けるようになるための技術習得。 ・計画的な速読指導と関連する読書案内による知の体系の理解。 ・小論文に限らない、様々な表現形式での執筆経験。	・小論文を書くための素地となる知の体系を理解する。 ・現代思想の流れをたどることを通して、現在を生きる私たちの問題について、自分なりの展望をもつ。 ・計画的・段階的な記述指導を通して、読解力と記述力とを身につける。
2 学期		
3 学期		
	・大学入試演習、講義、個別添削。	・各自の受験ニーズに応じた個別対策をすることで、入試突破できる学力を身につける。

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／講義形式／個別指導
教 科 書	なし
副 教 材	教員配布のプリント各種
評 価 の 方 法	平常点 100% (レポート課題、小テスト、授業態度など)
備 考	・受講者のニーズを踏まえ、大学入試への個別対応を行うことがある。 ・上記の授業内容は予定であり、今後の授業展開や受講者の実態に応じて変更されることがある。

高校3年

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
進学ゼミ	2	必修	FT・FTs	山本・都筑

目 標	・小論文を書くための素地となる知の体系を副教材や過去問の要約などをおして体得する（小論文）。 ・身边から世界へという方向で段階的に書かせることで、書く楽しみや自己の思いを客観視する姿勢を体得する（小論文）。 ・現代思想の流れをたどることを通して、現在を生きる私たちの問題について、自分なりの展望をもつ（小論文）。 ・計画的・段階的な記述指導を通して、読解力と記述力とを身につける（国語演習）。			
育 て た い 力	意欲・関心・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
	・様々な文章の読解を通して、自分を囲繞する今日的な問題について意見をもてるようになること。 ・良問を解くことを通して、国語を学ぶ楽しさを発見できること。	・小論文課題や古典中心の記述演習を通して、先人たちが困難な状況の中でどのように展望を拓いてきたのか、体系的に理解する力を身に付ける。	・記述の問い方と答え方について理解し、より洗練された記述解答ができるようになる。 ・小論文において、知の体系を踏まえた自分なりの考察を、論理的に展開する力を習得する。	・小論文を書くための素地となる知の体系を、現代思想の流れをたどることを通じて、理解できるようになる。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	【小論文】 ・効率よく小論文が書けるようになるための技術習得。	【小論文】 ・小論文を書くための素地となる知の体系を理解する。
2 学期	・生徒の受験大学・学部に応じた過去問の演習と添削。 【国語演習】 ・東京大学、京都大学をはじめとする過去問演習。	・現代思想の流れをたどることを通して、現在を生きる私たちの問題について、自分なりの展望をもつ。 【国語演習】 ・計画的・段階的な記述指導を通して、読解力と記述力とを身につける。 ・難関大学の良問を解くことを通して、国語を学ぶ楽しさを発見する。
3 学期	・大学入試演習、講義、個別添削。	・各自の受験ニーズに応じた個別対策をすることで、入試突破できる学力を身につける。

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／講義形式／個別指導
教 科 書	なし
副 教 材	教員配布のプリント各種
評 価 の 方 法	平常点100%(レポート課題、小テスト、授業態度など)
備 考	・本授業では教員二人により、小論文問題への対策と国語の問題演習（二次試験対策）を同時に開講し、生徒が自らのニーズに合わせて受講する講座を選択する。 ・授業進度と生徒の到達度に合わせて個別添削の機会を設け、学力保障の一助とする。 ・上記の授業内容は予定であり、今後の授業展開や学習者の実態に応じて授業内容が変更されることがある。

高校 3 年 （地理歴史科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
地理 B	4	選択必修	FT・FTs	山本

目 標	・2 学期期末考査までに「地誌」分野を学び終え、以降は「大学入学共通テスト（以下、共通テスト）」演習を行う。 ・現代世界の地理的な諸課題を地域性と結び付けて考察することで、地理的な見方や考え方を培い、グローバル化の加速する世界で主体的に生きる力を養う。 ・世界の文化や歴史を地理的に考察することで、「正義と倫理を持った地球市民」の育成を目指す。			
育 っ て たい 力	意欲・関心・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
	・現代世界の諸現象を、地理的因果関係から論理的に考察しようとする。	・地図や世界の動向を表す統計資料などを用いて、世界の諸問題を合理的に判断できる。	・地図や統計資料から、諸現象を客観的に分析できる。 ・自分の考えを地図や統計資料に基づいて表明することができる。	・普遍的な原理・理論を理解し、合理的判断を下すための根拠となる知識を習得する。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	【系統地理分野】 ・村落・都市 ・生活文化、民族・宗教 【地誌分野】 ・地形、気候、産業、文化、社会問題など ・「アジア」（東アジア、東南アジア、南アジア、西アジア） ・「アフリカ」	・集落の形成過程について理解し、地形図から集落の形態を判別できるようになる。 ・民族と宗教について、民族と言語、世界の宗教の分布や特徴、生活との関わりについて考察する。 ・アジア:現代の変わりゆくアジアの姿について歴史的背景をふまえながら学習する。 ・アフリカ:自然環境の確認を中心に行う。 ・ヨーロッパ:主要民族の構成を、気候・宗教の分布から把握する。また、EU 形成の歴史と農業政策に絡めて主要国の工業を学ぶ。 ・ロシアと周辺諸国:社会主義の概要を押さえた上で東ヨーロッパ諸国を俯瞰的に捉え、周辺諸国とロシアの関係を経済的観点から理解する。
2 学期	・「ヨーロッパ」 ・「ロシアと周辺諸国」 ・「アングロアメリカ」 ・「ラテンアメリカ」 ・「オセアニア・太平洋諸島」 【共通テスト演習】 ・共通テスト・センター過去問 ・各予備校発行の共通テスト問題演習	・アングロアメリカ:地形と気候配置から合衆国の農業国的側面を理解する。また、産業の高度化に伴う工業地域の変遷も名称と共に理解する。 ・ラテンアメリカ:アンデス山脈が気候の分布に特徴を与えていることを理解し、同時に植生分布を把握する。ブラジル・メキシコの工業も学ぶ。 ・オセアニア:地域区分を把握したあと、オーストラリアの自然環境を学ぶ。また、オーストラリアとニュージーランドの農牧業の傾向も学ぶ。 ・共通テスト・センターの過去問題などを中心に新テストの演習問題に取り組み、地理の応用力を深め、実践的な力を養う。
3 学期	【共通テスト演習】 ・共通テスト直前対策問題	・各予備校の予想問題を解いて、弱点を把握し、克服する。

授 業 の 形 態	クラス授業/一斉授業/講義形式、タブレットを活用したグループワーク等
教 科 書	『新詳地理 B』 帝国書院、『新詳高等地図 初訂版』 帝国書院
副 教 材	『新詳地理資料 COMPLETE』 帝国書院
評 価 の 方 法	定期考査 90%+平常点 10% 小テスト・タブレットリアクション・ノート・地図地理検定の受験などを平常点に含む予定。 ※ 平常点は、各提出物の内容・提出期日により評価する。
備 考	

高校 3 年 （地理歴史科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
日本史 A	3	必修	AM・GL	八反・荒井

目 標	・近現代史を中心とする日本の歴史を、世界の歴史と関連付けながら理解させ、人類の課題を多角的に考察させることによって、歴史的思考力を培い、「国際人」として必要な自覚と資質を養う。 ・わが国において、人間の権利と自由の尊重を獲得するまでの道のりを理解し、教学理念の「平和と民主主義」について理解を深める。			
育 て たい 力	意欲・関心・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
	・日本の歴史に対する関心と課題意識を高め、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を自覚する。	・日本の歴史から課題を見出し、世界的視野に立って、多面的・多角的に考察し、判断する能力を養う。	・日本の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用し、これを適切に表現する能力を培う。	・日本の歴史についての基本的な事柄を世界の歴史と関連付けながら正しく理解し、その知識を身につける。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・ガイダンス ・前近代概論 ・江戸時代後期の社会と開国の影響 ・尊王攘夷運動と公武合体運動 ・明治新政府の成立 ・士族の反乱と自由民権運動 ・松方財政 ・大日本帝国憲法の発布と立憲政治の展開	・幕府と朝廷の共存体制がはかられていた前近代から「近代」への移行がはかられたことを理解する。 ・欧米諸国が日本に開国を求めた目的と、それに対する日本の対応と締結された条約の内容を理解する。 ・江戸幕府滅亡と明治新政府樹立までの流れをつかみ、日本の目指した中央集権国家について理解する。 ・民権派の運動とそれに対する政府の弾圧について理解する。 ・大日本帝国憲法制定までの経緯と、憲法の内容について理解する。 ・当時の政治家や政党が、何を考え、どう行動したかを理解する。
2 学期	・条約改正へのあゆみ ・日清・日露戦争と韓国併合 ・第一次世界大戦とワシントン体制 ・日本の経済・社会の変容 ・満州事変から日中戦争へ	・日本が半世紀を経て、どのようにして列強諸国と対等の地位を得たのかを理解する。 ・日清・日露という 2 つの対外戦争の契機・経過・その後の影響を当時の世界情勢のもとに理解する。 ・第一次世界大戦における日本および列強諸国の動向を理解する。 ・第一次世界大戦が日本の経済・社会に与えた影響を理解する。 ・日本がなぜ戦争に向かい、多くの犠牲者を生むことになったのかを考える。
3 学期	・戦時体制の強化と第二次世界大戦 ・日本の抱える課題と 21 世紀の展望	- 第二次世界大戦における日本および列強諸国の動向を理解する。 ・日本がどのようにして戦争を終えたのかを理解する。 ・これまでの学びで得た歴史的類推を、いかにして現代の問題解決に応用するかを考える。

授 業 の 形 態	講義形式、協同学習 など
教 科 書	『日本史 A』 山川出版社
副 教 材	
評 価 の 方 法	平常点 100% （レポート課題・パフォーマンス課題・単元テストなど）
備 考	・平常点の内訳は授業担当者が決定するものとする

高校3年（地理歴史科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
日本史 B	4	選択	F T ・ F T s	八反

目 標	- 日本の歴史を、世界の歴史と関連付けながら理解させ、人類の課題を多角的に考察させることによって、歴史的思考力を培い、これからの国際社会を主体的に生きる国家・社会の一員として必要な自覚と資質を養う。 - 共通試験「日本史 B」で8割以上が得点できるよう、確実な歴史的事項の理解とそのための演習を行う。			
育 っ た い 力	意欲・関心・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
	日本の歴史的事象に対する関心と課題意識を高め、国際社会を主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を自覚する。	日本と欧米との歴史から人類の課題を見出し、グローバルな視野に立って、多面的・多角的に考察し、判断する能力を養う。	様々な諸資料から有用な情報を選択、活用し、他者に対して、課題や考察を説明できる能力を培う。	- 日本の歴史と世界の歴史とを関連付けながら正しく理解し、知識を身に付ける。 - 歴史的事実に対する評価に対して、資料に基づき批判的に捉えることができる力を養う。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	室町幕府滅亡～近世 ・戦国時代の社会と文化 ・江戸幕府の成立 ・幕藩体制の動揺 近代・現代 ・近代国家の成立 ・第1次世界大戦と日本 ・ワシントン体制	- 日本史における戦国時代の意義を室町幕府の滅亡から考察する。 - 江戸幕府の成立と鎖国が近代日本に与えた影響を、幕府政治・社会、経済状況および文化的側面から考察していく。 - 近代日本が東アジアにおいて、なぜ最初の近代国家へと成長できたのかを幕末の社会変動を通して考察する。 - 欧米列強がアジアおよび幕末・明治初期の日本に及ぼした影響を考察する。 - 殖産興業、富国強兵政策を軸に日本の近代国家への過程を理解する。 - 第1次世界大戦と日本の関係、ウィーン体制の成立から崩壊にいたる欧米と日本の関係を軸に、自由主義から帝国主義にいたる過程を学び、帝国主義諸国による世界分割を学習する。
2 学期	二つの世界大戦とアジア ・恐慌の時代・軍部の台頭・第2次世界大戦 20世紀後半から21世紀の世界 ・占領と改革・冷戦の開始と講話 ・グローバル化する世界 演習	- 日本が太平洋戦争に突入していく過程を欧米諸国との関係から考察し国内の政治状況がなぜ軍国主義化していくのかを理解する。 - 戦後史は冷戦の構造を高1既習事項とリンクさせながら、グローバル化する世界と日本の関係を軸に理解する。21世紀を生きる上でどのような歴史的課題があるかを検討する。 - センター過去問や共通テスト予想問題に取り組み、日本史 B の学習事項を確実に身につけ、学習事項を自分の言葉で語れるようになる。
3 学期	演習	センター過去問や共通テスト予想問題に取り組み、日本史 B の学習事項を確実に身につけ、学習事項を自分の言葉で語れるようになる。

授 業 の 形 態	一斉講義・演習と解説
教 科 書	『新詳 日本史 B』 山川出版
副 教 材	『新詳 日本史』 浜島書店
評 価 の 方 法	定期考査 90% 平常点 10% 平常点は課題、小テストなど
備 考	予習を前提として授業を行う。

高校3年（公民科）

科 目	単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
政治経済	2	必修	AM・GL	峯松・齋藤

目 標	・経済の基礎知識を身に付けることで世の中の動きを理解し、自分たちの生活と結びつけて論理的に考える力を養う。 ・教材を通じて投資や会社経営などを体験することで、経済やお金に関する事柄を身近に感じ、今後の実生活に生かす。 （この授業では「現代社会」と授業内容の重複を避けるため、経済分野に特化した内容を行なう）			
育 っ た い 力	意欲・関心・態度 ・現代社会の動きに目を向け、新聞記事やニュースの内容について興味、関心を持ち、解決策を考える力を養う。	見方・考え方 ・経済の問題について様々な面から考え、客観的・論理的な判断力をつけ、問題解決能力を養う。	表現・処理 ・株取引や会社経営のシミュレーションを通じて、資料を読みデータを分析する能力を養い、さらにそれを他者へ説明する能力を養う。	知識・理解 ・社会の動きを認識するのに必要な最低限の経済的知識を理解し、批判的意見を述べる事が出来る能力を養う。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・現代経済の仕組みと特質 ・経済社会の発展 ・経済主体と経済活動 ・市場経済の機能と限界 ・経済成長と景気変動 ・物価の動き ・株式	・経済の最も重要な役割は何なのか、資本主義経済の特質と問題点は何なのかを、資本主義経済はどのような変容を経て現在に至っているのかを考える。また、経済の三主体を元に、互いにどのような役を果たしているのかを株式会社の仕組みや株主の権利を学ぶとともに企業の社会的責任を学ぶ。 ・実際に株式学習ゲームを利用し、株取引のシミュレーションを行い、物価の動きや世界情勢を理解し、現在の経済状況の実態を学ぶ。
2 学期	・金融のしくみとはたらき ・財政教育プログラム ・国際経済のしくみ ・国際協調と国際経済機関の役割 ・地域的経済統合	・金融のはたらきと銀行の役割について考え、金融政策は経済にどのような影響を与えているか学ぶ。 ・日本の財政事情を考え、今後の日本について考える。 ・近畿財務局の方と連携し、授業を展開する。 ・日本の経済を学んだうえで、国際的な経済について理解を深める。 また、EUの成り立ちや、グローバル化が進む中で地域的経済統合がどのような過程で作られたのかを理解する。
3 学期	・民主政治の基本原則（地方自治制度） ・政党政治と選挙制度 ・模擬選挙	・身の回りの社会で、政治はどのようなはたらきをしているのか、地方自治の本旨に基づいた政治とはどういうものか、今後の地方自治のあり方と解決すべき課題を見つけ出す。 ・民主政治における政党の役割、日本の選挙制度はどのような特徴を持っているのかを学習する。 ・実際の選挙に合わせて選挙の必要性や若年層の投票率の低さについて考える。また、海外との投票率の違いにも触れ、日本の投票率を上げる方法を考えると同時に、自身の考えに近い政党を調べ模擬選挙を行う。

授 業 の 形 態	クラス授業／講義形式／グループワーク／プレゼンテーション
教 科 書	『高等学校 改訂版 政治・経済』第一学習社
副 教 材	『株式学習ゲーム』証券知識普及プロジェクト
評 価 の 方 法	・平常点 100% 単元テスト・小テスト・レポート・発表
備 考	・平常点の内訳は授業担当者が決定するものとする。 ・経済的分野にとどまらず、幅広い時事問題を扱うこともある。

高校 3 年 （学校設定）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
国際協力	2	必修	AM・GL	伊瀬・大橋・華山・田辺

目 標	・貧困、教育、環境、ジェンダー平等、インクルーシブ社会など、地球規模の諸問題に対する現状はもちろんのこと、社会的背景や歴史的経緯を理解する。 ・これらの諸課題を通して、本校の教学理念の「平和と民主主義」を自覚し、諸課題の解決に向けた公正な判断力を育成する。 ・2030 年までに SDGs を達成するため、社会の中で自分たちにできることを考え、その学びをグローバル AP や文社探究Ⅱでの成果につなげる。			
育 て たい 力	意欲・関心・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
	・教学理念「平和と民主主義」を自覚し、それを具現化しようとする姿勢を身につけることができる。 ・世界の諸課題を他人事として捉えるのではなく、身近な問題（自分事）として捉え、解決に向けて尽力しようとする姿勢を身につけることができる。	・世界の諸課題を SDGs と関連させ、持続可能な社会のあり方を考えることができる。 ・ワークショップを通じた協働的な学びの中で、自分の価値観に固執することなく、異なる考え方を持つ人と共生する道を探ることができる。	・ワークショップを通じて、世界の諸課題の原因・経過について説明することができる。 ・「平和と民主主義」が達成される社会とはどのような社会か、自分の言葉で具体的に述べるることができる。 ・自らの学びをメタ認知することができる。	・世界の諸課題に対する社会的背景や歴史的経緯を説明することができる。 ・世界の諸課題の現状と課題について説明することができる。 ・世界の諸課題に関するキーワードを説明することができる。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・① 社会運動はどうやって起こすか ・② 「平等」って何？ ・③ 2030SDGs ・④ 新・貿易ゲーム ・⑤ めだまっち ・⑥ ザ・トゥルー・コスト ・⑦ ひょうたん島 ・⑧ 日本語を教えよう ・⑨ パーム油のはなし ・⑩ ボパティ・インク	*ワークショップという手法は、その活動を通じてねらいや目標を体得することに意義がある。よって、ここでは各学習項目における個別の目標を明示することは避けることとする。 また、左にあげた学習内容・項目は時流の社会課題に合わせて積極的に変更・入れ替えをする可能性がある。 ・ワークショップ（映画視聴を含む）を通じて、世界規模の諸問題に直面する人たちの現状を疑似体験すると共に、その改善策・解決策を考える。 ・世界が抱える諸課題の現状（貧困・医療・教育・格差・児童労働など）について理解する。 ・SDGs とは何かを理解し、持続可能な社会を様々な視点から考える。 ・リフレクションで考えたことをレポート形式で文章化し、学びをメタ認知する。 ・この授業での学びを自分たちの探究プロジェクト（グローバル AP・文社探究Ⅱ）と結びつけ、より実現性の高いものにブラッシュアップしていく。
2 学期	・⑪ バルンバ星人 ・⑫ わたしのおもちや ・⑬ インクルーシブ社会 ・⑭ ボッチャ ・⑮ スマホの真実 ・⑯ 紛争と性暴力 ・⑰ 民主主義社会における政治参画 ・⑱ 企業へ訴えよう	
3 学期	・⑲⑳ リフレクション	

授 業 の 形 態	クラス授業 / ワークショップ・動画視聴など
教 科 書	なし
副 教 材	なし
評 価 の 方 法	平常点 100% （課題レポート・発表など）
備 考	・授業へ出席しなければ、毎回の課題レポートを作成することはできない。よって、課題レポートには出席点も含まれる（欠席時の代替措置あり）。 ・学びを「国際協力」の中にとどめるのではなく、常に各自の研究課題との関連性に着目し、ブラッシュアップさせていくこと。

高校3年（学校設定科目）

科 目	単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
文社選択Ⅰ（世界遺産）	2	選択	AM	立花

目 標	- 世界遺産の概念、各遺産の地理的状況・歴史的背景・存在価値を理解する。 - 世界遺産を通じて、現代社会の諸課題を理解し、その改善方法や解決策を考えるとともに、持続可能な社会のあり方を追究する。 - 世界遺産検定3級合格程度の基本的知識を習得する。			
育 て たい 力	意欲・関心・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
	世界の異なる文化を知り、「違い」を理解することで、地球市民としての自覚をもち、社会貢献へと役立たせる力を養う。	世界遺産を過去の遺物としてみるのではなく、そこから現代社会における人類の普遍的な課題を見出し、解決する能力を養う。	世界遺産についての諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用し、これを適切に表現する能力を培う。	世界遺産に含まれる歴史学、地理学、考古学、美術・建築学、観光学、環境学、人類学などのさまざまな学問要素を横断的に捕え、その知識を身につける。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	「世界遺産」とは何か “古きもの”との共存 ピラミッド地帯（エジプト） “自然”との共存 ラパ・ヌイ国立公園（チリ）	- 世界遺産条約の理念や歴史的背景、世界遺産の概念、世界遺産の現状などについて理解する。 - 様々な地域で「開発」が進む中、人類は“古きもの”や“自然”とどのように共存すべきかについて考える。 - これらの世界遺産を通じ、各国が抱える現代の諸課題を理解するとともに、その問題解決の方法を考える。
2 学期	“異文化”との共存 アウシュヴィッツ強制収容所（ポーランド） “未来”との共存 クレムリンと赤の広場（ロシア） - 私が世界に発信したい日本の世界遺産 - 私がプレゼンする世界遺産スタディツアー	- グローバル化が進む中、人類は異なる文化を持つ人々とどのように共存すべきかについて考える。 - スタディツアーを計画し、発表することで自らが世界遺産を学ぶ中で何をしたいか考える - 日本が誇る世界遺産を通じ、国際社会における日本の役割を考える。 - 経済発展が進む中、人類はその欲望をどうコントロールしていくべきかについて考える。 - これらの世界遺産を通じ、各国が抱える現代の課題を理解するとともに、その問題解決の方法を考える。
3 学期	まとめ	「世界遺産を守る意義」を自分の言葉で語れるようにする

授 業 の 形 態	一斉講義、協同学習
教 科 書	なし
副 教 材	『きはんを学ぶ 世界遺産100 世界遺産検定3級公式テキスト』世界遺産アカデミー
評 価 の 方 法	課題点100%（小テスト（複数回）・レポート課題・スライドを用いた発表・ロイロノートで作成した資料・外部講師の講演会での参加姿勢など）
備 考	- グループワークによるプレゼンテーションを積極的に行う。 - 定期テストを実施しないため、日常の取り組みが評価のすべてとなる。主体的に取り組める姿勢が、最も重要である。

高校3年（学校設定）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
文社選択Ⅰ (法学フロンティア)	2	選択	AM	八反

目 標	・法的思考について学び、私たちの生活と法律、裁判の結びつきについて学ぶ。 ・教学理念の「平和と民主主義」に基づき、幅広い知識と理解力に基づいた健全な判断力をもつ生徒を育成する。 ・現代の法学が現代の課題に対して、どのような役割をはたそうとしているかについて、法分野の動向を通して学ぶ。 ・現代社会に対する問題意識を滋養する。			
育 て た い 力	意欲・関心・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
	・民主的・平和的なより良い社会の実現に向けて参加、協力する態度を身につける。 ・毎日の出来事に関心を持つ。 ・刑事裁判、民事裁判、国家賠償裁判などに対する関心を持つ姿勢を身につける。	・法律的課題を身近な問題として捉え、考察し解決の糸口を見出せるようにする。 ・現代の諸課題に対して広い視野に立って多面的・多角的に考察し、法学的に捉え公正に判断する。	・法的課題に関わる事項を様々なメディアを通して集め、その中から有益な情報を自主的に選択し活用する力を身につける。	・法学部での学びの基礎となるキーワード、基礎的知識を理解し身につける。 ・論理的思考力を身につける

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1学期	・裁判員制度について ・法律と政治 ・日本国憲法制定過程と基礎理念 ・身近にある法的問題 ・基本的人権について	・裁判員制度について学び、その意義について考察を深める。 ・民主主義や政治体制と法律のかかわりについて学ぶ。 ・日本国憲法3原則の意義を理解し、日本国憲法に対する基礎的な知識を身につける。 ・私たちの生活と法律がどのように関連しているのかを学ぶ。 ・大学から提示されたテーマに関する資料を分析し、論理的に述べる力を養う。
2学期	・法学的思考について ・刑法における論述の基礎 ・模擬裁判	・具体的な裁判の事例をもとに、法学的思考のあり方をまなぶ。 ・刑法の考え方を、裁判事例をもとに学ぶ。 ・社会的正義の実現と刑法がどのように関連しているかを学ぶ。
3学期	・模擬裁判	・テーマに関する基本資料を冬季休暇中に読み解く。 ・他者のプレゼンに対して、批判的に捉え、論理的に質疑応答できる力を身につける。 ・模擬裁判を通して、他者を納得させる法学的論理思考力を身につける。

授 業 の 方 法	講義形式 グループワーク
教 科 書	教科書はない。レジュメを配布する。政治経済・現代社会の資料集を用意すること。
副 教 材	デイリー六法をできれば購入すること。家にあるものなどを利用してよい。
評 価 の 方 法	平常点100%（振り返りレポート、単元テスト、弁論・論告、模擬裁判などで評価する）
備 考	・1学期（2学期）は本校において4回の大学教授による講座を行う予定。

高校 3 年 （地歴・公民科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
特別講座 1（地歴・公民演習）	2	必修	FT	荒井

目 標	・高 1・2 地歴（日本史・世界史）・公民（現代社会）の既習内容を踏まえて、模試をペースメーカーに単位ごとの総合演習を繰り返す。平成 21 年告示高等学校学習指導要領において育成することを目指す資質・能力を踏まえ、知識の理解の質を問う問題「大学入試共通テスト」の「世界史」「倫理政経」科目受験に対応する学力を養成することを目標とする。			
育 て たい 力	意欲・関心・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
	「主體的・対話的で深い学び」社会生活や日常生活の中から課題を発見し、解決方法を構想することや資料やデータ等を基に考察することを重視する。	・歴史、政治、経済的課題を身近な問題として捉え、考察し解決の糸口を見出し、広い視野に立つて多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断する力を養う。	・諸課題に関わる事項に関する様々な資料、ICT を駆使し、その中から有益な情報を自主的に選択、活用する力を身につける。	・世界についての基本的な事柄あるいは政治・経済の基本事項を正しく理解し、その知識を身につける。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標	
1 学期	・世界史 ・日本史 ・公民：倫理分野・政治分野	世界史・日本史 ・歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、歴史的事象の意味や意義、特色や相互の関連等について、総合的に考察する力を養成する。	公民 ・人間としての在り方生き方に関わる倫理的諸課題について多面的・多角的に考察する過程を重視する。文章や資料を読み解きながら、先哲の基本的な考え方を手掛かりとして考察する力を養成する。
2 学期	・世界史 ・日本史 ・公民分野・経済分野	・新テストの、事象に関する深い理解に基づいて、例えば、教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題や、仮説を立て、資料に基づいて根拠を示したり、検証したりする問題や、歴史の展開を考察したり、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などに対応する学力を養成する。	・新テストの、倫理的諸課題について、倫理的な見方や考え方を働かせて、思考したり、批判的に吟味したりする問題や、原典資料等、多様な資料を手掛かりとして様々な立場から考察する問題。現代における政治、経済、国際関係等について多面的・多角的に考察する過程を重視する。現代における政治、経済、国際関係等の客観的な理解を基礎として、文章や資料を的確に読み解きながら、政治や経済の基本的な概念や理論等を活用して考察する力を求める。また、各種統計など、多様な資料を用いて、様々な立場から考察する問題などに対応する学力を養成する。

授 業 の 形 態	大学受験へ向けての総合社会演習
教 科 書	1 年 2 年時から使用しているもの
副 教 材	〃
評 価 の 方 法	平常点 100% 定期考査は実施しない。
備 考	

高校3年 (数学科)

科 目	単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
数学Ⅲ	5	必修	AMs・GLs	大井・館野

目 標	・複素数平面、平面上の曲線、関数、極限、微分法及び積分法についての理解を深める。 ・知識の習得と技能の成熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を身につける。			
育 っ た い 力	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
	・複素数平面、平面上の曲線、関数、極限、微分法及び積分法に関心を持つ。 ・事象の考察に積極的に活用し、数学的論拠に基づいて判断できる。	・事象を数学的に考察することなどを通して、複素数平面、平面上の曲線、関数、極限、微分法及び積分法における数学的な見方や考え方を身につける。	・複素数平面、平面上の曲線、関数、極限、微分法及び積分法において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につける。	・複素数平面、平面上の曲線、関数、極限、微分法及び積分法における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身につける。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	第1章 複素数平面 (複素数平面/複素数の極形式/ド・モアブルの定理/複素数と図形)	・複素数平面と複素数の極形式、実数倍、和、差、積、商の図形的な意味を理解し、ド・モアブルの定理を扱うことができる。 ・複素数平面について理解し、事象の考察に活用できるようにする。
	第2章 式と曲線 (放物線/楕円/双曲線/2次曲線の平行移動/2次曲線と直線/2次曲線の性質/曲線の媒介変数表示/極座標と極方程式)	・平面上の曲線がいろいろな式で表されることについて理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。
	第3章 関数 (分数関数/無理関数/逆関数と合成関数)	・分数関数、無理関数、逆関数、合成関数それぞれの関数の概念、グラフの概形またその位置関係を理解できるようにする。
	第4章 極限 (数列の極限/関数の極限/三角関数と極限/関数の連続性)	・数列の極限の概念を理解し、それらを事象の考察に活用できる。 ・関数値の極限の概念を理解し、それらを事象の考察に活用できる。
2 学期	第5章 微分法 (微分係数と導関数/導関数の計算/いろいろな関数の導関数/第n次導関数/曲線の方程式と導関数)	・微分法についての理解を深めるとともに、その有用性を認識し、事象の考察に活用できるようにする。
	第6章 微分法的应用 (接線の方程式/平均値の定理/関数の値の変化/関数のグラフ/方程式・不等式への応用/速度と加速度/近似式)	・様々な関数についての導関数を導くことができるようになるとともに、それを用いてグラフの接線や概形を求められるようにする。
	第7章 積分法とその応用 (不定積分とその基本性質/置換積分法と部分積分法/いろいろな関数の不定積分/定積分とその基本性質/置換積分法と部分積分法/定積分のいろいろな問題)	・積分法についての理解を深めるとともに、その有用性を認識し、事象の考察に活用できる。 ・いろいろな関数についての積分を工夫して求められるようになるとともに、置換積分法や部分積分法などの活用もできるようにする。
3 学期	第7章 積分法とその応用 (面積/体積/道のり/曲線の長さ/微分方程式)	・いろいろな曲線で囲まれた図形の面積や立体の体積及び曲線の長さを、定積分を利用して求めることができる。 ・微分方程式の基本的な解法を理解し、大学での学びにつなげることができる。

授 業 の 形 態	クラス授業/一斉授業/講義形式/個別学習
教 科 書	『改訂版 高等学校 数学Ⅲ』数研出版
副 教 材	『改訂版 4プロセス 数学Ⅲ』数研出版 『AI教材 atama+』
評 価 の 方 法	定期考査60%＋平常点40%（立守数検、小テスト、atama+、課題など）
備 考	・立守数検を活用し、毎学期の振り返りを行う ・AI教材を活用し、学習内容の習熟を図る ・平日の放課後に補習を実施し、学習内容の定着を図る ・理系学部に進学する生徒には、プレイメントテストに向けての授業を大学前教育として実施する(2月)

高校3年 (数学科)

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
数学Ⅲ α	4	必修	FTs	中川

目 標	・微分法・積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を身につける。 ・数学Ⅲ分野の大学入試個別学力試験に対応できる計算力・思考力・論理力を習得する。			
育 っ て たい 力	関心・意欲・態度	数学的な見方・考え方	数学的な技能	知識・理解
	・微積分の考えを既習の内容と関連付ける、物理などに活用する。 ・自分の進路実現のために発展的な問題に取り組む。	・「拡大する・細かく分けてたしあわせる」という微積分の考え方ができる。 ・1つの問題を様々な観点から考えようとする。	・微積分の意味をふまえ、計算を処理することができる。 ・問題を正確に処理し、多様な方法で解決できる。	・微積分の意味や計算が、既知の知識と関連付けて理解できる。 ・応用問題を解決するとき、既知の知識と関連付けて問題の意味や計算方法が理解できる。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	オリジ・スタン数学演習Ⅲ I. 複素数平面 II. 式と曲線 III. 関数 IV. 極限 V. 微分法とその応用 VI. 積分法 VII. 積分法の実用 ＊印の問題	・受験編問題集を用いて、入試問題の良問に数多く触れる。 ・教科書傍用問題集では十分に扱われなかった内容で、数学的に重要な事項を理解する機会とする。(確率漸化式の極限や直線周りの回転体の体積など) ・毎回の添削を通して、論述の力を身につける。 ・毎回の添削を通して、間違いやすいポイントを自覚する。 ・公式の導出や解き方など暗記しなければならない項目と、思考力によって解決しなければならない項目を分類できるようになり、粘り強く取り組む姿勢を身に付ける。
2 学期	オリジ・スタン数学演習Ⅲ I. 複素数平面 II. 式と曲線 III. 関数 IV. 極限 V. 微分法とその応用 VI. 積分法 VII. 積分法の実用 ＊印以外の問題 12 月以降は共通テスト演習	・無理のない答案作成の方法を学び(模範解答の発想は無理がある)、自由に解答できるようになる。 ・また、必要に応じて別解を学び、様々な数学分野を複合的に用いることができることを学ぶ。 ・本番と同様に模範解答がない問題を長時間(1 問 30 分程度)考える力を養い、毎日入試問題を解く習慣を身につける。 ・1 学期までに数学受験編は一通り完成し、2 学期以降に志望校の過去問に取り組むための素地を作る。 ・また、数学以外の科目(特に理科)の受験勉強も同時に進めることに配慮し、2 学期以降は数学に余裕をもって取り組めるようにする。 ・受験問題集を仕上げることで、2 次試験に対する自信を身につける。
3 学期		

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／講義形式／添削
教 科 書	なし
副 教 材	『四訂版 オリジ・スタン数学演習Ⅲ』数研出版
評 価 の 方 法	定期考査 60%＋平常点 40% (提出物など)
備 考	・学期成績は 数学Ⅲα：数学Ⅲβ＝4：3 の割合で、数学Ⅲの成績として算出する。 ・夏期休暇中・3 学期に演習のための特別授業を行う。

高校3年（数学科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
数学Ⅲβ	3	必修	FTs	中川

目 標	・難関国公立大学、私立大学の2次試験突破に向けた力を身につける。			
育 て た い 力	意欲・関心・態度	数学的な見方・考え方	数学的な技能	知識・理解
	・進路実現のために発展的な問題に取り組む。	・1つの問題を様々な観点から考え、複数の解法を発見する。	・諸問題に対して、それぞれの項目の意味をふまえて数式化し、計算で処理することができる。	・応用問題を解決するとき、既知の知識と関連付けて問題の意味や計算方法が理解できる。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	数学ⅠⅡABの入試問題基礎演習	- 教科書レベルと入試基本レベルのギャップを埋めるための基本的な問題解決方法を扱う。 - 図形問題を中心とした複数分野を関連付けた問題の基本的解法のアプローチを習得する。
2 学期	数学ⅠⅡABの入試問題演習	- 標準から発展レベルの入試問題を解くことによって、総合力を養う。 - 別解も数多く取り上げ、多面的な理解を促す。 - 大学入試問題を通じて数学における公式、諸性質が暗記的理解ではなく、論理的・図的理解ができるようにする。
3 学期		

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／講義形式
教 科 書	なし
副 教 材	『スタンダード数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B 受験編』数研出版
評 価 の 方 法	定期考査 60%＋平常点 40%（提出物・授業内テストなど）
備 考	- FT・FTs 合同の授業実施 - 学期成績は 数学Ⅲα：数学Ⅲβ＝4：3 の割合で、数学Ⅲの成績として算出する。 - 夏期・3 学期に演習のための特別授業を行う。

高校 3年 (数学科)

科 目	単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
文系数学	2	必修	AM・GL	東前

目 標	・数学的な考え方や論理的な思考力を養い、大学の文系学部で学ぶ内容と理系の内容を融合させて思考ができる素養を身につける。 ・理学・工学・医学・社会学・人文学の垣根を越えて汎用性のある学問である統計学の基本を学び、様々な分野に応用できる素養を身につける。 ・実験計画、データの要約や解釈を行う上での根拠について、数値上の性質や規則性を見つけ出す。			
育 っ たい 力	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
	・確率分布と統計的な推測に関心をもつとともに、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断できる。	・事象を数学的に考察し表現することなどを通して、確率分布と統計的な推測における数学的な見方や考え方ができる。	・確率分布と統計的な推測において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につける。	・確率分布と統計的な推測における基本的な概念、原則・法則などを体系的に理解し、知識を身につける。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・[数学Ⅰ]第4章 データの分析 (データの整理/データの代表値/データの散らばり四分位数/分散と標準偏差/データの相関)	・高校1年次に学習したデータ分析の復習を通して、統計分野への導入を行う。 ・統計の基本的な考えを理解するとともに、それらを用いてデータを整理・分析し、データ全体の傾向や特徴を把握できるようにする。
	・[数学B]第4章 確率分布と統計的な推測 第1節 確率分布 (確率変数と確率分布/確率変数の期待値と分散/確率変数の和と積)	・離散型確率変数について、期待値、分散、標準偏差を求めることができる。 ・連続型確率変数について理解し、手法として積分を用いて確率を求めることができることを理解する。
2 学期	・[数学B]第4章 確率分布と統計的な推測 第1節 確率分布 (二項分布、正規分布)	・正規分布について理解し、運用することによって様々な事象を分析できるようにする。 ・二項分布について理解し、運用することによって様々な事象を分析できるようにする。
	・[数学B] 第2節 統計的な推測 (母集団と標本/標本平均の分布/推定)	・母集団と標本の関係について理解し、根拠を持って推測できるようにする。 ・有効なデータの集め方について考察し、企業等でどのように活用されているのかを理解する。
3 学期	数学・統計学のまとめ (復習)	・統計学の内容を総復習し、統計的な推測を利用する利点を体験的に学ぶ。 ・演習プリントにて、復習を行う。 ・副教材を利用して、数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bの定着を図る。

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／講義形式
教 科 書	『改訂版 高等学校 数学Ⅰ』数研出版、『改訂版 高等学校 数学B』数研出版
副 教 材	自主作成の演習プリントNO.01～NO.16 『アーチⅠAⅡB基礎』数研出版
評 価 の 方 法	1 学期 定期考査50% (期末考査のみ) + 平常点50% (小テスト、課題など) 2, 3 学期: 定期考査60% + 平常点40% (立守数検、小テスト、課題など)
備 考	・自主作成の演習プリントを利用し、問題演習の補足する。 ・長期休暇の課題として、副教材『アーチⅠⅡA B』を利用して、数学の基礎を固める。

高校3年（数学科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
数学演習 α	2	必修	FT	古山

目 標	「大学入学共通テスト」対策の問題演習を通して、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの学習内容における基礎・標準的な問題を解けるようにする。			
育 て た い 力	関心・意欲・態度	数学的な見方・考え方	数学的な技能	知識・理解
	数学における考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などを身につけている。	基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身につけている。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	「2022 共通テスト対策【実力養成】重要問題演習 数学」 「大学入学共通テスト」に出題されると予想されるタイプの問題を、分野別に基礎から応用まで体系的に復習することにより、「大学入学共通テスト」に対応できる学力を養成する。	「大学入学共通テスト」対策の問題演習を通して、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの学習内容における基礎・標準的な問題を解けるようにする。
2 学期	「2023 共通テスト対策【実力完成】直前問題演習 数学ⅠA」ラーンズ 「2023 共通テスト対策【実力完成】直前問題演習 数学ⅡB」ラーンズ 1回60分の「大学入学共通テスト」予想問題テキストを用いて、演習とポイント解説を繰り返し、「大学入学共通テスト」本番で高得点を取れるようにする。	

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／講義形式
教 科 書	なし
副 教 材	『2023 共通テスト対策【実力養成】重要問題演習 数学』ラーンズ 『2023 共通テスト対策【実力完成】直前問題演習 数学ⅠA』ラーンズ 『2023 共通テスト対策【実力完成】直前問題演習 数学ⅡB』ラーンズ
評 価 の 方 法	定期考査 60%＋平常点 40%（提出物、小テスト、など）
備 考	・学期成績は 数学演習 α：数学演習 β＝2：3 の割合で、数学演習の成績として算出する。

高校3年 (数学科)

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
数学演習 β	3	必修	FT	中川

目 標	・難関国公立大学、私立大学の2次試験突破に向けた力を身につける。			
育 て た い 力	意欲・関心・態度	数学的な見方・考え方	数学的な技能	知識・理解
	・進路実現のために発展的な問題に取り組む。	・1つの問題を様々な観点から考え、複数の解法を発見する。	・諸問題に対して、それぞれの項目の意味をふまえて数式化し、計算で処理することができる。	・応用問題を解決するとき、既知の知識と関連付けて問題の意味や計算方法が理解できる。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	数学ⅠⅡABの入試問題基礎演習	- 教科書レベルと入試基本レベルのギャップを埋めるための基本的な問題解決方法を扱う。 - 図形問題を中心とした複数分野を関連付けた問題の基本的解法のアプローチを習得する。
2 学期	数学ⅠⅡABの入試問題演習	- 標準から発展レベルの入試問題を解くことによって、総合力を養う。 - 別解も数多く取り上げ、多面的な理解を促す。 - 大学入試問題を通じて数学における公式、諸性質が暗記的理解ではなく、論理的理解、図的理解ができるようにする。
3 学期		

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／講義形式
教 科 書	なし
副 教 材	『スタンダード数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B 受験編』数研出版
評 価 の 方 法	定期考査 60%＋平常点 40%（提出物・授業内テストなど）
備 考	- FT・FTs 合同の授業実施 - 学期成績は 数学演習 α：数学演習 β = 2：3 の割合で、数学演習の成績として算出する。 - 夏期・3 学期に演習のための特別授業を行う。

高校3年（理科）

科 目	単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
物理	4	必修	AMs・GLs	水野・齋藤

目 標	・身の回りの自然現象等への興味・関心を高め、自然科学・技術を正しく活用しようという態度や倫理観を育む。 ・学習内容と実験・観察データを統合・判断して、論理的・科学的に他人に理解できるようにわかりやすく表現できる力をつける。 ・実験・観察、探究活動を通して、科学的に探究する方法と能力を身につける。 ・自然科学の基礎・基本となる知識・概念の理解を深め、科学的な自然観の育成を図る。			
育 て た い 力	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	・身の回りの自然現象等への興味関心を高め、科学的に探究しようする態度を身につける。	・学習内容と実験結果から正しく現象を考察し、表現できる力を養う。	・実験・観察、探究活動を通して、習得した科学的に探究する力を高める。	・物理の知識・概念を正しく理解し、科学的な自然観を育む。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	力と運動 ・平面内の運動 ・放物運動 ・剛体 ・運動量の保存 ・円運動	・平面上の運動を扱い、力のモーメントと剛体のつりあいを理解する。 ・運動量保存則について理解を深め、実際の現象に適用する。 ・等速円運動の加速度やはたらく力について理解する。
	・単振動 ・万有引力 熱と気体 ・気体の法則 ・気体分子の運動 ・気体の状態変化	・単振動、万有引力による運動など、いろいろな運動について学ぶ。 ・熱を微視的な分子の運動と巨視的なエネルギーの観点から理解する。 ・気体の法則を学び、気体分子運動論により、微視的な考え方を学ぶ。
2 学期	電場 ・静電気力 ・電場と電位 電流 ・コンデンサー ・オームの法則 ・直流回路 ・半導体	・電気の基本から、電場、電位について理解を深める。 ・電流を電子の運動から説明し、オームの法則についての理解を深める。電気回路における電圧や電流について学び、キルヒホッフの法則を種々の回路について適用できるようにする。
	電流と磁場 ・磁場 ・電流のつくる磁場 ・電流が磁場から受ける力 ・ローレンツ力 電磁誘導と電磁波 ・電磁誘導の法則 ・交流 ・自己誘導と相互誘導 ・交流回路 ・電磁波 波 ・正弦波 ・音の性質 ドップラー効果 ・光の性質 ・レンズ ・薄膜の干渉	・電流と磁場、ローレンツ力について、実験・観察を通じ理解を深める。 ・電磁誘導の原理を学び、現象を定量的に扱うことを学ぶ。 ・交流回路や電磁波の諸現象について学ぶ。 ・単振動の式を紹介し正弦波の式を導き、式での取り扱いをできるようになることを目標とする。 ・音波の波としての性質について理解を深める。 ・ドップラー効果の現象を理解する。光を幾何学的に取り扱う。
3 学期	電子と光 ・電子 ・光の粒子性 ・X線 ・粒子の波動性 原子と原子核 ・原子の構造とエネルギー準位 ・原子核 ・放射線 ・核反応と核エネルギー ・素粒子	・現代の物理学への導入として、粒子と波動の2重性について、光、電子、X線などを題材に学び、理解を深める。 ・原子の構造を前期量子論により扱い、量子力学の一端に触れる。 ・原子核と核エネルギーについて、理解を深める。素粒子についても触れ、物理学がもつ世界観について学ぶ。

授 業 の 形 態	講義・実験など
教 科 書	『物理』啓林館
副 教 材	『セミナー 物理基礎＋物理』第一学習社、atama+（デジタル教材）
評 価 の 方 法	定期考査 80％＋平常点 20％（課題・小テスト・レポート）
備 考	

高校 3 年 （理科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
化学	2	必修	AM s	藤田

目 標	・身の回りの自然現象等への興味・関心を高め、自然科学・技術を正しく活用しようという態度や倫理観を育む。 ・学習内容と実験・観察データを統合・判断して、論理的・科学的に、かつ他人に理解できるようにわかりやすく表現できる力をつける。 ・実験・観察、探究活動を通して、科学的に探究する方法と能力を身につける。 ・自然科学の基礎・基本となる知識・概念の理解を深め、科学的な自然観の育成を図る。			
	意欲・関心・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
育てたい力	・実生活と科学との関わりへの興味関心を高め、科学的に探究しようする態度を身につける。	・学習内容と実験結果から理科学的な見方考え方を使って、科学的に考察する力を身につけます。	・実験・観察、探究活動を通して、それらの過程を記録、整理し、科学的な方法で処理し、図や表を用いて論理的に表現する方法を身につけます。	・化学の基礎・基本となる知識・概念を正しく理解する。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	高分子化合物 ・合成高分子化合物 ・高分子化合物と人間生活 物質の状態 ・化学結合と結晶 ・物質の三態と熱運動 ・気体の性質、溶液の性質	・高分子化合物の特徴を理解するとともに、生命現象や食品、繊維、樹脂、薬品など身近な高分子化合物と関連付けて考察できるようにする。 ・気体、液体、固体の性質を観察、実験を通して探究し、物質の状態変化、状態間の平衡、溶解平衡及び溶液の性質について理解するとともに、それらを日常生活と関連付けて考察できるようにする。
2 学期	物質の変化と平衡 ・物質とエネルギー ・化学反応の速さ ・化学平衡 ・電離平衡	・化学反応における熱及び光の発生や吸収は、反応の前後における物質のもつ化学エネルギーの差から生じることを理解する。 ・観察、実験などを通して、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できる。 ・化学反応に伴うエネルギーの出入り、反応速度及び化学平衡を観察、実験などを通して探究し、化学反応に関する概念や法則を理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようにする。
3 学期	無機物質 ・非金属元素 ・金属元素（典型・遷移）	・典型元素の単体と化合物の性質や反応を周期表と関連付けて理解する。 - その特長を生かして人間生活の中で利用されていることを理解するとともに、日常生活や社会と関連付けて考察できる。 ・金属元素の系統分離も行い、「定性分析」について理解を深める。

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／講義・実験
教 科 書	『改訂 高等学校 化学』第一学習社
副 教 材	『2021 セミナー化学』第一学習社 Atama+（デジタル教材）
評 価 の 方 法	定期考査 70%＋平常点 30%（実験レポート、ノート、問題演習、小テスト、など）
備 考	・定期考査 3 年 5 回する。基礎基本の習得を確認する為に小テストを実施する。 ・実験観察を重視し、自ら実験結果・考察をまとめる力を育成する為に実験レポートを課する。 ・科学館・企業・大学などへの見学や自由研究などを勧めます。

高校3年（理科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
生物	2	必修	AMs・GLs	八木

目 標	・身の回りの自然現象等への興味・関心を高め、自然科学・技術を正しく活用しようという態度や倫理観を育む。 ・学習内容と実験・観察データを統合・判断して、自らの考えを論理的・科学的に表現できる力をつける。 ・実験・観察を通して、科学的に探究する方法と能力を身につける。 ・自然科学の基礎・基本となる知識・概念の理解を深め、科学的な自然観の育成を図る。			
育 て た い 力	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	・身の回りの自然現象等への興味関心を高め、科学的に探究しようする態度を身につける。	・学習内容と実験結果から正しく現象を考察し、表現できる力を養う。	・実験・観察、探究活動を通して、いっそう科学的に探究する力を育む。	・生物の知識・概念を正しく理解し、科学的な自然観を育む。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	生殖と発生 ・生殖と発生	・減数分裂による遺伝子の分配と受精により多様な遺伝的な組み合わせが生じること、遺伝子の連鎖と組換えについて理解する。 ・動物における配偶子形成と受精の過程、卵割から器官分化の始まりまでの過程、細胞の分化と形態形成の仕組みを理解する。 ・植物における配偶子形成と受精及び胚発生の過程、被子植物の器官の分化の過程の概要を理解する。
2 学期	生物の環境応答 ・動物の反応と行動 ・植物の環境応答 生物と環境 ・個体群と生物群集	・動物における、刺激の受容から反応するまでの仕組み、動物個体の行動について理解する。 ・植物が環境変化に反応する仕組みを理解する。 ・個体群とその変動、生物群集とその成り立ちについて理解する。 ・生態系における物質生産とエネルギー効率、生態系における生物多様性に影響を与える要因を理解し、生物多様性の重要性を認識する。
3 学期	生物の進化と系統 ・生物の起源と進化 ・生物の系統	・生命の起源と生物進化の道筋、進化の仕組みを理解する。 ・生物はその系統に基づいて分類できることを理解する。

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／講義・実験
教 科 書	『改訂版 生物』 数研出版
副 教 材	『ニューステージ 新生物図録』数研出版、『リードlight ノート 生物』数研出版 『atama+』デジタル教材
評 価 の 方 法	定期考査 40%＋平常点 60%（実験レポート、ノート、授業態度等）
備 考	定期考査は中間考査を実施せず、それに代わって実験レポート等を評価対象とする。

高校3年（学校設定）

科 目	単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
特別講座2 (物理基礎演習)	2	選択	FT	齋藤

目 標	・大学入学共通テストにあたり、演習を重ねることによって、より実践的で確かな学力を養う。 ・大学入学共通テストにおいて80%の得点率を目指す。			
育 て た い 力	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	・自己の進路実現のために発展的なテーマに意欲的に取り組む	・現象を的確に判断し、それに対して、多様なアプローチで解決使用と試みる	・解答を論理的な筋立てをしながら、的確に書き上げることができる	・発展的な問題を解決するにあたって、既知の知識と関連付けて問題の解決法を発見することができる

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・問題集及び模試の過去問による問題演習 既習内容の復習を網羅的に行い、各自の苦手分野の把握に努め、基礎的内容の習得を目指す。 ・物理基礎実験 教科書記載の基礎実験を中心に実施する。 ・実践問題集演習 共通テスト本番を見据えた形式での問題演習を、予備校出版の実践問題集を活用して実施する。	・物理の諸現象を問題演習の形で捉えることにより、その論理性、客観性を十分に再認識する。
2 学期		・大学入学共通テストの傾向に応じて、経験する、実測することを重視し、2年の物理基礎学習時に未実施だった生徒実験を行う。それによって数値の扱い、考察の経験を積ませる。
3 学期		・総合問題を多く取り入れ、単元ごとに学習した内容を有機的に結びつけることにより物理のコンセプトに対する理解を深めるとともに、その発展性について知る。

授 業 の 形 態	選択授業／一斉授業／講義形式／生徒実験
教 科 書	『物理基礎』啓林館
副 教 材	『セミナー 物理基礎・物理』第一学習社、プリント教材
評 価 の 方 法	定期考査 80%＋平常点（課題・小テスト・レポート） 20%
備 考	

高校3年（学校設定）

科 目	単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
特別講座2（物理演習）	4	選択	FT	齋藤

目 標	・身の回りの自然現象等への興味・関心を高め、自然科学・技術を正しく活用しようという態度や倫理観を育む。 ・学習内容と実験・観察データを統合・判断して、論理的・科学的にわかりやすく表現できる力をつける。 ・実験・観察、探究活動を通して、科学的に探究する方法と能力を身につける。 ・自然科学の基礎・基本となる知識・概念の理解を深め、科学的な自然観の育成を図る。 ・大学入学共通テストで80%以上の得点率を目指す。			
育てたい力	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	・身の回りの自然現象等への興味関心を高め、科学的に探究しようする態度を身に付ける。	・学習内容と実験結果から正しく現象を考察し、表現できる力を養う。	・実験・観察、探究活動を通して、習得した科学的に探究する力を高める。	・物理の知識・概念を正しく理解し、科学的な自然観を育む。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	電磁誘導 ・誘導起電力 ・リアクタンス ・インダクタンス ・交流 ・電磁波	・電流のまわりに生じる磁場をもとに、磁場に係わる現象を分析する。合わせて、ベクトルとしての定量的な扱いについても理解する。 ・電流が磁場から受ける力を、微視的な視点を持って理解する。 ・電磁誘導の原理を理解し、定量的な扱いを学ぶ。 ・交流や電磁波の諸現象について学ぶ。
	物質と原子 - 原子 ・電子の発見 ・光電効果 ・粒子性と波動性 ・原子の構造 ・X線の性質 - 原子核 ・構造 ・崩壊 ・放射線 ・原子核反応と核エネルギーの解放	・微視的粒子である原子の発見の経緯を学ぶ。 ・特に、トムソン、ミリカン、アインシュタイン、ボーア、コンプトンなどの発想を学び、現代物理学への移行過程を理解する。
2 学期	・物理入試問題演習	・既習事項に関する復習とその深化を意図した演習問題を行い、より実践的な学力を身につける。
3 学期	・物理入試問題演習 ・大学入学共通テスト対策演習	・既習事項に関する復習とその深化を意図した演習問題を行い、より実践的な学力を身につける。 ・大学入学共通テストで得点率80%以上の得点率を目指す。

授 業 の 形 態	講義／問題演習／実験
教 科 書	『物理基礎 改訂版』啓林館、『物理 改訂版』啓林館
副 教 材	『セミナー 物理基礎＋物理』第一学習社、プリント教材、『物理重要問題集』数研出版
評 価 の 方 法	定期考査 80%＋平常点 20%（休暇中課題・小テスト・レポート）
備 考	・必要に応じて、夏季休暇中に特別授業を行う。

高校 3 年（学校設定）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
特別講座 2 (化学基礎演習)	2	必修	FT	江島

目 標	- 日常生活や社会と関連の深い物質を通して、物質の具体的な性質や反応の理解を基に、観察・実験の結果から課題を解決する力や、物質が適切に利用され、化学が果たしている役割を理解する力を養う。 - 大学入学共通テストにおいて 90%以上の正解率を目指して、演習力を身につける。			
育 て た い 力	意欲・関心・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
	- 身の回りの自然現象等への興味関心を高め、科学的に探究しようとする態度を身につける。 - 自分の進路実現のために、受験校の問題を自ら調べ、傾向と対策を立てることができる。 - 発展的な問題や分からない問題に対して自分で調べて解決しようとする。	- 学習内容と実験結果から正しく現象を考察する力を養う。 1つの問題を様々な観点から考え、効率の高い思考法を見いだすことができる。 - 実験・観察、探究活動に関する問題演習を通して、科学的に探究する方法を正しく用いることができる。	- 問題を正確に処理し、多様な方法で解決できる。 - 問題を正確に分析し、より効率の高い計算方法を見いだすことができる。 - 有効数字を含めて考え、すばやく計算できる。	- 化学の基礎・基本となる知識・概念を正しく理解し、科学的な自然観を育む。 - これまで培った科学的自然観をベースにして、既知の知識と関連付けて考え、問題の意味を理解することができる。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	入試問題演習 ・分野別（物質の構成、物質の構成粒子、粒子の結合、物質質量と化学反応式、酸と塩基、酸化と還元）に基礎的な問題および応用的な問題	- 基礎から応用レベルの入試問題を解くことによって、総合力を養う。 - 問題を解く上で必要な知識を総合的にとらえる。 - 基礎知識を活用して、論理的に考える力を養う。
2 学期	入試問題演習 ・分野別（物質の構成、物質の構成粒子、粒子の結合、物質質量と化学反応式、酸と塩基、酸化と還元）および分野融合した思考力、判断力等を確かめるためのより発展的な問題	- 基礎的な知識や理解を組み合わせながら思考判断できる力を養う。 - 制限時間内に要領よく解く技術も身につける。
3 学期		

授 業 の 形 態	一斉授業／講義・演習ゼミ
教 科 書	『改訂版 化学基礎』数研出版（購入済み：1 年次使用）
副 教 材	『大学入学共通テスト対策 チェック&演習 化学基礎』数研出版（高入済み：2 年次使用） 『WINSTEP 化学基礎』，自作プリント
評 価 の 方 法	定期考査 70%＋平常点 30%（確認テスト、レポート、ノート、問題演習、小テスト）
備 考	- 予習課題の入試問題を、生徒もしくは教師が解説をする。 - 既習内容を整理したり、場合によっては、実験で確認したりしながら授業を進める。 - 目標達成のためには、予習をしてもらうことが前提であり、この作業が極めて重要である。 - 模試の過去問や大学入学共通テスト・センター過去問を利用する。 - スタディサブリの活用を薦める。

高校 3 年（学校設定）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
特別講座 1（化学演習）	2	必修	FTs	宮嶋

目 標	・化学的な事物・現象に関する原理・法則についての理解を基に、物質の変化について、必要な情報を抽出して現象に関する数的処理をしたり、グラフを描いて現象に関する値を求めたりする力を養うことで、大学入学共通テストにおいて 90%以上の正解率を得ることができることを目指す。 ・難関国公立大二次試験や私立大学の思考型問題に対応することができるような科学的思考力や答案作成力を身につける。			
育 て た い 力	意欲・関心・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
	・身の回りの自然現象等への興味関心を高め、科学的に探究しようとする態度を身につける。 ・自分の進路実現のために、受験校の問題を自ら調べ、傾向と対策を立てることができる。 ・発展的な問題や分からない問題に対して自分で調べて解決しようとする。	・学習内容と実験結果から正しく現象を考察する力を養う。 ・1つの問題を様々な観点から考え、効率の高い思考法を見いだすことができる。 ・実験・観察、探究活動に関する問題演習を通して、科学的に探究する方法を正しく用いることができる。	・問題を正確に処理し、多様な方法で解決できる。 ・問題を正確に分析し、より効率の高い計算方法を見いだすことができる。 ・有効数字を含めて考え、すばやく計算できる。 ・論述問題に対して、求められている形式で、論理的に記述できる。	・化学の知識・概念を正しく理解し、科学的な自然観を育む。 ・これまで培った科学的自然観をベースにして、既知の知識と関連付けて考え、問題の意味を理解することができる。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	入試問題演習 ・分野別（物質の状態、物質の変化、有機化合物）に基礎的な問題および応用的な問題	・論述問題の解法を身につける。 ・基礎から発展レベルの入試問題を解くことにより総合力を養う。 ・問題を解く上で必要な知識を総合的にとらえる。 ・単なる暗記ではなく、論理的に考える力を養う。
2 学期	入試問題演習 ・分野別（高分子化合物）ならびに融合問題を扱う	・標準から発展レベルの入試問題を解くことにより総合力を養う。 ・問題を解く上で必要な知識を総合的にとらえる。 ・基礎知識を活用して、論理的に考える力を養う。
3 学期	大学入学共通テスト対策演習 二次試験対策演習	・制限時間内に要領よく解く技術も身につける。 ・論述問題の解答作成法を身につける。

授 業 の 形 態	一斉授業・グループ学習・個人ワーク／講義・（実験）／演習ゼミ
教 科 書	『改訂版 化学』数研出版（購入済み：1・2 年次使用）
副 教 材	『2021 化学重要問題集』数研出版 購入済み 大学入学共通テスト対策 チェック&演習 化学』数研出版 自作プリント
評 価 の 方 法	定期考査 70%＋平常点 30%（確認テスト、実験レポート、ノート、問題演習、小テスト）
備 考	・予習課題の入試問題を、生徒もしくは教師が解説をする。 ・既習内容を整理したり、場合によっては、実験で確認したりしながら授業を進める。 ・目標達成のためには、予習をしてもらうことが前提であり、この作業が極めて重要である。 ・模試の過去問やセンター過去問、二次試験の過去問を利用する。 ・スタディサブリの活用を薦める。

高校3年（学校設定）

科 目	単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
特別講座2（生物演習）	4	選択	FTs	森田

目 標	・身の回りの自然現象等への興味・関心を高め、自然科学・技術を正しく活用しようという態度や倫理観を育む。 ・学習内容と実験・観察データを統合・判断して、論理的・科学的に他人に理解できるようにわかりやすく表現できる力をつける。 ・実験・観察、探究活動を通して、科学的に探究する方法と能力を身につける。 ・自然科学の基礎・基本となる知識・概念の理解を深め、科学的な自然観の育成を図る。			
育 て た い 力	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	・身の回りの自然現象等への興味関心を高め、科学的に探究しようとする態度を身につける。	・学習内容と実験結果から正しく現象を考察し、表現できる力を養う。	・実験・観察、探究活動を通して、習得した科学的に探究する力を高める。	・生物の知識・概念を正しく理解し、科学的な自然観を育む。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	生物の環境応答 ・動物の反応と行動 ・植物の環境応答	・動物における、刺激の受容から反応するまでの仕組み、動物個体の行動について理解する。 ・植物が環境変化に反応する仕組みを理解する。
2 学期	生物と環境 ・個体群と生物群集 生物の進化と系統 ・生命の起源と進化 ・生物の系統 生物基礎と生物 ・共通テストおよび大学受験問題演習 ・実験演習	・個体群とその変動、生物群集とその成り立ちについて理解する。 ・生態系における物質生産とエネルギー効率、生態系における生物多様性に影響を与える要因を理解し、生物多様性の重要性を認識する。 ・生命の起源と生物進化の道筋、進化の仕組みを理解する。 ・生物はその系統に基づいて分類できることを理解する。 基礎学力の定着および受験レベルへの学力向上を図る。 実験演習やフィールドワークを通して、受験問題に対抗できる実験的思考の向上を目標とする。
3 学期	生物基礎と生物 ・共通テストおよび大学受験問題演習	受験予定大学に向けた傾向と対策を実施し、受験レベルへの学力向上を図る。

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／講義・実験
教 科 書	『改訂版 生物』数研出版
副 教 材	『ニューステージ新生物図表』浜島書店、『21 セミナー生物』第一学習社、『20 セミナー生物基礎』第一学習社
評 価 の 方 法	定期考査 80%＋平常点 20%（レポートを含む提出物・授業態度等を総合的に評価）
備 考	・理科系大学（特に医学・薬学・農学）に対応できる力を養成する内容を重点的に学習させ、実験データを応用的にレポートに纏める能力の涵養を目指す。

高校 3 年（学校設定科目）

科 目	単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
文社選択1（科学探究）	2	選択	AM	藤田

目 標	・実験スキルを正しく身に付け、安全に実験を行えるようになる。 ・観察→課題を持つ→仮説設定→実験→結果分析→考察の反復を通して、思考力の育成を行う。探究プロセスの中で自ら立てた問い（課題）に対して根気強く向き合いながら、自己の成長を客観視（メタ認知）するとともに、持続可能な社会づくりに貢献しようとする態度を養う。また、理系学部でも通用できるレベルの力を養う。 ・プレゼンテーション能力の育成を行い自らの研究成果を「発信」する意義や必要性を学ぶ。			
	関心・意欲・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
育 て たい 力	・身近な自然現象や科学現象をこれまでの知識や経験の中から類推をしたり、新たな知見を獲得したりする活動を通じて、解決の糸口を根気強く探し、自分なりの解決策や行動を導き社会貢献しようとする姿勢を養う。	・身の回りの事象を科学的に捉え、課題設定・課題解決の道筋を見つけ出す。 ・協働的な学びの中で、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えることができる。	・「誰に・何を伝えるのか」を明確にし、研究成果をレポートやスライド等にまとめることができる。	・情報の集め方、文章の読み方、問いの立て方の手法を身につける。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・生活や身の回りの出来事に関連の深い自然科学現象に目を向け、自然科学的な観点で各自学びを深める。 ・注目した現象について、他者に興味を持たせるためには、どのような実験や演示・活動が必要かを考える。 ・検討した実験や活動を実現させるための具体化を進める。必要に応じて、自分自身で実験をデザインし、実施する。	・実験器具の使い方を知識で知っているだけではなく、実際に使えるようになることを目標とする。化学実験で頻繁に使う、電子天秤やピペット類、メスシリンダーなどの使い方を訓練する。 ・参考文献を探すことを目的としつつ、科学の書物にふれることで、課題設定をするためのヒントを探す。 ・物理実験で得た結果の数値からグラフの作成スキルを身に付ける。また、エクセルなどを用いたデータ処理スキルも身に付ける。
2 学期	・1 学期の活動を継続し、一つの実験・活動としてまとめる。 ・生徒間で発表を行い、互いの理解を深める。	・レポートの基本となる結果をまとめ、適切な考察ができるようになる。また、仮説検証実験を行い、仮説→実験→結果→考察というレポートを作成することができるようになる。
3 学期	・1 年間の活動をレポートとしてまとめる。	・プレゼンテーションの技法などを学び、積極的に質問する姿勢や態度を身につける。

授 業 の 形 態	一斉授業・グループワーク・フィールドワークなど
教 科 書	なし
副 教 材	なし
評 価 の 方 法	日々の活動に伴う提出物・成果物・議論・発表等、年度末課題などを総合的に判断 ルーブリック評価を示し、生徒の到達目標を具体化する。 定期試験は実施しない
備 考	

高校3年（保健体育科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
体育	3	必修	AM・AMs・GL・GLs	白井・横江川・伊藤・久瀬・久保田

目 標	・運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 ・運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。		
育 て たい 力	運動・技能	態度	知識・思考・判断
	・ 技能や動きなどをさらに高める力 ・ 記録や技に挑戦する力 ・ 運動やスポーツを実践する力	・ 自主的に取り組む力 ・ ルールやマナーを守る力 ・ 助け合い、高め合う力 ・ 役割を積極的に果たす力	・ 技術の名称や行い方を理解する力 ・ 試合や発表の仕方を考える力 ・ 体力の高め方を理解する力 ・ 課題解決に応じた運動計画を立案する力

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・ オリエンテーション・集団行動 ・ 新体力テスト ・ 体づくり運動 ・ 選択Ⅰ期 ・ 体育理論	・ 授業のルールやマナーを再確認し、安全かつ円滑に進めるようにする。 ・ 新体力テストを実施し、前回の記録を踏まえ、自己の能力や課題を知り、実践につなげる。 ・ 基礎体力の向上をはかる。 ・ 主体的に取り組む、ゲームの運営や課題解決の方法を理解する。 ・ 運動やスポーツについての理解を深める。
2 学期	選択Ⅱ期 持久走 体育理論 選択Ⅲ期	・ 主体的に取り組む、ゲームの運営や課題解決の方法を理解する。 ・ 自己の課題に応じて、ペースを設定して走ることができる。 ・ 運動やスポーツについての理解を深める。
3 学期	選択Ⅲ期	・ 主体的に取り組む、ゲームの運営や課題解決の方法を理解する。

授 業 の 形 態	3 クラス合同授業（選択時は4 講座制）
教 科 書	『現代高等保健体育改訂版』 大修館書店
副 教 材	『現代高等保健体育ノート改訂版』 大修館書店
評 価 の 方 法	・ 評価点100% ・ 実技・・・運動能力だけでなく、自主的・積極的に参加する姿勢や規範意識の姿勢を重視する。 ・ 欠課1につき2点、忘れ物や遅刻1回につき1点を差し引く。
備 考	・ 体づくり運動を通年実施し、体力の維持・向上をはかる。 ・ 指定の体操服を着用し（見学者も同様）、体育館更衣室で着替えること。 ・ 見学が必要な場合は、筆記用具持参の上、必ず授業時間前に体育準備室の教員に申し出ること。 ・ 途中でケガや気分が悪くなった場合は必ず担当教員に申し出ること。 ・ 身体的理由で長期間の見学が必要な場合は、診断書等の提出を求める場合がある。

高校3年（保健体育科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
体育	3	必修	FT・FTs	白井・横江川・伊藤・久保田

目 標	・運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 ・運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。		
育 て たい 力	運動・技能 ・ 技能や動きなどをさらに高める力 ・ 記録や技に挑戦する力 ・ 運動やスポーツを実践する力	態度 ・ 自主的に取り組む力 ・ ルールやマナーを守る力 ・ 助け合い、高め合う力 ・ 役割を積極的に果たす力	知識・思考・判断 ・ 技術の名称や行い方を理解する力 ・ 試合や発表の仕方を考える力 ・ 体力の高め方を理解する力 ・ 課題解決に応じた運動計画を立案する力

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・ オリエンテーション・集団行動 ・ 新体力テスト ・ 体づくり運動 ・ 選択Ⅰ期 ・ 体育理論	・ 授業のルールやマナーを再確認し、安全かつ円滑に進めるようにする。 ・ 新体力テストを実施し、前回の記録を踏まえ、自己の能力や課題を知り、実践につなげる。 ・ 基礎体力の向上をはかる。 ・ 主体的に取り組む、ゲームの運営や課題解決の方法を理解する。 ・ 運動やスポーツについての理解を深める。
2 学期	選択Ⅱ期 持久走 体育理論 選択Ⅲ期	・ 主体的に取り組む、ゲームの運営や課題解決の方法を理解する。 ・ 自己の課題に応じて、ペースを設定して走ることができる。 ・ 運動やスポーツについての理解を深める。
3 学期	選択Ⅲ期	・ 主体的に取り組む、ゲームの運営や課題解決の方法を理解する。

授 業 の 形 態	3 クラス合同授業（選択時は4 講座制）
教 科 書	『現代高等保健体育改訂版』 大修館書店
副 教 材	『現代高等保健体育ノート改訂版』 大修館書店
評 価 の 方 法	・ 評価点100% ・ 実技・・・運動能力だけでなく、自主的・積極的に参加する姿勢や規範意識の姿勢を重視する。 ・ 欠課1につき2点、忘れ物や遅刻1回につき1点を差し引く。
備 考	・ 体づくり運動を通年実施し、体力の維持・向上をはかる。 ・ 指定の体操服を着用し（見学者も同様）、体育館更衣室で着替えること。 ・ 見学が必要な場合は、筆記用具持参の上、必ず授業時間前に体育準備室の教員に申し出ること。 ・ 途中でケガや気分が悪くなった場合は必ず担当教員に申し出ること。 ・ 身体的理由で長期間の見学が必要な場合は、診断書等の提出を求める場合がある。

高校３年 （学校設定）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
文社選択２（スポーツ概論）	2	選択	AM	前田・横江川

目 標	・スポーツが持つ魅力や文化について、総合的に理解することができる。 ・生涯スポーツに対する視野を広げることができる。 ・現代スポーツに関わる問題を理解し、その解決について考えることができる。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
育 て たい 力	・技術の名称や行い方を理解する力 ・測定したデータを分析する力	・生涯スポーツに対する広い視野を持つ力 ・現代スポーツを取り巻く問題について考える力 ・自分の考えをまとめ発信する力	・積極的に学ぶ力 ・ルールやマナーを守る力 ・道具や施設を大切に扱う力 ・自己の責任を果たす力

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・オリエンテーション ・スポーツについて考える ・スポーツ科学入門 ・研究テーマの立案と策定 ・実技実験	・授業の概要やルールを確認し、安全かつ円滑に進めるようにする。 ・スポーツをとりまく分野について考える。 ・簡単な実験を通して、スポーツ科学の基礎を理解する。 ・研究のテーマを決め、予備調査や予備実験を行う。
2 学期	・研究の分析 ・研究発表 ・ニュースポーツ ・ゴルフ（講義・実技）	・各班の研究を共有し、研究の進捗状況を確認する。 ・研究した内容を発表しあい、成果を共有する。 ・ニュースポーツやゴルフの実践を通して、生涯スポーツに対する視野を広げるとともに、スポーツが持つ魅力やスポーツとの多様な関わり方について理解する。
3 学期	・まとめ	・習得したゴルフの技能を発揮する。 ・成果と今後の課題をまとめる。

授業の形態	講義・実技（体操服・運動靴必要）・グループワーク
教科書	特になし
副教材	資料となるプリント等は、授業内で配布する。
評価の方法	定期考査は行わない。毎時間のレポート・発表・実技試験・小テストや授業の取り組みを総合的に評価する。
備 考	・ゴルフ場実習実施に伴い、費用を徴収する場合がある（2021 年度 2000 円）

高校3年（学校設定）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
文社選択2（音楽Ⅱ）	2	選択	AM	曾根

目 標	・音楽の諸活動を通して、生徒が感性を働かせて個性豊かに表現したり主体的に味わって鑑賞したりする能力を伸ばし、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる。 ・音や音楽を知覚・感受し、思考・判断・表現する過程を通して、個性豊かな表現と主体的な鑑賞の能力を伸ばす。 ・音楽と生活とのかかわりについて考え、音環境への関心を高める。 ・楽曲固有のよさや美しさを味わい特徴について理解を深め、文化的・歴史的背景などを踏まえた広い視野で音楽を捉えることで、音楽文化への理解を一層深める。
-----	---

育 っ た い 力	意欲・関心・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
	主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、完成を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく力を養う。	演奏会を開くにあたり、聴衆が望むものを第一とし、主体的に音楽活動を個人・グループで行い、仲間と協力、創意工夫し企画する力。	表現の技能を身に付け、自分の表現方法を創意工夫し創造的に表す力。	作品に対し、そのものの時代背景や作者の背景なども読み解き、適切な表現・鑑賞ができる力を養う。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
----	---------	--------

1 学期	・ガイダンス <理論> ・ソルフェージュ ・音楽理論 <表現> ・自ら課題を設定し取り組む（演奏活動）	・年間スケジュールと学期のスケジュール評価方法の説明 ・リズム感、音感を育てる。 ・表現方法の多様性を知り、楽曲の構成を読み取る力を育てる。 ・自ら楽器を選択し、技量の向上のための手立てを考え実践する。 ・課題を設定し計画を立て、それにそって練習を進める。
------	--	--

2 学期	<表現> ・歌唱（3部合唱等） ・合奏 <鑑賞> ・レポート（感想文） <創作> ・演奏会企画 <理論> ・ソルフェージュ ・音楽理論	・難曲にチャレンジし自分たちで表現方法を考え発表する。 ・1学期の経験をふまえハイクオリティを目指す。 ・作曲家の思いを歴史的背景から読み取る力を育てる。 ・プログラム立案から自らが考え、コンサートを企画する。 ・リズム感、音感を育てる。
------	---	---

3 学期	<表現> ・演奏会を開催する。 <鑑賞> ・レポート（感想文）	・より高度な楽曲にチャレンジし高度な表現を学ぶ。 ・練習の成果発表をする。 ・オペラやミュージカル・映画などを通じて表現の特性や効果などを学ぶ。
------	---	--

授 業 の 形 態	・講義、グループワーク
-----------	-------------

教 科 書	・音楽の鑑賞資料と基礎学習
-------	---------------

副 教 材	・個人、グループ別楽譜
-------	-------------

評 価 の 方 法	・個人テスト、発表、レポート（実技点：70％、課題点：30％）
-----------	---------------------------------

備 考	・教材費（楽譜等）として1000円程度徴収します。
-----	---------------------------

高校3年（学校設定）

科 目		単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
文社選択 2 (メディアデザイン)		2	選択	AM	伊藤・菊池
目 標	- 社会に役立つデジタルメディア作品を制作し、発表することで、社会貢献を行う。 - 自己表現の技法のひとつとして、デジタル作品制作スキルを身につけ、高次の自己表現力を磨く。 - 到達したいレベルや課題を自分で設定し、それに向けて計画的に実行できる。				
育 て たい 力	技能・表現・処理		知識・理解・判断		関心・意欲・態度
	- オリジナルの映像作品を、Adobe Premiere Pro や Adobe After Effects などを使用して制作できる。 - オリジナルのデザイン作品を Adobe Photoshop, Illustrator, Spark など制作できる。		●Adobe Premiere Pro や Adobe After Effects や Adobe Photoshop と Adobe Illustrator の基本操作、基本知識を身につけて、自分の作品に活用できる。		● 自ら進んで計画的に知識の理解に努めることができる。 ● 個人だけでなく、チームでプロジェクトを進めることができる。 ● 出来上がった作品を広く社会に役立てるようにアウトプットできる。
時期	学習内容・項目学習 ＜技能実習＞		プロジェクト		ねらい・目標
1・2 学期	● 映像制作の基礎 作品制作 作品発表 ● デザイン作成の基礎 作品制作 作品発表 総合制作実習		【コンペ応募系】 ● 【CM】 青少年非行・被害防止啓発CMコンテスト（滋賀県警主催：1月末締め切り） ● 【動画・イラスト】 アドビ SDGs クリエイティブアイデア コンテスト（Adobe 主催：1月末締め切り） ● 【映画】 小布施短編映画祭 powered by COSINA ● 【CM・動画】 京都広告賞 ● 【イラスト・CG・映像】 U-18 アーティストコンテスト その他、社会貢献系も検討する。		● 自ら進んで計画的に知識の理解に努めることができる。 ● 個人だけでなく、チームでプロジェクトを進めることができる。 ● 出来上がった作品を広く社会に役立てるようにアウトプットできる。
3 学期	制作発表				
授 業 の 形 態		実習形式			
教 科 書		なし			
副 教 材		・Life is Tech For School ・各自必要なテキスト（任意）			
評 価 の 方 法		1 学期 作品評価・プレゼンテーション・作品応募・PDCA・成果報告など 2 学期 作品評価・プレゼンテーション・作品応募・PDCA・成果報告など 3 学期 成果報告など ※定期試験は実施しない。			
備 考		・この授業では、必要最低限の知識及び技能を Life is Tech For School で習得します。教員からの知識伝達型の講義はほとんどありません。各自が自分に計画に従って、必要な知識や技能を自分で習得しながら作品を作り上げることが求められます。 ・この授業は授業だけですべて完結しません。授業時間外の個々の個別学習が必要です。課外活動とのバランスを考えて受講してください。			

科 目		単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
文社選択 2（伝統文化）		2	選択	AM	山崎・田中
目標	・日本の伝統文化の学びや体験を通して、日本の伝統文化や精神文化に対する理解を深め、豊かな情操を育む。 ・世界の中での日本のアイデンティティーを育むとともに、日本文化を愛好する精神を養う ・それぞれの成り立ちや素晴らしさを学ぶことで、その中通ずる「心」、世界から讃えていただける日本人の国民性の素晴らしさを再認識し、伝統文化伝承のための表現力を身につける。				
育てたい力	意欲・関心・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解	
	主体的に体験や鑑賞の活動に取り組み、その喜びを味わい、伝統文化を愛好していかうとする力	感じ取ったことや考えたことを基に、感性や想像力を働かせて発想する力。よさや美しさなどを考えながら、心豊かで創造的な表現の構想をする力。	表現の技能を身に付け、自分の表現したいことを創造的に表現する力。	伝統文化作品や文化遺産などに親しみ、感性や想像力を働かせてよさや美しさなどを感じ取り味わったり、理解したりする力	
時期	学習内容・項目		ねらい・目標		
1 学期	<ガイダンス> ・一年間の流れ <茶碗制作> 茶碗のデザイン 抹茶茶碗制作 <鑑賞> 伝統文化・生徒作品相互鑑賞		・一年間の流れの説明と、主体的に体験や鑑賞の活動に取り組み、その喜びを味わい、伝統文化を愛好する精神を養う趣旨を理解させる。 ・陶芸や茶碗について造詣を深めるとともに工夫を凝らし制作するためのデザインをする。 ・自他の作品について考察したことを述べ合ったり、互いの作品の良さを発見して伝え合ったりすることで、コミュニケーションの力を養う。 ・出来るだけ多くの作品に親しみ、表現されている内容を素直に味わう姿勢を身につける。		
2 学期	<お茶育> 講師 宇治田原製茶場 おいしいお茶の入れ方・マナー講座 茶歌舞伎 <香道> 香道の歴史について <華道> 講師 専慶流家元 西阪専慶氏 家元嗣 講義 華道の歴史について 実習 華道体験 <茶道> 茶道の歴史・作法について <和菓子> 講師 たねや 講義 和菓子の歴史と現在について 実習 和菓子制作		・茶の歴史やマナーを理解し、実践できるようにする。 ・香道の歴史を知り、特性をいかした作品を制作する。 ・茶道・華道・和菓子などの歴史ついて理解するとともに、日本の美意識や精神文化を学ぶ。 ・体験を通じ、日本および様々な国の伝統と文化を尊重し、日々の暮らしの中にいきづく日本の美意識や伝統を再認識する。		
3 学期	<鑑賞> 日本の伝統文化について		・日本の伝統文化を総合的に理解し、世界に誇る日本の文化を世界に伝える力を身に付ける。		
授 業 の 形 態		・講義、個人製作、作品発表と相互鑑賞・相互評価、グループワーク			
教 科 書					
副 教 材		・学習プリント			
評 価 の 方 法		・作品 50%＋レポート・平常点等 50% 定期考査なし			
備 考		・材料費必要			
備 考		・効果的な参考作品や、映像教材を準備する			

高校3年（学校設定）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
理数選択 (総合芸術)	2	選択	AMs	菊池・西川

目 標	・音楽、演劇、舞踊などの芸術の諸ジャンル間の区別なく、それらの統合を目指し、パフォーマンスやミクストメディアによって表現する力を身につける。 ・芸術的な能力を伸ばし、美に対する感性を高めるとともに、生涯にわたって芸術を愛好する心情を育て、豊かな情操を養う。			
	意欲・関心・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
育 て た い 力	・主体的に表現や鑑賞の活動に取り組み、その喜びを味わい、総合芸術を愛好していこうとする力。	・感じ取ったことや考えたことを基に、感性や想像力を働かせて発想する力。よさや美しさなどを考えながら、心豊かで創造的な表現を構想する力。	・表現の技能を身に付け、自分の表現方法を創意工夫し創造的に表す力。	・総合芸術に親しみ、感性や想像力を働かせてよさや美しさなどを感じ取り味わったり、理解したりする力

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	<ガイダンス> ・一年間の流れ <音楽制作> 音楽作曲についての基礎知識と演習 <鑑賞> 生徒作品相互鑑賞	・一年間の流れの説明と、主体的に想像や鑑賞の活動に取り組み、その喜びを味わい、総合芸術を愛好する精神を養う趣旨を理解させる。 ・様々な音楽の作曲法を学び、自分の作品を作曲する。 ・自他の作品について考察したことを述べ合ったり、互いの作品の良さを発見して伝え合うことで、コミュニケーションの力を養う。 ・出来るだけ多くの作品に親しみ、表現されている内容を素直に味わう姿勢を身につける。
2 学期	<映像技術の習得> 様々な映像技法の習得と演習 一学期に作曲した作品を映像作品に仕上げる	・映像について理解し、実践できるようにする。 ・自分の表現方法を創意工夫し創造する。
3 学期	<鑑賞> 映像作品・生徒作品相互鑑賞	・自他の作品について考察したことを述べ合ったり、互いの作品の良さを発見して伝え合うことで、コミュニケーションの力を養う。 ・出来るだけ多くの作品に親しみ、表現されている内容を素直に味わう姿勢を身につける。

授 業 の 形 態	・講義、個人制作、作品発表と相互鑑賞・相互評価、グループワーク
教 科 書	
教 材	・学習プリント
評 価 の 方 法	・作品 50%＋レポート・平常点等 50% 定期考査なし
備 考	・効果的な参考作品や、映像教材を準備する

高校 3 年 （文社選択 2）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
文社選択 2 (フードデザイン)	2	選択	AM	小林

目 標	・家庭に関わるフードマネジメント産業について学び、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ・栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ・食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ・食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			
	意欲・関心・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
育てたい力	・食生活と暮らしについて関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	・食生活と暮らしを充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	・食生活と暮らしについて課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身に付けている。	・食生活の意義や役割を理解し、食生活と暮らしを充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・食事の意義と役割 ・食を取り巻く現状 ・栄養素の働き ・健康に必要な栄養素 ・食品の特徴 ・食品加工の目的 ・食品の選択と取り扱い	・食事の様々な役割やはたらきについて理解する。 ・食に関わる様々な問題を理解し、持続可能な食生活のありかたについて考える。 ・人の生活に必要な栄養素とそのはたらきについて科学的な仕組みを理解するとともに、理想的な栄養摂取のありかたについて考える。 ・様々な食品の特徴とその扱い方について、栽培実習や実験を用いながら体験的に学ぶ。 ・食品加工のあり方について、伝統的な技術から最新のテクノロジーまでを学ぶ。 ・様々な食品の選び方や衛生的な管理の仕方について学ぶ。
2 学期	・調理の基本 ・ライフステージと食事計画 ・献立作成 ・様式別の献立と調理・食卓作法 ・食文化を見つめる ・テーブルコーディネート ・国民運動としての食育の推進	・様々な調理の手法について実践的に学ぶ。「家庭料理検定」3 級程度の技能取得を目指す。 ・食事バランスガイドをもとに、乳幼児や高齢者、スポーツ選手などにとって必要な献立の作成と、調理の実践の中で必要な技術を学ぶ。 ・世界中の様々な料理のありかたや歴史・作法などについて理解する。・持続可能な食文化のあり方について考え、滋養の郷土料理について実践的に学ぶ。 ・多様な文化に合わせたテーブルコーディネートの手法について学ぶ。 ・世界遺産となった和食を中心に、豊かな食文化を醸成するための具体的な方策を学ぶ。
3 学期	・課題研究	・守山市をフィールドにして、J A おうみ富士と協同の課題解決プロジェクトを実践し、発表を行う。優秀な取り組みについては、2 月の学習発表会にて発表を行う。

授 業 の 形 態	講義・調理実習・討論
教 科 書	『フードデザイン cooking & arrangement』教育図書
副 教 材	なし
評 価 の 方 法	定期テスト 60%＋平常点 40% 平常点：出席確認カード・授業ノート・各種レポートや課題
備 考	・授業の約半分は、演習や実習形式の授業となるため、平常点の配分が大きい。そのため、授業への出席状況や課題提出状況が評価に大きな影響を与えることになるので要注意。 ・原則として、すべての受講生に「家庭料理検定」3 級程度の技能取得を目指してもらいます（検定を受検する場合の受検料については個人負担です。）

高校 3 年 （学校設定）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
理数選択 (住生活デザイン)	2	選択	AMs	小林

目 標	・家庭に関わる住生活産業について学び、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、豊かな住生活の実現を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ・住生活と文化、住空間の構成と計画、インテリアデザインなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ・快適な住空間の計画やインテリアデザインに関する課題を発見し、豊かな住生活の実現を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ・豊かな住生活の実現を目指して自ら学び、住空間のデザインに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			
	意欲・関心・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
育てたい力	・住まいやまちづくりと暮らしについて関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	・住まいやまちづくりと暮らしについて課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身に付けている。	・住まいやまちづくりと暮らしを充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	・住まいやまちづくりの意義や役割を理解し、暮らしを充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・住生活と住居の変遷 ・住生活と環境 ・住居の選択と管理	・住まいの生活様式について、歴史の変遷をたどるとともに、世界中の住生活文化を比較しながら、住まいやまちづくりの役割と意義について理解する。 ・住まいと自然環境の関わりから、様々な環境に応じた住まいやまちづくりの手法を科学的に分析し、持続可能な住まいやまちのありかたについて学ぶ。 ・住まいやまちづくりに関わる様々な情報を分析し、最も望ましい住生活を実現するための手法について、住宅展示場を訪問しながら実践的・体験的に学ぶ。
2 学期	・住居の設計 ・インテリア ・住生活の充実・向上	・住まい作りに関わる様々な図面について学び、CAD (Computer Aided Design) ソフトを使用しながら、理想的な住まいづくりのための図面を書き上げる。 ・インテリアデザインの基礎的・基本的な知識・技術を学びながら、インテリアの果たす役割やはたらきについて理解する。 ・住まいやまちづくりに関わる社会問題に目を向け、今後の社会に求められる持続可能なまちづくりのための方策について分析・検討を行う。また、今後の災害にそなえ、「防災検定」3 級程度の技能取得を目指す。
3 学期	・課題研究	・守山市をフィールドにして、守山市商工会議所と協同の課題解決プロジェクトを実践し、発表を行う。優秀な取り組みについては、2 月の学習発表会にて発表を行う。

授 業 の 形 態	講義・実習・討論
教 科 書	なし
副 教 材	『リビングデザイン』実教出版
評 価 の 方 法	定期テスト 60%＋平常点 40% 平常点：出席確認カード・授業ノート・各種レポートや課題
備 考	・授業の約半分は、演習や実習形式の授業となるため、平常点の配分が大きい。そのため、授業への出席状況や課題提出状況が評価に大きな影響を与えることになるので要注意。 ・原則として、すべての受講生に「防災検定」3 級程度の技能取得を目指してもらいます（検定を受検する場合の受検料については個人負担です。）

高校３年（外国語科：英語）

科 目	単位数	種 別	対象生徒	担当教諭
コミュニケーション英語Ⅲ	5	必修	AM・AMs・GL・GLs	辻・石黒・久野・竹田・由谷

目 標	- 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報やアイデアなどを的確に理解したり適切に伝えたりする態度を養う。 - 国際化社会に対応できる英語運用能力を高めるために、個人およびペア・グループでの様々な活動を通し、その基盤となる「読む」「聞く」「話す（発表・やりとり）」「書く」力、英語力・表現力を身につける。また、聴き手として発表について即興で質問するなど、積極的に話し手に関わるための英語力も高める。 - 相手の発言を受けて発言したり質問したりする活動など、英語を使ったやりとりを通して、自分の意見やアイデアを作ったり、吟味したりする力を養う。 - 各自が学びの目標を設定し、学びのプロセスを計画・実施し、振り返りを通して学びのサイクルを身につけていく。			
育てたい力	コミュニケーションへの意欲・関心・態度 - 様々な分野の話題に興味、関心を持ち、更に深く学ぶ意欲を持つ。 - 積極的に授業内での言語活動に参加しコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、自主的に授業外での学習に取り組む姿勢を身につける。	外国語表現の能力 「読むこと」「聞くこと」「話すこと」「書くこと」の活動を通じて、様々な話題に関する情報や自分のアイデアを英語で話したり、まとめた文章で表現したりできる。	外国語理解・処理の能力 - 論説文や物語文に慣れ、様々な英文の要旨を理解できる。 - 論点や根拠などを明確にするとともに、文章の構成や図表との関連を理解できる。	言語や文化についての知識・理解 - 語彙・構文・文法・発音等についての知識や、その運用についての知識を身につけるとともに、言語の背景にある文化などを理解している。 - 場面や状況に応じたふさわしい表現や強勢やイントネーションを知っている。

時期	学習内容・項目		ねらい・目標
1 学期	使用する教材を以下の5つのユニット「人生」「論理的思考」「平和」「科学・芸術」「教育」に分け、それぞれのタームで取り扱う項目について、より深い読みを進めていく。なお【Ⅰ】【Ⅱ】の表記は、それぞれコミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱの教科書単元を意味し、必要に応じて扱う。		様々な言語活動に取り組み、英語運用に必要なあらゆる技能を身につける。また、トピックについては、コミュニケーション英語ⅠⅡのものも扱いながら、各単元の内容を主体的に深めていくことを目標とする。 ◆Listening / Reading - さまざまなテーマについて書かれた英文を読んだり聴いたりして、その文章構造の正しい把握のもとに的確に情報を得ることができる。また、関連する英文を主体的に読み、理解を深めることができる。 ◆Speaking（会話・発表） - 得た情報をもとに、自らの意見を伝えたり、課題解決に向けたやりとりをしたりできる。また相手の発言等に即興で質問することができる。 ◆Writing - 英文を読んだり、やりとりをして得た情報をもとに、自らの考えなどを一定量の英文で書くことができる。 ◆Discussion / Debate - 課題に対して、協働的に話し合い、やりとりをすることにより、解決策を提案したり、自らの意見を再構築したりすることができる。
	ターム 1 ・生き方、あり方を考える ターム 2 ・論理的思考、科学的見地、協働について考える	・L2 God's Hands 医師 天野篤氏の生き方 【Ⅰ】 optional Lesson Heroic losers 課題：あなたのヒーローは？（プレゼンテーション） ・Lesson 4 Does money make you mean? 課題：Wonderful researchers（ポスタープレゼン）	
2 学期	ターム 3 ・国際貢献のあり方を考える ターム 4 ・科学技術や芸術の可能性について考える	・L6 Only a Camera Lens between us 瀬谷ルミ子氏の活動 【Ⅱ】 Reading A fall before rising 【Ⅰ】 Reading Love potion 課題：瀬谷ルミ子氏の過去・現在・未来（プレゼンテーション） ・L3 Captured by Art インスタレーションアートが生む新しい視点 ・L5 The Biggest Event in Human History AIの可能性と危険性 課題：自分の学びをデザイン。プロセスから自分の変化に気づき、そのことを言葉で表現する。（表現形式は自由）	
	ターム 5 ・教育について考える	・3年間の学びを振り返り、自分にとっての立命館守山とはどういう場所だったのかを考える。また学校への提案や素晴らしさを発表する 課題：学校とは？（プレゼンテーション）	
3 学期			

授業の形態	クラス授業（ペアやグループでの言語活動を含む、学習者が主体となる授業）
教科書	『CROWN English Communication III New Edition』三省堂
副教材	生徒用リスニングCD・『ワークブックスタンダード』三省堂
評価の方法	定期考査は実施せず、平常点のみで評価する （平常点は、単元テスト・パフォーマンステスト・プレゼン・スピーチ・課題提出など）
備 考	・上記の他、オリジナル教材を使用し、授業内でパフォーマンステストを定期的に行う

高校3年 (外国語科：英語)

科 目	単位数	種 別	対象生徒	担当教諭
コミュニケーション英語Ⅲ	5	必修	FT・FTs	田中英

目 標	- 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報やアイデアなどを的確に理解したり適切に伝えたりする態度を養う。 - 国際化社会に対応できる英語運用能力を高めるために、個人およびペア・グループでの様々な活動を通し、その基盤となる「読む」「聞く」「話す（発表・やりとり）」「書く」力、英語力・表現力を身につける。また、聴き手として発表について即興で質問するなど、積極的に話し手に関わるための英語力も高める。 - 相手の発言を受けて発言したり質問したりする活動など、英語を使ったやりとりを通して、自分の意見やアイデアを作ったり、吟味したりする力を養う。 - 各自が学びの目標を設定し、学びのプロセスを計画・実施し、振り返りを通して学びのサイクルを身につけていく。			
育てたい力	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
	- 様々な分野の話題に興味、関心を持ち、更に深く学ぶ意欲を持つ。 - 積極的に授業内での言語活動に参加しコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、自主的に授業外での学習に取り組む姿勢を身につける。	「読むこと」「聞くこと」「話すこと」「書くこと」の活動を通じて、様々な話題に関する情報や自分のアイデアを英語で話したり、まとめた文章で表現したりできる。	- 論説文や物語文に慣れ、様々な英文の要旨を理解できる。 - 論点や根拠などを明確にするとともに、文章の構成や図表との関連を理解できる。	- 語彙・構文・文法・発音等についての知識や、その運用についての知識を身につけるとともに、言語の背景にある文化などを理解している。 - 場面や状況に応じたふさわしい表現や強勢やイントネーションを知っている。

時期	学習内容・項目		ねらい・目標
1 学期	使用する教材を以下の5つのユニット「人生」「平和」「科学・芸術」「言語」「経済」に分け、それぞれのタームで取り扱う項目について、より深い読みを進めていく。		様々な言語活動に取り組み、英語運用に必要なあらゆる技能を身につける。 また、トピックについては、他の副教材に掲載の英文等も扱いながら、各単元の内容を主体的に深めていくことを目標とする。 ◆Listening / Reading ・さまざまなテーマについて書かれた英文を読んだり聴いたりして、その文章構造の正しい把握のもとに的確に情報を得ることができる。また、関連する英文を主体的に読み、理解を深めることができる。 ◆Speaking (会話・発表) ・得た情報をもとに、自らの意見を伝えたり、課題解決に向けたやりとりをしたりできる。また相手の発言等に即興で質問することができる。 ◆Writing ・英文を読んだり、やりとりをして得た情報をもとに、自らの考えなどを一定量の英文で書くことができる。 ◆Discussion / Debate ・課題に対する協働的な話し合いややりとりを通して、解決策を提案したり、自らの意見を再構築したりすることができる。
	ターム1 ・生き方、あり方を考える ターム2 ・社会経済について学び、本当の幸せとは何かを考える	・L2 God's Hands 医師 天野篤氏の生き方 課題 あなたの Hero は？（個人プレゼンテーション） ・L4 Does Money Make You mean? ・L4 Optional Reading Can Money Buy Happiness 課題 世界の Inequality（グループプレゼン）	
2 学期 ・ 3 学期	ターム3 ・国際貢献のあり方を考える ターム4 ・科学技術や芸術の可能性について考える ターム5 ・教育について考える	・L6 Only a Camera Lens between us 瀬谷ルミ子氏の活動 課題 自らの生き方や本当の幸せとは何かを考える ・L3 Captured by Art インスタレーションアートが生む新視点 ・L5 The Biggest Event in Human History AIの可能性と危険性 ・L8 The Magic of Reality 物事を科学的に考えることの意義 課題 ディベート 課題：自分の学びをデザイン	

授業の形態	クラス授業（ペアやグループでの言語活動を含む、学習者が主体となる授業）
教科書	『CROWN English Communication III New Edition』三省堂
副教材	生徒用リスニングCD・『ワークブックアドバンスト』三省堂 ・『速読英単語②上級編改訂第4版』・CD Z会
評価の方法	定期考査は実施せず、平常点のみで評価する （平常点は、単元テスト・パフォーマンステスト・プレゼン・スピーチ・課題提出など）
備考	・上記の他、オリジナル教材を使用し、授業内でパフォーマンステストを定期的に行う

高校3年（外国語科：英語）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
英語演習	2	必修	FT・FTs	橋詰

目 標	- 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を更に伸ばし、社会生活において活用できるようにする。 - 基本となる英語力の定着から大学入学共通テストレベルの教材を用いて言語活動を行うことにより、大学入学共通テスト「英語」（筆記・リスニング）で効率的・的確に解答できる力を養い、得点率95%を目指す。 - 国公立二次および難関私立大学入試対策として、より難易度の高い問題演習を行い、希望進路の実現に必要な英語力を養う。			
育 っ た い 力	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
	- さまざまな分野の話題に興味、関心を持ち、更に深く学ぶ意欲を持つ。 - 積極的に授業内での活動に参加し、自主的に授業外での英語学習に取り組む力を身につける。 - 自分の苦手分野を克服する手だてを考え、明確な数値目標をたてて実践する。	- さまざまなトピックに関する自分の意見を英語で話したり、まとめた文章で表現したりできる。 - 情報や考えなどを豊富な語彙や学習した表現を用いて表現することができる。	- 英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解する。 - 英語の論説文や物語文に慣れ、さまざまな英文の要旨を理解できる。 - 論点や根拠などを明確にするとともに、文章の構成や図表との関連を考える。 - 長短さまざまな英文を速読し、要旨を理解できる。また、必要に応じて難解な文章を精読し、理解できる。	- 英語やその運用についての知識を身につけるとともに、言語の背景にある文化などを理解する。 - さまざまな分野の知識を増やし、幅広い視点で物事を考えられるようにする。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
通年	高校英文法の整理と問題演習 入試問題の実践演習と解説 - 大学入試リスニング対策 - 共通テスト及び二次試験に向けた長文読解問題対策 - 英作文（自由英作含む）問題対策 - その他、弱点対策など *実践的な演習を通じて、基礎基本の整理から、二次対策に向けたレベルの高い記述まで行うため、学期やタームを超えて、年間を通じて上記内容に取り組む。	さまざまな問題演習を通じて、多様な形式の大学入試にも対応できる力を養う。 読む力 - 英文の段落構成や段落の要旨がすばやく理解できる。 - 長文を客観的・論理的に読み、早く正確な内容把握ができる。 - 設問に対する情報をすばやく検索できる。 - 英文の背景となる言語的・文化的・社会的な事実を理解できる 書く力 - 正確な文法・文構造・構文の知識に基づき、正確に表現できる。 - 読む、聴く活動を通し得た情報を整理し、正確に表現できる。 - 与えられたトピックに対し、自分の意見をまとめた英文で書くことができる。 聴く力 - 会話に特有の口語表現や感情表現を理解し、場面や状況に応じた会話の流れを判断できる。 - 長めのダイアログを聴いて、資料の内容を理解することができる。 - 速度の速い英文を聴いて、英語の語順のまま処理することができる。 話す力 - 場面や状況に応じて、既習言語材料を活用し、的確に表現できる。 - 相手の意見や発表に対し、即興で質問したり、自分の意見を述べたりすることができる。 語彙・表現等に関する力 - 文中の論理的根拠を基に未知語・難語句の意味類推ができる。 - 語彙・語法・イディオム・文法に関する知識を身につけ、出題される問いに対して的確に解答できる。
(3学期)	個別試験対策	各大学の二次試験や難関私大入試に応じた対策学習を行い、希望の進路を実現する。

授 業 の 形 態	クラス授業
教 科 書	なし
副 教 材	『SKYWARD COSMOS Course 最新入試英語長文20選』 桐原書店 *大学入学共通テスト対策用の演習問題集等については、年度途中で最新のものを購入し、使用する予定
評 価 の 方 法	定期テストは行わない（定期的な実践テストおよび課題提出などを平常点として評価する）
備 考	・上記の他、オリジナル教材やこれまでの補助教材等を使用する

高校3年 (外国語科：英語)

科 目	単位数	種別	対象生徒	担当教諭
Expression II	2	必修	AM・AMs	石黒・二宮・寺本・由谷・Staden・Coslian

目 標	・テーマについて深く考え、根拠に基づいた論理的で偏りのない思考や、自己の思考・感情を意識的に振り返る内省的な思考を行う力を身につける。 ・プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート、ロールプレイ等の多様な言語活動を通して、英語を用いて意見やアイデアをやりとりするための英語運用能力を養う。 ・英語論文の一般的な構造や学術英語表現の特徴を理解し、英語論文作成のための自律的学習を行う力を養う。			
育 っ た い 力	コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ・さまざまな分野の話題に興味、関心を持ち、更に深く学ぶ意欲を持つ。 ・積極的に授業内の言語活動に参加しコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、自主的に授業外での英語学習に取り組む姿勢を身につける。	外国語表現の能力 ・「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の活動を通じてさまざまなトピックに関する情報や自分の意見を英語で話したり、まとめた文章で表現したりできる。	外国語理解の能力 ・英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解する。 ・聞いたり読んだりしたことを学習や経験に基づき、情報や考えをまとめて発表する。 ・また発表されたものを聞いて、質問したり、意見を述べたりする。	言語や文化についての知識・理解 ・英語やその運用についての知識を身につけるとともに、言語の背景にある文化などを理解する。 ・さまざまな分野の知識を増やし、幅広い視点で物事を考えられるようになる。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	Academic Writing をベースに、様々なテーマに基づく単元学習を設定する。年間を通して5回の Essay Writing を課題として課す。 ・ Academic Writing - Basic Essay Structure - Compare and Contrast - Cause and Effect - Argument Essay	◆Thinking ・身の回りにある問題や社会性のある課題に関して、論理的に思考をすることができる。 ・独自のアイデアを創ることができる。 ・物事の優劣を比較検討することができる。 ◆Reading ・日常生活での実用的な文章の要点や意図を理解できる。 ・社会性のある分野について書かれた文章の概要を把握し、その要点や意図を理解できる。 ◆Listening ・日常生活の話題や、社会性のある分野について話された一定の長さの内容・会話を聞いて、全体を把握することができる。 ◆Speaking ・日常生活の話題や、社会性のある分野について、場面や目的に応じて一定の長さで自分の意志と理由を述べることができる。 ・準備なしで即興的に発表したり、やりとりしたりすることができる。 ・読んだり聞いたりしたことを受けて、即興的に質問したり、質問に対応することができる。
2 学期・ 3 学期	2 学期以降は Discussion や Presentation などの活動を実施しながら内容についての思考を深め、そこから Academic Writing の活動につなげていく。 活動例 ・ Discussion - Group Discussion - Triangle Discussion - Situational English ・ Presentation/ Debate - Micro Debate - Group Debate	◆Writing ・論理的に考え、根拠に基づいて、一貫性のある文章を書くことができる。 ・言語の使用場面と働きを理解し、状況に応じて適切な表現を正しく使うことができる ・英語による論文の書き方について学び、段落構成に関する理解を深め、アカデミックな英語論文が書けるようになる。 ◆Vocabulary ・様々な活動のなかで必要とされる表現を積極的に活用しながら、語彙を豊かにすることができる。 ◆Presentation / Discussion Debate ・聞き手の興味を引き付け、考えや意図を効果的に伝えられるプレゼンテーションができる。 ・情報を整理し、自分の意見や価値観を積極的に発信し、共有することができる。 ・論題に対し、根拠をベースに論理的に思考し、英語で相手を説得することができる。

授 業 の 形 態	クラス授業 (日本人教員とネイティブ教員による、アウトプットを主体とした授業)
教 科 書	なし
副 教 材	なし
評 価 の 方 法	定期考査は実施せず、平常点のみで評価する (単元テスト、課題提出、スピーチやプレゼンテーション、などのパフォーマンス課題など)
備 考	・上記の他、オリジナル教材を使用する

高校3年（学校設定）

科 目	単位数	種別	対象生徒	担当教諭
文社選択1（Expression plus）	2	選択	AM	Coslian・久野

目 標	・テーマについて深く考え、根拠に基づいた論理的で偏りのない思考や、自己の思考・感情を意識的に振り返る内省的な思考を行う力を身につける。 ・プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート、ロールプレイ等の多様な言語活動を通して、英語を用いて意見やアイデアをやりとりするための英語運用能力を養う。 ・英語論文の一般的な構造や学術英語表現の特徴を理解し、英語論文作成のための自律的学習を行う力を養う。			
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
育てたい力	・さまざまな分野の話題に興味、関心を持ち、更に深く学ぶ意欲を持つ。 ・積極的に授業内での言語活動に参加しコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、自主的に授業外での英語学習に取り組む姿勢を身につける。	・「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の活動を通じてさまざまなトピックに関する情報や自分の意見を英語で話したり、まとめた文章で表現したりできる。	・英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを正確に理解する。 ・聞いたり読んだりしたことを学習や経験に基づき、情報や考えをまとめて発表する。 ・また発表されたものを聞いて、質問したり、意見を述べたりする。	・英語やその運用についての知識を身につけるとともに、言語の背景にある文化などを理解する。 ・さまざまな分野の知識を増やし、幅広い視点で物事を考えられるようになる。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	Academic Writing をベースに、様々なテーマに基づく単元学習を設定する。 年間を通して5回のEssay Writingを課題として課す。 ・ Academic Writing - Basic Essay Structure - Compare and Contrast - Pros and Cons - Causes and Effects - Specialized Essay	◆Thinking ・身の回りにある問題や社会性のある課題に関して、論理的に思考をすることができる。 ・独自のアイデアを創ることができる。 ・物事の優劣を比較検討することができる。 ◆Reading ・日常生活での実用的な文章の要点や意図を理解できる。 ・社会性のある分野について書かれた文章の概要を把握し、その要点や意図を理解できる。 ◆Listening ・日常生活の話題や、社会性のある分野について話された一定の長さの内容・会話を聞いて、全体を把握することができる。 ◆Speaking ・日常生活の話題や、社会性のある分野について、場面や目的に応じて一定の長さで自分の意志と理由を述べるることができる。
2 学期 ～ 3 学期	2 学期以降はDiscussion やDebate などの活動を実施しながら内容についての思考を深め、そこから Academic Writing の活動につなげていく。 活動例 ・ Discussion - Group Discussion - Triangle Discussion ・ Debate - Micro Debate - Group Debate	・準備なしで即興的に発表したり、やりとりしたりすることができる。 ・読んだり聞いたりしたことを受けて、即興的に質問したり、質問に対応することができる。 ◆Writing ・論理的に考え、根拠に基づいて、一貫性のある文章を書くことができる。 ・言語の使用場面と働きを理解し、状況に応じて適切な表現を正しく使うことができる ・英語による論文の書き方について学び、段落構成に関する理解を深め、アカデミックな英語論文が書けるようになる。 ◆Vocabulary ・様々な活動のなかで必要とされる表現を積極的に活用しながら、語彙を豊かにすることができる。 ◆Presentation / Discussion / Debate ・聞き手の興味を引き付け、考えや意図を効果的に伝えられるプレゼンテーションができる。 ・情報を整理し、自分の意見や価値観を積極的に発信し、共有することができる。 ・論題に対し、根拠をベースに論理的に思考し、英語で相手を説得することができる。

授 業 の 形 態	クラス授業（ネイティブ教員による、アウトプットを主体とした授業）
教 科 書	なし
副 教 材	なし
評 価 の 方 法	定期考査は実施せず、平常点のみで評価する （単元テスト、課題提出、スピーチやプレゼンテーション、ディベートなどのパフォーマンス課題など）
備 考	・上記の他、オリジナル教材を使用する

高校3年 (外国語科：英語)

科 目	単位数	種 別	対象生徒	担当教諭
Academic Writing	2	必修	GL	Coslian・Grant

目 標	・高校2年時の Critical Thinking や Expression I に基づいて、より高度で国際的なテーマについて深く考え、根拠に基づいた論理的で偏りのない思考や、自己の思考・感情を意識的に振り返る内省的な思考を行う力を身につける。 ・プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート、ロールプレイ等の多様な言語活動を通して、英語を用いて意見やアイデアをやりとりするための英語運用能力を養う。 ・培ったスキルを積極的に活用し、明瞭で結束性の高い150-300語程度のエッセイやレポートを書く力を養う。 ・英語論文の一般的な構造や学術英語表現の特徴を理解し、英語論文作成のための自律的学習を行う力を養う。			
育 っ た い 力	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
	・さまざまな分野の話題に興味、関心を持ち、更に深く学ぶ意欲を持つ。 ・積極的に授業内での言語活動に参加しコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、自主的に授業外での英語学習に取り組む姿勢を身につける。	・「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の活動を通じてさまざまなトピックに関する情報や自分の意見を英語で話したり、まとめた文章で表現したりできる。	・英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解する。 ・聞いたり読んだりしたことを学習や経験に基づき、情報や考えをまとめ発表する。 ・また発表されたものを聞いて、質問したり、意見を述べたりする。	・英語やその運用についての知識を身につけるとともに、言語の背景にある文化などを理解する。 ・さまざまな分野の知識を増やし、幅広い視点で物事を考えられるようにする。

学習内容・項目	ねらい・目標
国際的な諸問題を自分事としてとらえ、周りを巻き込んで解決していく姿勢を以下の活動を通して養う。年間を通して様々なテーマに基づく単元学習を設定し、①Academic Writing、②Presentation、③Discussion、④Debateなどの活動をベースに内容についての思考を深める。 ・① Academic Writing - Basic Essay Structure Review - Compare and Contrast - Research Essay ・② Presentation - Group Presentation - Solo Presentation ・③ Discussion - Group Discussion - Panel Discussion - Triangle Discussion ・④ TOEFL Reading and Speaking Practice - Literature Analysis - Pair speaking work on TOEFL questions	◆Thinking ・身の周りにある問題や社会性のある課題に関して、論理的に思考をすることができる。 ・独自のアイデアを創ることができる。 ・物事の優劣を比較検討することができる。 ◆Reading ・日常生活での実用的な文章の要点や意図を理解できる。 ・社会性のある分野について書かれた文章の概要を把握し、その要点や意図を理解できる。 ◆Listening ・日常生活の話題や、社会性のある分野について話された一定の長さの内容・会話を聞いて、全体を把握することができる。 ◆Speaking ・日常生活の話題や、社会性のある分野について、場面や目的に応じて一定の長さで自分の意志と理由を述べることができる。 ・準備なしで即興的に発表したり、やりとりしたりすることができる。 ・読んだり聞いたりしたことを受けて、即興的に質問したり、質問に対応したりすることができる。 ◆Writing ・論理的に考え、根拠に基づいて、一貫性のある文章を書くことができる。 ・言語の使用場面と働きを理解し、状況に応じて適切な表現を正しく使うことができる ・英語による論文の書き方について学び、段落構成に関する理解を深め、アカデミックな英語論文が書けるようになる。 ◆Vocabulary ・様々な活動のなかで必要とされる表現を積極的に活用しながら、語彙を豊かにすることができる。 ◆TOEFL Reading and Speaking Practice ・短編小説の要約版を読み、TOEFLの予想に沿った分析を行う。 ・テキストや難易度の高いスピーキング問題に対して批判的な反応をする。

授 業 の 形 態	クラス授業（日本人教員とネイティブ教員による、アウトプットを主体とした授業）
教 科 書	なし
副 教 材	なし
評 価 の 方 法	定期考査は実施せず、平常点のみで評価する (単元テスト、課題提出、スピーチやプレゼンテーション、ディベートなどのパフォーマンス課題など)
備 考	・上記の他、オリジナル教材を使用する

高校3年（外国語科：英語）

科 目		単位数	種別	対象生徒	担当教諭
Critical Thinking II		2	必修	GL	Coslian・Grant・由谷
目 標	- 複数の視点から吟味し、問い、よく考える知的な営み（Critical Thinking）を通して、根拠に基づいた論理的で偏りのない思考や、自己の思考・感情を意識的に振り返る内省的な思考を行う力を身につける。 - Critical Thinking Iでの学びや習得した力を生かして、さらに高度な言語活動（プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート、ロールプレイ等）を通して、英語を用いて意見やアイデアをやりとりするための幅広い言語運用能力を伸ばす。				
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解	
育 て た い 力	- さまざまな分野の話題に興味、関心を持ち、更に深く学ぶ意欲を持つ。 - 積極的に授業内での言語活動に参加しコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、自主的に授業外での英語学習に取り組む姿勢を身につける。	「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の活動を通じてさまざまなトピックに関する情報や自分の意見を英語で話したり、まとめた文章で表現したりできる。	- 英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解する。 - 英語の論説文や物語文に慣れ、長短さまざまな英文の要旨を理解できる。 - 論点や根拠などを明確にするとともに、文章の構成や図表との関連を考える。	- 英語やその運用についての知識を身につけるとともに、言語の背景にある文化などを理解する。 - さまざまな分野の知識を増やし、幅広い視点で物事を考えられるようにする。	

学習内容・項目	ねらい・目標
年間を通して様々なテーマに基づく単元学習を設定し、以下のような活動を行うことを通して、各テーマについての思考を深める。 【単元と活動の一例】 単元名：商業捕鯨の是非 ① ディスカッション 捕鯨について異なる視点から書かれた読み物（政府刊行物、評論、新聞記事など）を読み、互いに概要を伝え合う。その後、各視点について分析したり、議論したりする。 ② グループ・プレゼンテーション ディスカッションで出たアイデアをもとにグループで解決策を提案する。 ③ ディベート 自分の立場を選び、リサーチを深め、課題解決を志向しながらアイデアを練ったうえで、データや根拠に基づいて議論する。 ④ ライティング ディベートでの学びを生かして、自分の意見を一定量の英文で書く。	◆Thinking - 社会が直面する様々な問題について、論理的に思考を深めることができる。 - 自ら問いを持ち、探究し、独自のアイデアを創ることができる。 - 情報の信頼度について検証・判断し、必要な情報を的確に獲得できる。 ◆Reading - 日常生活での実用的な文章の要点や意図を理解できる。 - 社会性のある分野について書かれた文章の概要を把握し、その要点や意図を理解できる。 - 前提や論理を疑いながら読み、自らの意見やアイデアを持つことができる。 ◆Listening - 日常生活の話題や、社会性のある分野について話された一定の長さの内容・会話を聞いて、全体を把握することができる。 - 前提や論理を疑いながら聞き、自らの意見やアイデアを持つことができる。 ◆Speaking - 日常生活の話題や、社会性のある分野について、場面や目的に応じて一定の長さで自分の意志と理由を述べることができる。 - 準備なしで即興的に発表したり、やりとりしたりすることができる。 - 読んだり聞いたりしたことを受けて、自らの意見やアイデアを不自然な間を置くことなく話すことができる。 - 読んだり聞いたりしたことを受けて、即興的に質問したり、質問に対応したりすることができる。 ◆Writing - 論理的に考え、根拠に基づいて、一貫性のある文章を書くことができる。 - 語彙や文構造に多様性を持たせた文章を書くことができる。 ◆Vocabulary - 様々な活動のなかで積極的に活用しながら、語彙を豊かにすることができる。

授 業 の 形 態	クラス授業（ネイティブ教員による、アウトプットを主体とした授業）
教 科 書	なし
副 教 材	『速読英単語①必修編必修編第7版・CD』Z会
評 価 の 方 法	定期考査は実施せず、平常点のみで評価する (語彙テスト、レポート、プロジェクト課題、プレゼンテーション、ディスカッションなど)
備 考	・上記の他、オリジナル教材を使用する

高校3年（外国語科：英語・理科）

科 目	単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
Science English II	2	必修	G L s	Green・脇田

目 標	・ Science English I で学んだ基本事項（英単語・実験技術など）をふまえ、発展的な実験を扱う。 ・ AP での課題研究での学びを英語にまとめ、SAP での英語の研究発表を行う。 ・ 日本語および英語のプレゼンテーション能力を育成し自らの研究成果を「発信」する意義や必要性を学ぶ。 ・ 大学レベルの実験レポートを書けるようになる。			
育 っ た い 力	関心・意欲・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
	・ 理数系分野の現代的課題に対して、これまでの知識や経験の中から類推したり、新たな知見を獲得したりすることを通じて、解決の糸口を根気強く探し、自分なりの解決策や行動を導き社会貢献しようとする姿勢を養う。	・ 身の周りの事象を科学的に捉え、課題設定・課題解決の道筋を見つけ出す。 ・ 協働的な学びの中で、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えることができる。	・ 実験結果や参考文献等から得られる情報・データを公平な視点から分析することができる。 ・ 「誰に・何を伝えるのか」を明確にし、研究成果をレポートやスライド等にまとめることができる。	・ 情報の集め方、文章の読み方、問いの立て方の手法を身につける。 ・ 研究テーマの決め方、課題設定の立て方の手法を身につける。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・ 発表とレポートの基礎 ・ クラス全体の実験 ・ Science English I での実験 ・ 研究テーマの決め方 ・ 仮説	・ 実験する前の段階のテーマ設定、目標、仮設を中心として、クラス全体の実験や Science English I（2年生時）の実験の発表を行う。
2 学期	・ 個人実験 ・ アブストラクト ・ 結果の分析 ・ 課題研究のレポート ・ 研究公正	・ 少人数のグループや個人の実験を行う。 ・ 結果の意味を表し方とアブストラクトの書き方を学ぶ。 ・ 課題研究のレポートを年末に提出する。 ・ 研究公正を身につける。
3 学期	課題研究発表	・ 最後の評価に大きく関わる課題研究の英語の発表を授業で行う。

授 業 の 形 態	テーマ別ゼミ（半学級）を単位とする授業／一斉授業・グループワーク・フィールドワークなど
教 科 書	なし
副 教 材	なし
評 価 の 方 法	定期考査は実施せず、平常点のみで評価する (レポート、プレゼンテーションなど)
備 考	・ 「主体的・対話的で深い学び」「総合的な探究の時間」のモデル授業として展開する ・ 講演会や学会の案内などさまざまなプロジェクトを案内し、積極的に取り組むことを奨励する ・ 図書館にある『課題研究メソッド～よりよい探究活動のために～』岡本尚也著（啓林館）を随所に活用する

高校3年（学校設定）

科 目	単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
理数選択 (コンピュータ サイエンス)	2	選択	AMs	伊藤

目 標	- 身近な生活や地域社会に役に立つアプリやゲームを設計、制作し、広く社会にリリースできる問題解決力を図る。 - 自己表現の技法のひとつとして、ゲーム制作スキルを身につけ、高次の自己表現力を図る。 - プロジェクトの進捗状況を自分で管理し、期日までに成果物を完成させるプロジェクト管理能力を図る。		
育 て たい 力	技能・表現・処理 - iPhone アプリの基礎を、Xcode を用いて学び、自分で作成できる力を伸ばす。 - オリジナルのゲーム作品の基礎を、Unity を通じて学び、自分でオリジナル作品が作成できる力を伸ばす。	知識・理解・判断 Unity および Xcode の基本操作、プログラミング言語の Swift、C# を習得し、自分の作品作りに生かす実践力を伸ばす。	関心・意欲・態度 - 自ら進んで計画的に知識の理解に努める姿勢や態度を伸ばす。 - 出来上がった作品を広く社会に役立てるようにアウトプットできる力を伸ばす。

時期	学習項目	ねらい・目標
1 学期	- Xcode でアプリ制作の基礎 - 作品制作 - 作品発表	- 自ら進んで計画的に知識の理解に努めることが出来る。 - アプリ制作、ゲーム制作を通じて、プログラミングによるデジタル表現力を伸ばす。 - 出来上がった作品を発表することで、自分の取組を可視化し、アウトプットできる力とリフレクションを通じて、スキルの向上に寄与させる。
2・3 学期	- Unity およびゲーム制作の基礎 - 作品制作 - 作品発表 - 発表会へ向けての準備	

授 業 の 形 態	実習形式
教 科 書	なし
副 教 材	- Life is Tech Mozer - Progate - GoogleClassRoom 内の各種教材
評 価 の 方 法	平常点（作品制作の完成度、プレゼンテーション、授業の取組状況など）100% 1 学期 授業内での取り組み課題（アプリ）の完成度、プレゼンテーション、成果報告など 2 学期 授業内での取り組み課題（ゲーム）の完成度、プレゼンテーション、成果報告など 3 学期 成果報告など ※定期試験は行わない。
備 考	- USB メモリ（16GB 程度、USB3.1 以上の規格）があるとよい。 - 教材費が別途発生することがある（5 千円～8 千円程度） - この授業では、必要最低限の知識及び技能を Mozer で習得します。教員からの知識伝達型の講義はほとんどありません。各自が自分に計画に従って、必要な知識や技能を自分で習得しながら作品を上げることが求められます。 - 昨年とは評価方法や評価基準が違いますので、先輩のアドバイスは参考程度にしておいてください。 - この授業は授業だけですべて完結しません。授業時間外の個々の個別学習が必要です。課外活動とのバランスを考えて受講してください。

※このシラバスは 2021 年度末の段階での案です。状況に応じて変更になる場合があります。変更の際は授業にてお知らせします。

高校3年(学校設定)

科 目	単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
文社探究Ⅱ	2	必修	AM	石黒、伊勢、井上隆、峯松

目 標	・三年間の探究活動の集大成として、個人の興味・関心および得意分野と、社会の課題とを結びつけた個人探究活動を通して、社会と接点を持ち、社会と主体的に関わっていく態度や方法を身につける。 ・多様な文献資料やデータを正確に読解し、フィールドワーク等によって得られた経験をもとに分析する力を身につける。 ・他者と議論をし、協働でプロジェクトを実行することを通して、多角的な視野から判断し、思考する力を身につける。 ・自らの考えを、信念と情熱を持って表明することのできるコミュニケーション力および文章表現能力を身につける。 ・大学進学後も継続して主体的に学び、他者と関わりながら発展的・創造的に生きていく人格を形成する。			
	意欲・関心・態度	見方・考え方	表現・言語感覚	知識・理解
育 て たい 力	・自身の興味・関心を社会課題と結びつけて問題解決に向かう態度 ・異なる分野の学びや経験を関連させて考える態度	・情報を正確に読解・分析する力 ・多角的に判断・思考する力 ・他者と話し合い、相乗的に思考を広げる力	・探究活動を正確に記録し自身の考えを表明することのできる語彙力・文章力 ・論理的・親和的に議論できる対話力	・興味・関心から社会課題や学術的な内容まで、幅広く深い知識の獲得

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・文社探究Ⅰの成果まとめ・リフレクション 4000 字程度の報告レポートの提出 ・探究主題・探究分野・探究方針の表明 ・興味・関心と社会の課題を繋げるには ・自分を見つめる「自画像」ワーク ・言語技術の習得 ・定義づけ・文献の引用／出典・検索技術 ・主題の定義づけのための読書ピース作成 ・個人フィールドワークの実践・記録 ・取材交渉・取材依頼文作成・送付	・文社探究Ⅰにおいて、グループ単位で取り組んだプロジェクトの経過をまとめ、成果を振り返ることを通して、今後の探究活動の見通しを持つ。 ・自分自身の興味や関心、得意分野を具体化する。 ・自己を見つめることを通して、探究テーマをより主体的に決定する契機とするとともに、他者理解、共感・協働の場づくりを行う。 ・探究テーマについてより深く理解するために、文献調査をして用語を厳密に定義することを通して、第一次資料としての文献資料の重要性を理解し、文献調査の手法を身につけ、論文執筆の礎とする。 ・個人で社会調査の実践を行うことを通して、協働できる他者と出会い、具体的な探究活動についての方針を定める。
2 学期	・フィールドワーク報告会の実施 ・5000 字程度の報告レポートの提出 ・探究主題の見直し・探究活動案・探究方法決定 ・中間報告会 ・探究ポートフォリオのタイトル確定 ・個人探究活動の実施 ・論文デザイン ・12000 字程度の探究ポートフォリオの執筆 ・外部コンテスト・アワードへの出品	・個人で得た経験を共有し、互いに啓発し合う中で、探究活動に対する意欲をさらに高めるとともに、調査記録の重要性を理解する。 ・フィールドワークを経て課題が具体化することを受けて、探究主題を修正し、プロジェクトの実践を進める。 ・互いに発表し合う中で、プレゼンテーション能力や質問力を養う。 ・社会と繋がる探究活動としての制作・発表・企画・論文執筆等を実践し、成果を記録・共有する。 ・これまでの読書ピースや報告書・各種レポート、そして探究活動の実践記録をまとめ、情報の取捨選択をして、論文としての体裁を整える。
3 学期	・探究ポートフォリオの推敲 ・パスファインダー（手引書）の作成 ・探究成果発表会 ・GPS-Academic による成果確認	・後の学び手にとっての資料となり、アーカイブとして残していく価値のある探究記録を作成する。 ・互いの探究活動について共有し、卒業後の進路や発展的課題について考察する。

授 業 の 形 態	合同授業／クラス別授業を並行して展開する。グループワーク・ペアワークなども適宜取り入れる。
教 科 書	特に設定しない。
副 教 材	新聞などの時事資料、関連分野の書籍など、展開の中で適宜用いる。
評 価 の 方 法	平常点 100%（探究記録の評価を含める。提出課題・探究活動の取り組み・GPS-Academic スコア等）
備 考	・評価においては、文章／記録よりも、実践／行動の評価を主とする。探究ポートフォリオおよび探究成果発表会の評価を 3 学期評価とする。

高校 3 年（学校設定）

科 目	単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
理数探究Ⅱ	2	必修	AMs	澤田・藤田・宮嶋・大井

目 標	・Thinking Design や理数探究Ⅰで習得した基本的な情報の集め方・データの処理の仕方などを応用し、探究活動の土台となる情報処理能力・情報収集力・文章読解力・批判的思考力を養い、最終的に「研究要旨」作成を目指す。 ・観察→課題発見→仮説設定→実験→結果分析→考察の反復を通して、思考力の育成を行う。探究プロセスの中で自ら立てた問い（課題）に対して根気強く向き合いながら、自己の成長を客観視（メタ認知）するとともに、持続可能な社会づくりに貢献しようとする態度を養う。 ・プレゼンテーション能力の育成を行い自らの研究成果を「発信」する意義や必要性を学ぶ。			
	関心・意欲・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
育 て た い 力	・理数系分野の現代的課題に対して、これまでの知識や経験の中から類推をしたり、新たな知見を獲得したりすることなどを通じて、解決の糸口を根気強く探し、自分なりの解決策や行動を導き社会貢献しようとする姿勢を養う。	・身の周りの事象を科学的に捉え、課題設定・課題解決の道筋を見つけ出す。 ・協働的な学びの中で、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えることができる。	・実験結果や参考文献等から得られる情報・データを公平な視点から分析することができる。 ・「誰に・何を伝えるのか」を明確にし、研究成果をレポートやスライド等にまとめることができる。	・情報の集め方、文章の読み方、問いの立て方の手法を身につける。 ・研究テーマの決め方、課題設定の立て方の手法を身につける。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・探究テーマおよび1学期中の活動計画の整理 ・活動計画についての教員面談(4月中) ・探究活動の実施 ・探究テーマおよび予備実験などの成果発表会の実施(期末考査前後) ・夏季休暇中および2学期前半の活動計画の整理	・研究計画の見直しや再設定を通して自分たちの研究の位置付けや意義などを理解する。 ・実験及び探究活動を行う中で、考察および新たな問いを立てることができるようになる。 ・担当教員に定期的に発表し、研究の進捗状況を確認する。 ・他の生徒の研究についても興味関心を持ち、自分の研究に役立て、今後に生かす。
2 学期	・探究活動の実施 ・中間成果発表会の実施(10月上旬ごろ) ・学年末までの活動計画の整理	
3 学期	・最終成果発表会 (12月中旬) ・SAP や理系探究アワード (理系学部) に向けての準備 (ポスター作成など)	・プレゼンテーションの技法などを学び、積極的に質問する姿勢や態度を身につける。

授 業 の 形 態	探究単位ごとの活動（実験室での活動や野外での活動） / 発表会の運営などのグループワーク
教 科 書	なし
副 教 材	スーパーサイエンスハイスクール「SSH 研究活動」課題研究作品集
評 価 の 方 法	活動計画書や活動報告書、成果発表、発表要旨、論文などを総合的に判断する。定期考査は実施しない。 ルーブリック評価を示し、生徒の到達目標を具体化する。 1 学期：2 学期：3 学期 = 1：1：1
備 考	・「主体的・対話的で深い学び」「総合的な探究の時間」のモデル授業として展開する。 ・立命館大学の研究サークルの学生と連携し、研究活動を進める。 ・講演会や学会の案内などさまざまなプロジェクトを案内するので、積極的に取り組むことを奨励する。 ・立命館大学・京都大学や各研究所が主催するイベントや「SSH 生徒研究発表会」、「水環境ワークショップ」への参加を奨励する。

高校 3 年 （学校設定）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
グローバル AP I ・ II	2 + 2	必修	GL	太田・田辺・八反

目 標	・社会課題解決のためのプロジェクト（マイプロジェクト）を探究論文(約 10,000～12,000 字)としてまとめる。 ・それぞれのプロジェクトをビジネスコンテスト、ボランティア活動表彰、論文コンクール等の外部コンテスト・アワードを各自でみつけて全員が応募し、成果を学外に広く発信する。 ・大学進学後も自分の研究テーマを継続したり、ソーシャルビジネスを立ち上げたりするようなスキルと意欲を養い、持続可能な社会の構築に貢献する「地球市民」となる。			
育 っ て い た い 力	意欲・関心・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
	・教学理念「平和と民主主義」を自覚し、それを具現化しようとする姿勢を身につけることができる。 ・学生起業家・イノベーター・研究者など、あらゆる形でSDGsの達成に向けた社会の担い手になろうとする姿勢を身につけることができる。	・身の周りの社会問題を科学的に捉え、課題設定・課題解決の道筋を見つけて出すことができる。 ・協働的な学びの中で思考の過程を振り返り、多面的・発展的に考えることができる。	・発表レジュメや論文など、自分たちの研究を「文字化」し、論理的にまとめることができる。 ・ICTを用いたプレゼンテーションなど、オーディエンスにとってわかりやすい形で自分たちの研究成果を報告することができる。	・自分の研究テーマに関連する社会（世界）の現状と課題について説明することができる。 ・社会とのコミュニケーションに必要なマナーや礼儀作法等を理解する。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	API（高大ゼミ） ・指定テキストを用いた文献講読を行う。毎時間、一つのテーマについて取り上げる。 ・学期内に 1 回の発表を行う。読んだ文献と自分の探究テーマの関連する部分を指摘し（個人）、今回の講読が自分の研究にどう関係するかを述べる。 APIII（課題研究） ・APIでの助言等を元に、個人の探究活動＝プロジェクトを進める。毎時間の進捗状況について、レポート報告を求める。 ・学期内に 2 名以上の学外者とコンタクトを取ること（フィールドワーク：FW）を必須課題とする。	・SDGs に関連した社会課題について、学術的な知識を身につける。 ・授業担当者（大学教員含む）から得たフィードバックをもとに、多面的・多角的な視野を持ち、プロジェクトをブラッシュアップする。 ・インターネットや著書から得られる知識のみならず、さまざまな現場で活動する人たちと積極的に交流する中で、プロジェクトをより実現可能なものとして進めていく。
2 学期	API ・プロジェクトの進捗状況について、レジュメで発表を行う。 ・進捗報告の後、大学教員からのミニ講義を行う。 APIII ・前半は 1 学期と同様のシステムとし、この間 1 回以上の FW を実施する。後半は、探究論文を個人でまとめる。 ・自身のプロジェクトを学外コンテストに出品する。	・各自の探究活動に目処をつける。 ・発表レジュメや論文など、自の探究活動を論理的にまとめる。 ・学外コンテストに出品し、自分の探究活動の社会的評価を測る。
3 学期	API ・外部講師を招くなどして、大学での学びを意識した特別授業を行う。英語での活動も含む。 APIII ・探究論文及び論文サマリーを完成させる。 ・優秀プロジェクトによる成果報告会を実施する。学園関係者にも広く発信する。	・オーディエンスが理解しやすい形で自分たちの研究成果を報告する。 ・様々な立場の人との意見交換を通じて、大学進学後のビジョンをより明確にする。

授 業 の 形 態	API：ゼミ授業・講義形式 / APII：個人探究活動（FW、レジュメ作成等）
教 科 書	なし
副 教 材	田中治彦他『SDGs と開発教育：持続可能な開発目標のための学び』学文社、2016
評 価 の 方 法	平常点 100% （レジュメ、発表、進捗報告、探究論文など） 学期間の評価割合 1 学期：2 学期：3 学期 API 4：5：1 / APII 3：3：4
備 考	・立命館学園の進める「社会起業家育成プログラム」の一環と位置付け、山中司教授（生命科学部）、廣野美和准教授（グローバル教養学部）の協力により実施する。 ・授業は終日衣笠キャンパスで実施する。コロナ情勢によっては、守山での実施となる可能性もある。

高校 3 年（学校設定）

科 目	単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
サイエンス AP I・II	2 + 2	必修	GL s	齋藤孝、舘野、水野、八木良、脇田

目 標	・Thinking Design や理数探究 I で習得した基本的な、情報の集め方・データの処理の仕方などを応用し、探究活動の土台となる情報処理能力・情報収集力・文章読解力・批判的思考力を養い、最終的に年度末の探究活動成果発表会での発表を目指す。 ・観察→課題を持つ→仮説設定→実験→結果分析→考察の反復を通して、思考力の育成を行う。探究プロセスの中で自ら立てた問いに対して根気強く向き合いながら、自己の成長を客観視（メタ認知）するとともに、持続可能な社会づくりに貢献しようとする態度を養う。 ・プレゼンテーション能力の育成を行い自らの研究成果を「発信」する意義や必要性を学ぶ。 ・AP I では座学を中心に展開し、大学の「ゼミ形式」を意識し、自分の研究テーマの進捗状況などのディスカッションを行い、研究に必要な知識の育成や課題発見能力の育成を目的とする。 AP II では実習を中心にを行い、研究をさらに進めていく。 ・AP I および AP II を通して、大学での学びを理解し、将来を見据えたキャリア教育に役立てる。			
	関心・意欲・態度	見方・考え方	表現・処理	知識・理解
育 て たい 力	・理数系分野の現代的課題に対して、これまでの知識や経験の中から類推したり、新たな知見を獲得したりすることなどを通じて、解決の糸口を根気強く探し、自分なりの解決策や行動を導き社会貢献しようとする姿勢を養う。	・身の周りの事象を科学的に捉え、課題設定・課題解決の道筋を見つけ出す。 ・協働的な学びの中で、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えることができる。	・実験結果や参考文献等から得られる情報・データを公平な視点から分析することができる。 ・「誰に・何を伝えるのか」を明確にし、研究成果をレポートやスライド等にまとめることができる。	・情報の集め方、文章の読み方、問いの立て方の手法を身につける。 ・研究テーマの決め方、課題設定の立て方の手法を身につける。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	AP I : 連携学部とミニレクチャーを通した研究室紹介（可能な場合、BKC にて研究室訪問・施設見学も含む） AP II : 探究活動	・探究姿勢の育成とともに、各学部からの発表に対しても積極的に質疑させ、知識の幅を広げる。
2 学期	AP I : 超創生とのゼミ形式による座学・講義中心授業（民間企業との交流なども含む） AP II : 探究活動、大学の先生招聘の元で中間発表	・AP I の学びをもとに、大学院生や民間企業や行政との交流を通して、実演実習を展開し、課題解決能力の向上を目指す。 ・探究活動について、クラス内および各学部に向けて、自分たちがそれまで研究内容について調べてきたことを発表する。
3 学期	・最終成果発表会や課題研究アワードに向けての準備（口頭発表、ポスター発表準備など）	・プレゼンテーションの技法などを学び、積極的に質問する姿勢や態度を身につける。

授 業 の 形 態	テーマ別ゼミ（半学級）を単位とする授業／一斉授業・グループワーク・フィールドワークなど
教 科 書	なし
副 教 材	なし
評 価 の 方 法	各テーマのワークシート・成果物・議論・発表等、論文などを総合的に判断する。定期考査は実施しない。 「SAP におけるポスター発表」を単位習得の必須条件とする。ルーブリック評価を示し、生徒の到達目標を定量化する。AP I・II ともに学期間の評価割合 1 学期：2 学期：3 学期＝1：1：1
備 考	・理系 5 学部および大学院と連携を取りながら BKC にて実施予定。新型コロナの影響が出ていた場合、その時の状況に合わせて適宜対応する。 ・「主体的・対話的で深い学び」「総合的な探究の時間」のモデル授業として展開する。年間を通して、講演会や校外研修などさまざまなプロジェクトを案内するので、積極的に取り組むことを奨励する。図書館にある『課題研究メソッド～よりよい探究活動のために～』岡本尚也著（啓林館）を随所に活用する。